延岡市文化財報告書　第44集

上田下遺跡

（かみたしたいせき）

新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

延岡市教育委員会

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町上田下地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大級の電気化学工業集積地となっています。また、近世延岡藩の城下町としても繁栄を遂げ、教育文化・産業経済のけん引役を担っています。

近年は、市民参加による「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」などの開催をはじめ、九州保健福祉大学の開学や国道10号延岡道路及び国道218号北方延岡道路の部分開通など大きな変革を迎えています。さらに、市有面積としては九州内で二番目の規模をもつ都市となり、伝承芸能や農林水産資源などが融合する活気あるまちづくりに歩みだしているところです。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、新最終処分場建設室、笠下区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成２３年３月

延岡市教育委員会
教育長　　町　田　訓　久

例　言

1．本書は、平成２２年度上田下地区新最終処分場建設事業に伴い新最終処分場建設室の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2．調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同文化課文化財係専門員 小野信彦、主任主事 尾方農一が担当した。
3．本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、発掘調査及び整理作業員の協力のもと小野信彦、尾方農一が行なった。
4．現場及び遺物の写真撮影は、小野・尾方が行った。空中写真の撮影は、九州航空（株）が行った。
5．方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海抜高である。
6．本書の執筆は小野・尾方が行い、編集は小野があたった。
7．本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。
8．出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　次

Ⅰ　はじめに
1．調査に至る経緯…… 1
2．調査の組織…… 1
3．位置と歴史的環境…… 1
Ⅱ　調査の内容
1．調査の概要…… 6
2．基本層序…… 6
3．1区の調査…… 8
4．2～4区の調査……81
Ⅲ　おわりに…… 97
報告書抄録…… 98

挿図・表・写真目次

番号	内　容	頁	番号	内　容	頁
1	上田下遺跡周辺航空写真（南から）		53	6号竪穴住居跡出土遺物実測図②（S = 1/3、2/3）	51
2	延岡市北方町遺跡分布図（S = 1/100,000）	3	54	7号竪穴住居跡実測図（S = 1/40）	52
3	延岡市北方町遺跡一覧表	4	55	7号竪穴住居跡出土遺物実測図（S = 1/3、2/3）	53
4	上田下遺跡周辺地形図（S = 1/20,000）	5	56	8号竪穴住居跡実測図（S = 1/40）	54
5	調査区位置図（S = 1/5,000）	7	57	8号竪穴住居跡出土遺物実測図（S = 1/3）	55
6	土層写真（1－C区中央部：南西より）	8	58	9号竪穴住居跡及出土遺物実測図①（S = 1/3、1/40）	56
7	土層図（1－A区西壁：S = 1/40）	8	59	9号竪穴住居跡出土遺物実測図②（S = 1/3、1/4）	57
8	土層図（1－C区中央部：S = 1/40）	9	60	10号竪穴住居跡実測図（S = 1/40）	58
9	1区検出遺構一覧表	10	61	10号竪穴住居跡出土遺物実測図（S = 1/1、1/3、2/3）	59
10	自然科学分析一覧表	10	62	弥生・古墳時代出土遺物実測図①（S = 1/3）	60
11	1区遺構配置図（S = 1/500）	11・12	63	弥生・古墳時代出土遺物実測図②（S = 1/3）	61
12	1区空中写真	13	64	中・近世出土遺物実測図（S = 1/3）	62
13	旧石器時代出土遺物実測図①（S = 1/3）	14	65	1号土坑実測図（S = 1/40）	63
14	旧石器時代出土遺物実測図②（S = 1/3）	15	66	2号・3号土坑実測図（S = 1/20）	64
15	縄文時代早期集石遺構実測図（S = 1/20）	16	67	4号・5号土坑実測図（S = 1/20）	65
16	縄文時代早期出土遺物実測図（S = 1/3）	17	68	7号土坑実測図及出土遺物実測図（S = 1/3、1/20）	66
17	縄文時代前期～後期出土遺物実測図（S = 1/3）	18	69	8号土坑実測図（S = 1/20）	67
18	縄文時代晩期6号土坑実測図（S = 1/20）	19	70	1号不明遺構実測図及出土遺物実測図（S = 1/3、1/20）	68
19	縄文時代晩期9号土坑実測図（S = 1/20）	20	71	1号建物実測図（S = 1/40）	69
20	縄文時代晩期土坑内出土遺物実測図（S = 1/3）	21	72	C区溝状遺構検出状況（北より）	70
21	縄文時代出土遺物（土器）実測図①（S = 1/3）	22	73	C区溝状遺構検出状況（北より）	70
22	縄文時代出土遺物（土器）実測図②（S = 1/3）	23	74	その他の出土遺物実測図①（S = 1/3）	70
23	縄文時代出土遺物（土器）実測図③（S = 1/3）	24	75	その他の出土遺物実測図②（S = 1/3）	71
24	縄文時代出土遺物（土器）実測図④（S = 1/3）	25	76	その他の出土遺物実測図③（S = 1/4）	72
25	縄文時代出土遺物（土器）実測図⑤（S = 1/3）	26	77	出土遺物観察表①	73
26	縄文時代出土遺物（土器）実測図⑥（S = 1/3）	27	78	出土遺物観察表②	74
27	縄文時代出土遺物（土器）実測図⑦（S = 1/3）	28	79	出土遺物観察表③	75
28	縄文時代出土遺物（土器）実測図⑧（S = 1/3）	29	80	出土遺物観察表④	76
29	縄文時代出土遺物（土器）実測図⑨（S = 1/3）	30	81	出土遺物観察表⑤	77
30	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑩（S = 1/3、2/3）	31	82	出土遺物観察表⑥	78
31	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑪（S = 1/3）	32	83	出土遺物観察表⑦	79
32	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑫（S = 1/3）	33	84	出土遺物観察表⑧	80
33	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑬（S = 1/3、1/4）	34	85	上田下遺跡2区調査区配置図（S = 1/800）	82
34	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑭（S = 1/3）	35	86	上田下遺跡3区調査区配置図（S = 1/800）	84
35	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑮（S = 1/3）	36	87	上田下遺跡4区調査区配置図（S = 1/800）	85
36	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑯（S = 1/3）	37	88	植物珪酸体化石組成表	86
37	縄文時代出土遺物（石器）実測図⑰（S = 1/3、1/4）	38	89	上田下遺跡2～4区柱状図（S = 1/40）	86
38	1号竪穴住居跡実測図（S = 1/40）	39	90	上田下遺跡周辺航空写真(昭和23年米軍撮影)	87
39	1号竪穴住居跡出土遺物実測図（S = 1/3）	40	91	発掘体験学習	87
40	出土遺物写真（玉類）	40	92	土壌篩い作業	87
41	出土遺物写真（鉄器類）	40	93	1号集石遺構（北から）	88
42	2号竪穴住居跡及出土遺物実測図①（S = 1/3、1/4、1/40））	41	94	2号集石遺構（北から）	88
43	2号竪穴住居跡出土遺物実測図②（S = 1/3、2/3、1/4）	42	95	1号竪穴住居跡（北から）	88
44	3号竪穴住居跡及出土遺物実測図①（S = 1/1、1/3、1/40）	43	96	2号竪穴住居跡（北から）	88
45	4号竪穴住居跡実測図（S = 1/80）	44	97	3号竪穴住居跡（南から）	88
46	4号竪穴住居跡出土遺物実測図①（S = 1/3）	45	98	4号竪穴住居跡（東から）	88
47	4号竪穴住居跡出土遺物実測図②（S = 1/3、1/4）	46	99	5号竪穴住居跡（東から）	88
48	4号竪穴住居跡出土遺物実測図③（S = 1/3、1/4）	47	100	6号竪穴住居跡（東から）	88
49	4号竪穴住居跡出土遺物実測図④（S = 1/1、2/3）	48	101	7号竪穴住居跡（西から）	89
50	5号竪穴住居跡及出土遺物実測図（S = 1/3、1/40）	48	102	8号竪穴住居跡（東から）	89
51	6号竪穴住居跡実測図（S = 1/40）	49	103	9号竪穴住居跡（東から）	89
52	6号竪穴住居跡出土遺物実測図①（S = 1/3）	50	104	10号竪穴住居跡（西から）	89

番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
105	1号土坑（北から）	89	129	出土遺物写真（288～300）	92
106	2号土坑（東から）	89	130	出土遺物写真（301～314）	92
107	3号土坑（西から）	89	131	出土遺物写真（315～327）	92
108	4号土坑（西から）	89	132	出土遺物写真（328～343）	92
109	5号土坑（北東から）	90	133	出土遺物写真（344～346）	93
110	6号土坑（東から）	90	134	出土遺物写真（347～355）	93
111	7号土坑（南西から）	90	135	出土遺物写真（356～363）	93
112	8号土坑（東から）	90	136	出土遺物写真（365～377）	93
113	9号土坑（西から）	90	137	出土遺物写真（378～385）	93
114	1号不明遺構（北東から）	90	138	出土遺物写真（394～402）	93
115	1号建物（北東から）	90	139	出土遺物写真（403～417）	93
116	出土遺物写真（1～13）	90	140	出土遺物写真（422～448）	93
117	出土遺物写真（14～27）	91	141	出土遺物写真（449～463）	94
118	出土遺物写真（28～40）	91	142	出土遺物写真（464～478）	94
119	出土遺物写真（41～54）	91	143	出土遺物写真（479～512）	94
120	出土遺物写真（55～83）	91	144	出土遺物写真（513～535）	94
121	出土遺物写真（84～104）	91	145	出土遺物写真（536～554）	94
122	出土遺物写真（105～132）	91	146	出土遺物写真（555～573）	94
123	出土遺物写真（133～146）	91	147	出土遺物写真（574～575）	94
124	出土遺物写真（147～169）	91	148	遺物出土状況（A区Ⅵ層：北から）	94
125	出土遺物写真（170～196）	92	149	上田下遺跡航空写真（西から）	95
126	出土遺物写真（197～229）	92	150	上田下遺跡2区空中写真	95
127	出土遺物写真（230～265）	92	151	上田下遺跡3区空中写真	96
128	出土遺物写真（266～287）	92	152	上田下遺跡4区空中写真	96

1.上田下遺跡周辺航空写真（南から）

Ⅰ．はじめに

1．調査に至る経緯

延岡市では、昭和55年5月から供用を開始した最終処分場の埋立て残余容量が残り少なくなってきたことから、新たに北方町笠下地区に新最終処分場建設事業を計画し、工事予定地内の埋蔵文化財についての照会を、平成20年2月4日付けで延岡市教育委員会に行った。工事予定地内の確認調査を行なった結果、遺跡と判断された。その後協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は平成21年8月27日から平成22年3月31日にかけて実施し、引き続き整理作業を行った。報告書作成作業は平成22年5月24日から実施した。

2．調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体　延岡市教育委員会

教育長	町田　訓久
教育部長	笠江　孝一（平成21年度）
	甲斐　享博（平成22年度）
文化課長	渡邊　博吏（平成21年度）
	大島紀世子（平成22年度）
文化課課長補佐	大島紀世子（平成21年度）
	伊東　　優（平成22年度）
文化課文化財係長	山田　　聡

庶務担当	文化課文化振興係主任主事	松岡　直子
調査担当	文化課文化財係専門員	小野　信彦
	文化課文化財係主任主事	尾方　農一
調査指導	宮崎県文化財課	
調査協力	宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位	

3．位置と歴史的環境

上田下遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000ｍ級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や曽木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

上田下遺跡の東には、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ半船底型細石核と隆帯上に爪形文を施した土器が共伴して出土した岩土原遺跡がある。また、南には笠下（ゴルフ場）遺跡がありナイフ形石器や剥片尖頭器が出土している。この外に、五ヶ瀬川上流にはAT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で早期の押型文土器・集石遺構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟Ｂ式土器・曽畑土器等が、中期では笠下下原遺跡等で船元式土器が出土している。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付Ⅱ式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、矢野原遺跡、打扇遺跡、蔵田遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石棺が殿上、矢野原、駄小屋、後曽木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

古代では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、蔵田城や仲畑城があるが、笠下遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明銭等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

江戸時代から明治期にかけて、北方地区では日平鉱山をはじめ猿渡鉱山、槇峰鉱山等の鉱山開発が積極的に行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの槇峰鉱山は、明治33年（1900）以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは、北方地区の生活基盤の底上げを行い、経済効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあった。

昭和42年（1967）に鉱山が閉山すると産業構造も大きく変化し人口も大きく減少した。このため、農林業の振興の他、国指定名勝である比叡山・矢筈岳や鹿川渓谷等の自然遺産や人工芝スキー場・風力発電を備えた総合レジャー施設ＥＴＯランド等の観光資源を活かした地域づくりを積極的に推し進めている。

引用・参考文献

・田中茂『東臼杵郡北方村先史遺物地名録』北方村教育委員会　昭和34年（1959）
・田中茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会　昭和37年（1962）
・鈴木重治「本邦における土器起源に関する研究－岩土原遺跡の調査を中心に」
『南九州大学園芸学部研究報告』第3号・別刷　南九州大学園芸学部　昭和45年（1973）
・北方町史編纂委員会『北方町史』北方町役場　昭和47年（1972）
・角川書店『角川　日本地名大辞典』45宮崎県　昭和61年（1986）
・北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書１』昭和61年（1986）
・北方町文化財保護審議会『北方町の古跡を訪ねて』　平成元年（1989）
・宮崎県『宮崎県史』資料編考古１　ぎょうせい　平成元年（1989）
・宮崎県『宮崎県史』資料編考古２　ぎょうせい　平成5年（1993）
・北方町教育委員会『槇峰鉱山史』（1992）『宮崎県史』史料編近世３　ぎょうせい　平成4年
・宮崎県教育委員会「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」『一般国道218号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』平成7年（1995）
・平凡社『宮崎県の地名』－日本歴史地名体系46巻　平成9年（1997）
・北方町『日本唯一干支の町　北方町の文化財』　平成10年（1998）
・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ』　平成10年（1998）
・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』　平成11年（1999）
・北方町史第2巻編纂委員会『北方町史第2巻』北方町役場　平成11年（1999）
・延岡市教育委員会『延岡市の文化財』　平成13年（2001）
・北方町教育委員会「町内遺跡詳細分布調査報告書」『北方町文化財報告書』23　平成16年（2004）

2.延岡市北方町遺跡分布図(S=1/100,000)

番号	名　称	所在地	種　別	時　代	備　考
1	上鹿川東の内遺跡	上鹿川（東の内）申	散布地	縄文～近世	一部日之影町へ分布が広がる
2	比叡山	菅原未	国指定史跡		日之影町矢筈岳と合わせて指定
3	菅原洞穴・菅原遺跡	菅原未	散布地・洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和４１年南九州短大により調査
4	槇峰遺跡	槇峰未	散布地	縄文～近代	鉱山跡
5	美々地遺跡	美々地未	散布地	縄文～中世	中世山城の可能性
6	三ヶ村桑の木遺跡	三ヶ村（桑の木）午	散布地	中世～近世	備前焼のすり鉢と多量の古銭が出土
7	三ヶ村内の口遺跡	三ヶ村（内の口）午	散布地	中世～近世	
8	上中尾遺跡	藤の木（上中尾）酉	散布地	中世～近世	和鏡５面と明銭２枚が出土
9	大保下遺跡	板上（大保下）亥	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	板上（石上）亥	散布地	中世～近世	
11	二股上遺跡	二股（二股上）戌	散布地	中世～近世	
12	唐立遺跡	二股（唐立）戌	散布地	中世～近世	
13	樫原遺跡	二股（樫原）戌	散布地	縄文～中世	平成４年確認調査、一部消滅
14	屋形原遺跡	板下（屋形原）戌	散布地	縄文～中世	
15	板ヶ平遺跡	板下（板ヶ平）戌	散布地	縄文～中世	
16	小原遺跡	板下（小原）戌	集落跡	縄文～中世	平成５年確認調査、一部消滅
17	藤の木桑水流遺跡	藤の木（桑水流）酉	集落跡	縄文～中世	平成５年確認調査、一部消滅
18	尾払遺跡	八峡（尾払）午	散布地	中世～近世	
19	八峡遺跡	八峡午	集落跡	弥生～近世	一部消滅
20	松舟遺跡	八峡（松舟）午	散布地	中世～近世	
21	椎畑遺跡	椎畑未	散布地	縄文～近世	多木遺跡（旧名）を変更
22	城遺跡	早上（城）巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
23	久保遺跡	早上（久保）巳	散布地	縄文～近世	
24	荒平遺跡	早上（荒平）巳	散布地	縄文～近世	
25	打扇遺跡	早中（打扇）巳	集落跡	旧石器～近世	平成２年～１２年調査、一部保存
26	早日渡遺跡	早日渡巳	集落跡	旧石器～近世	平成２年～１２年調査、一部保存
27	矢野原遺跡	蔵田（矢野原）辰	集落跡	旧石器～近世	平成５年調査、一部消滅
28	蔵田遺跡	蔵田辰	集落跡	旧石器～近世	昭和６２年～平成５年調査、一部消滅
29	蔵田城	蔵田辰	中世山城	中世	堀等が良好に残る
30	駄小屋遺跡	蔵田（駄小屋）辰	散布地	旧石器～近世	
31	地山遺跡	蔵田（地山）辰	散布地	縄文～近世	平成９年調査、一部消滅
32	殿上遺跡	蔵田（戸の上）辰	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
33	上崎地区遺跡	蔵田（上崎）辰	集落跡	旧石器～近世	平成１２年度～１９年度まで調査、一部消滅
34	船木谷遺跡	獺越（船木谷）子	散布地	縄文～近世	
35	獺越遺跡	獺越子	散布地	縄文～近世	
36	川水流遺跡	川水流卯	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
37	東原遺跡	川水流（東原）卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
38	南久保山小堀町遺跡	南久保山（小堀町）子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
39	十朗ヶ尾遺跡	南久保山（十朗ヶ尾）子	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	曽木（柳瀬）子	散布地	縄文～近世	
41	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	一部消滅
42	猪渡遺跡	獺越（猪渡）子	集落跡	縄文～近世	一部消滅
43	上畑遺跡	獺越（上畑）子	散布地・中世山城	縄文～中世	西南戦争時に再利用
44	仲畑城跡	獺越（仲畑）子	中世山城	中世	堀等が残る
45	仲畑遺跡	獺越（仲畑）子	散布地	縄文～近世	
46	壱丁鐘遺跡	曽木（壱丁鐘）子	石棺群	古墳	県指定北方村古墳１号墳
47	後曽木遺跡	曽木（後曽木）子	散布地・石棺群	古墳	県指定北方村古墳３号墳
48	笹原遺跡	曽木（笹原）子	散布地	縄文～近世	
49	荒谷遺跡	曽木（荒谷）子	散布地	縄文～近世	
50	曽木原遺跡	曽木（曽木原）子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
51	深谷遺跡	曽木（深谷）子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
52	古城遺跡	曽木（古城）子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
53	中野遺跡	曽木（中野）子	散布地	縄文～近世	一部消滅
54	黒仁田遺跡	曽木（黒仁田）子	散布地	縄文～近世	一部消滅
55	権現原遺跡	角田（権現原）丑	散布地	縄文～近世	一部消滅
56	角田遺跡	角田丑	散布地・中世山城	縄文～近世	上屋敷、下屋敷、垣内などの地名が残る
57	角田上ノ原遺跡	角田（上ノ原）丑	散布地	縄文～近世	
58	足鍋遺跡	角田（足鍋）丑	散布地	縄文～近世	
59	下崎遺跡	角田（下崎）丑	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	川水流（中山）卯	散布地	縄文～近世	消滅
61	上田下遺跡	笠下（上田下）寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
62	岩土北平遺跡	笠下（岩土北平）寅	散布地	旧石器～近世	
63	岩土原遺跡	笠下（岩土原）寅	散布地	旧石器～近世	昭和４４年南九州短期大学により調査
64	笠下遺跡	笠下寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
65	松尾原遺跡	笠下（松尾原）寅	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	笠下（藤ノ木谷）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
67	伊木原遺跡	笠下（伊木原）寅	散布地	旧石器～近世	
68	炭ノ越遺跡	笠下（炭ノ越）寅	散布地	旧石器～近世	
69	笠下下原遺跡	笠下（下タノ原）寅	集落跡	旧石器～近世	下原は通称名
70	笠下黒原遺跡	笠下（黒原）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
71	笠下山口原遺跡	笠下（山口原）寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
72	笠下ゴルフ場遺跡	笠下（塩田　外）寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

３.延岡市北方町遺跡一覧表

4.上田下遺跡周辺地形図(S=1/20,000)

Ⅱ．調査の内容

１．調査の概要

今回の新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査では、確認調査により遺構・遺物が確認された１～４区の本調査を行った。１区は標高70～80ｍの台地上に位置し、縄文時代早期の集石遺構２基、縄文時代晩期の土坑２基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡１０軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面等で検出した。

細長い谷部にあたる２区から４区は、１区との比高差が２区で20ｍ、４区で40ｍを測る。確認調査でチャート製の剥片や砂岩製の礫器が出土したが、本調査では例年以上の雨のために、調査区の壁土の崩壊防止と作業の安全を考慮して、各区ともに面調査ではなくトレンチ調査を行った。

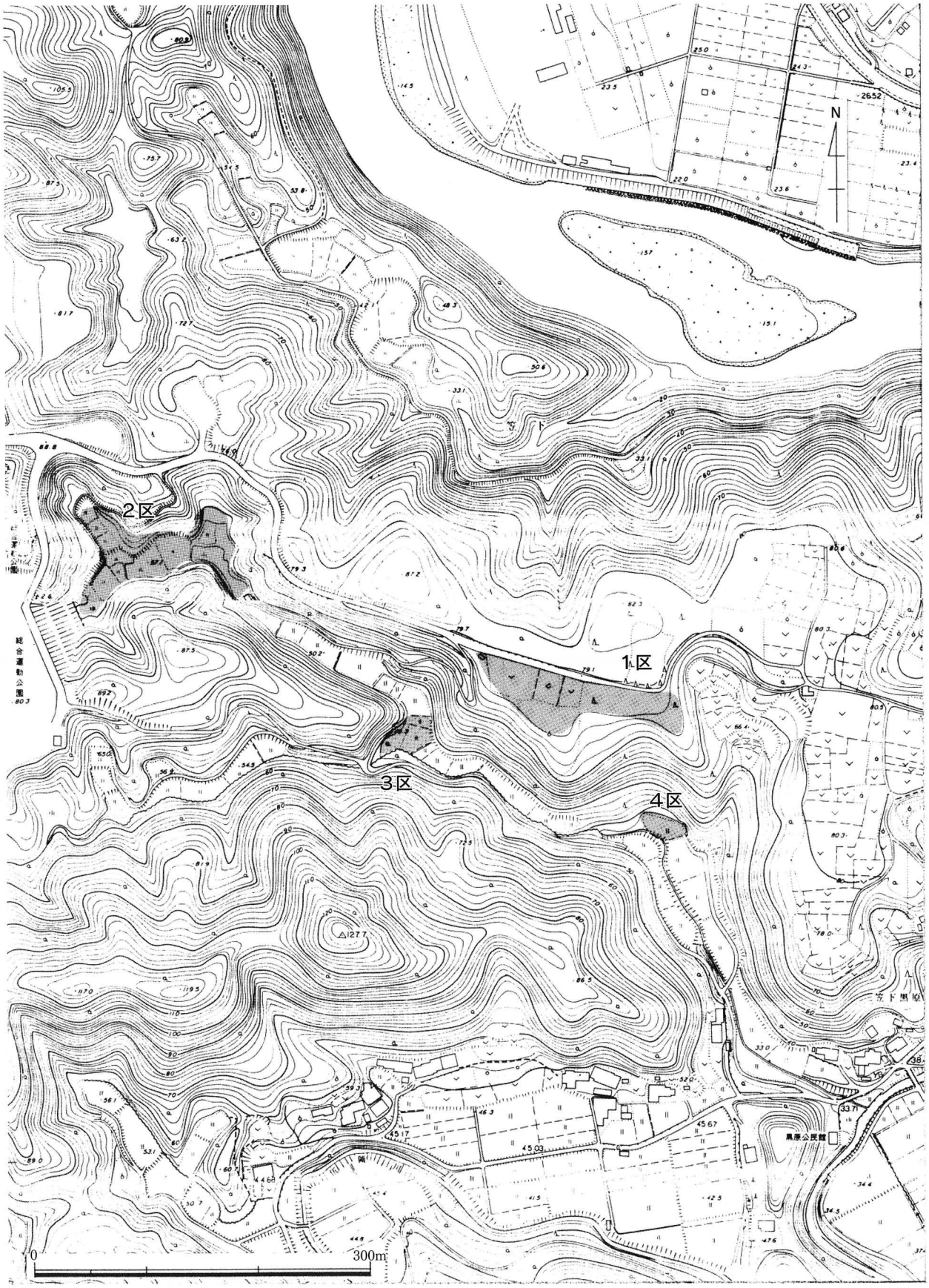
調査の結果、土器片が若干出土したが、遺構の検出はなかった。磨耗している土器片もあり、上部からの流れ込みの可能性が強い。

２．基本層序

本遺跡１区の基本層序は以下の通りである。２～４区については別項を参照されたい。１区では、調査対象区域の形状にほぼ合わせた形で更に１－Ａ区～Ｃ区に設定したが、いずれの調査区も耕作や植林等により大幅な地形の改変が行なわれており、遺構検出の目安となるアカホヤ層がＡ区の南西側と北東側、Ｃ区の西側に残るのみであった。Ａ区では、１号～３号竪穴住居跡の床面をＸ層で、５号住居跡の床面をⅦ層で検出するなど、耕作による削平がかなりの深さまで達している。Ｃ区の東側では、一部阿蘇溶結凝灰岩の風化土壌を検出しているが、五ヶ瀬川流域の阿蘇溶結凝灰岩台地の上では、Ⅱ層・Ⅴ層を除いてほぼ以下の層序で安定している。

上鹿川東の内遺跡や三ヶ村遺跡などの山間部や支流の上・中流域では、阿蘇溶結凝灰岩関連の地層が発達せずに、四万十帯の砂岩層あるいは花崗斑岩の上にアカホヤ層が直接堆積し、その上部に黒色土や薄い表土が見られる。

Ⅰ層…表土層もしくは耕作土（約20㎝）
Ⅱ１層…埋土（約20～80㎝）畑地の整地用（重機導入以降）
Ⅱ２層…埋土（黄茶褐色土層：約30㎝）畑地の整地用（重機導入以前）
Ⅱ３層…埋土（暗茶褐色土層：約30㎝）畑地の整地用（重機導入以前）
Ⅲ層…茶褐色土層。パサつく。一部を除き削平されている。
Ⅳ層…黒色土層。パサつく。一部を除き削平されている。
Ⅴ１層…暗黄茶褐色土層。（約20㎝）上面がやや硬くしまるがそれ以外はパサツく。
縄文時代晩期の遺物に弥生～中・近世の遺物が混じって出土。
Ⅴ２層…黄茶褐色土層。（約20㎝）パサつく。Ⅴ１層と質的には同じ層である。
Ⅵ層…アカホヤ層（約20㎝）
Ⅶ層…黒褐色土層（約20㎝）やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。
Ⅷ層…黄褐色土層（約20㎝）粘質。旧石器時代の遺物が出土。矢野原遺跡では、ＡＴ層までに黒褐色土層や黄褐色土層が見られる。
Ⅸ層…ＡＴ層（約20㎝）



5.調査区位置図(S=1/5,000)

X層…黒褐色土層。（約 20 ～ 50 ㎝）今回の調査では遺物の出土はなかった。3 ～ 5 ㎝のブロック状を呈する。矢野原遺跡では県教育委員会が行なった中位の埋土分析の結果、24,290±680（22,340B.C）という数値が得られている。

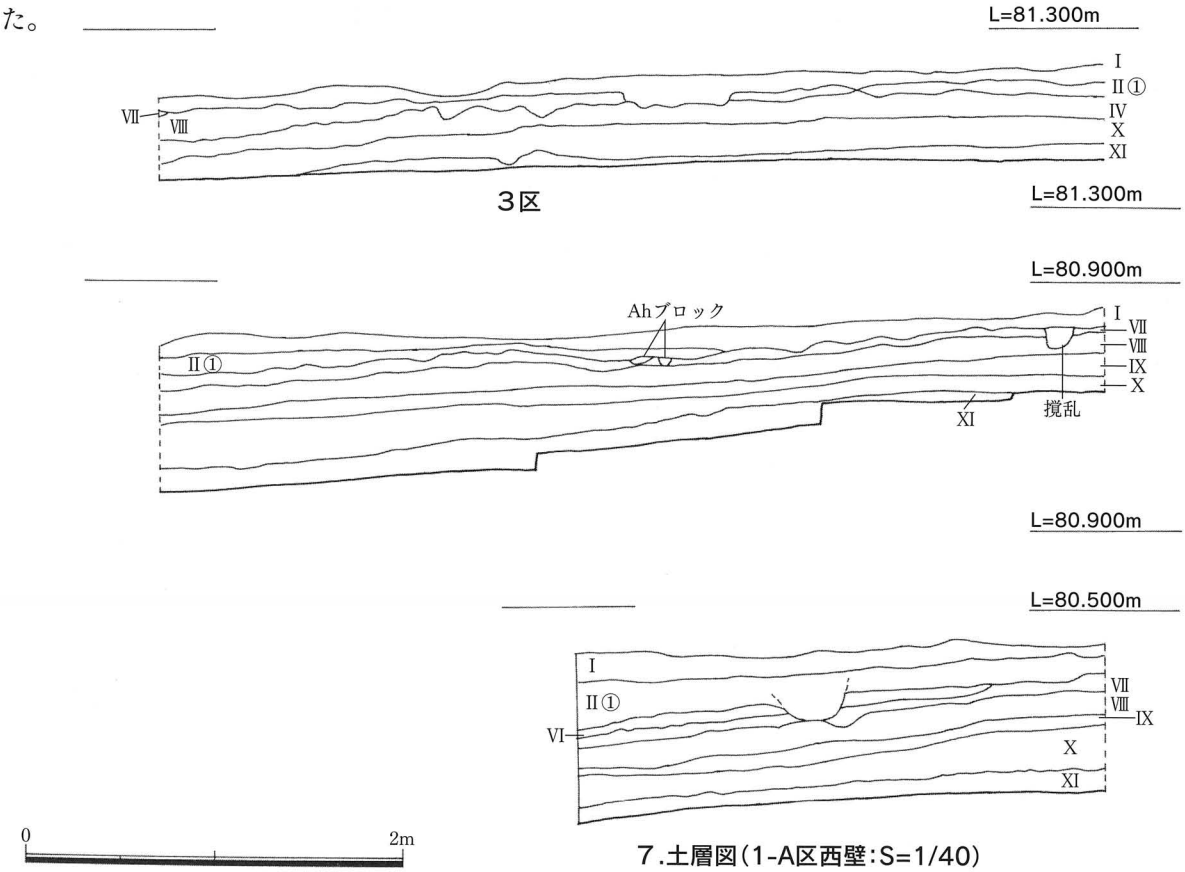
ＸＩ層…黄褐色土層。粘質。小砂利を多く含む。上部で石器が出土する遺跡の調査例が、県北地域でも増えている。

３．１区の調査

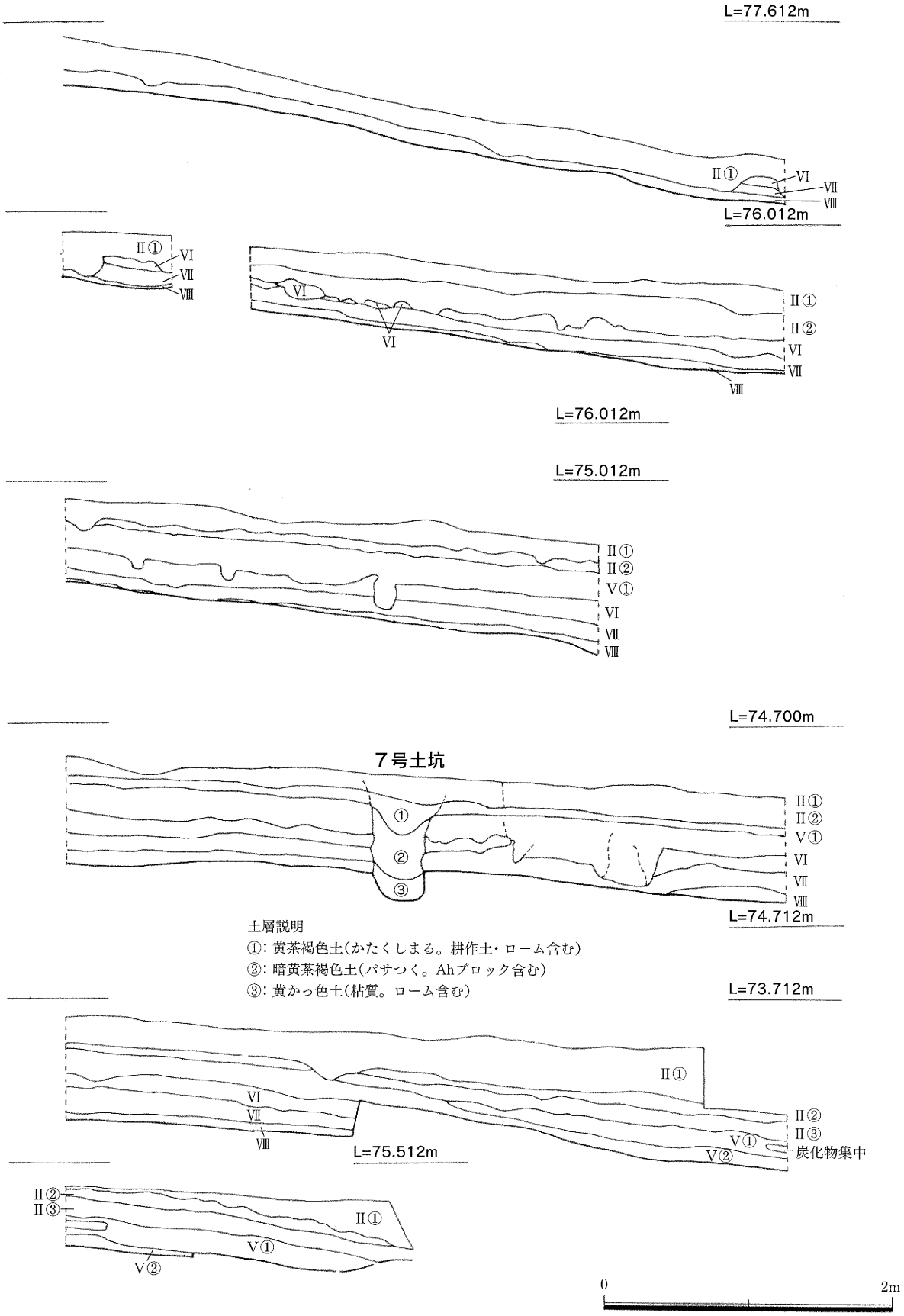
調査の概要

１区は、地形と植栽状況を考慮し、便宜上３区分して調査を行なった。比較的平坦な畑地であるＡ区、その南側にある栗林のＢ区、Ａ区の東側で杉林であるＣ区の３調査区である。Ａ区との比高差は約５ｍである。Ａ区では、耕作土を除去すると道路側でＸ層が検出され、重機の爪跡が確認された。地形は南側に向かって緩やかに傾斜しており、南西側と北東側にアカホヤ層が残存していた。Ⅷ層が露出している部分を中心にトレンチ調査を行なったが数点の遺物が出土するにとどまった。Ｘ層・ＸＩ層からの出土遺物もなかった。Ａ区の北東側ではⅦ層の露出が見られ、焼けた礫がかなり密集した状態で検出された。アカホヤ層を除去して遺構検出を行なったところ、集石遺構を２基検出した。また、各層が露出している中で弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡を６軒検出した。

６.土層写真（1-C区中央部：南西から）



７.土層図（1-A区西壁：S=1/40）



8.土層図(1-C区中央部:S=1/40)

遺構名	頁	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備　　考
1号集石遺構	16	1.23	0.45	0.26	なし	一部削平、段状の掘り込み
2号集石遺構	16	(1.73)	0.7	0.12	なし	敷石を有する
1号竪穴住居跡	39	4.08	3.82	0.3	土器・石器	集中、浅い柱穴1
2号竪穴住居跡	41	4.38	4.76	0.32	土器・石器・鉄器	集中、段状盛土、壁帯溝
3号竪穴住居跡	43	3.64	3.44	0.2	土器・管玉	南隅に土坑あり
4号竪穴住居跡	44	8.92	7.39	0.69	土器・石器・ガラス小玉・鉄器	張り出し・入り口状施設
5号竪穴住居跡	48	3.02	2.72	0.16	土器	柱穴不明
6号竪穴住居跡	49	3.66	3.22	0.66	土器・石器・鉄器	
7号竪穴住居跡	52	(4.6)	(3.88)	(0.88)	土器・鉄器	床面のみの検出、柱穴不明
8号竪穴住居跡	54	4.1	2.76	0.52	土器・石器	中央部分撹乱
9号竪穴住居跡	56	3.12	2.96	0.16	土器・石器	柱穴不明
10号竪穴住居跡	58	3.22	3.34	0.42	土器・石器・鉄器	柱穴不明、炭・焼土集中部
1号土坑	63	2.68	0.78	0.32	なし	不定形、焼土が厚く堆積
2号土坑	64	1.52	0.43	0.74	なし	小pit 4
3号土坑	64		0.69	0.16	なし	一部削平
4号土坑	65	0.8	0.53	0.27	なし	柱穴による撹乱
5号土坑	65	3.08	0.92	1.72	なし	小pit 3
6号土坑	19	1.96	0.86	0.29	土器	一部撹乱、縄文時代晩期
7号土坑	66	1.74	0.47	0.99	土器（555）	小pit 4
8号土坑	67		0.98	0.36	加工石製品（574・575）	柱穴の両側に加工石製品、一部削平
9号土坑	20	1.64	0.45	0.92	土器	小pit 4、縄文時代晩期
1号不明遺構	68	0.36	0.26	0.84	土器・石器	柱穴を埋めている
1号建物	69	0.58	0.28	－	台石（346）	硬化面（床？）、粘土塊

（　　）は検出部分の計測値　単位はm

9.1区検出遺構一覧表

遺構名	C14年代(yrBP±1σ)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	炭　化　材
1号竪穴住居跡	925 ± 20	1,046AD(43.0%)1,094AD	1,037AD(43%)1,160AD	
2号竪穴住居跡	1,785 ± 20	216AD(50.1%)259AD	208AD(54.4%)261AD	ツバキ科ツバキ属
3号竪穴住居跡	1,785 ± 20	259AD(36.5%)297AD	255AD(95.4%)385AD	
4号竪穴住居跡	3,085 ± 20	256AD(45.9%)305AD	244AD(90.0%)357AD	
6号竪穴住居跡	1,770 ± 20	285AD(37.7%)323AD	213AD(94.6%)341AD	
1号土坑	1,850 ± 20	129AD(45.4%)177AD	121AD(90.1%)235AD	
2号土坑	950 ± 20	1,089AD(37.5%)1,122AD	1,066AD(67.7%)1,155AD	ブナ科コナラ属アカガシ亜属

10.自然化学分析一覧表

11.1区間遺溝配置図(S=1/500)

Ｂ区では、栗の植林のためⅧ層まで削平されていた。３軒の竪穴住居跡を検出したが、木根による撹乱の影響をかなり受けていた。南側斜面は傾斜がきつく、アカホヤ層の堆積も良好ではない。表土中より、各時代の遺物が出土している。

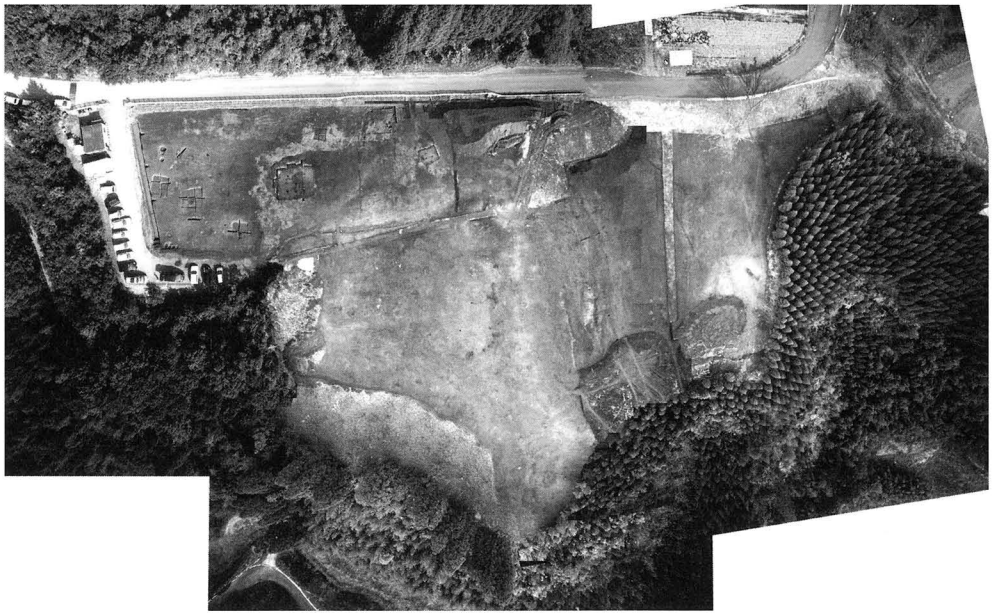
Ｃ区でも、杉の植林のため東側半分はＸＩ層まで削平されていた。西側ではかろうじてⅥ層の削平を免れており、Ⅶ層から縄文時代早期の遺物が出土している。しかし、Ａ区で見られるような焼け石の集中的な出土は見られず、遺物の出土量も多くはない。

また、中央から南側に向かってⅥ層の風化土壌が発達している。Ｖ層上面で縄文時代晩期の土坑を２基検出し、粗製深鉢土器を始め多くの遺物が出土した。さらには、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、建物遺構、不明遺構、焼土集中部を検出した。溝状遺構には各時代の遺物が混在しており、不明遺構には古墳時代と縄文時代の遺物が一緒に出土している。建物遺構はＶ層を掘り下げる途中で柱穴列と硬化面の一部を検出したが、上面で竪穴住居跡特有の掘り込み面は確認していない。砂岩製の台石と粘土塊を検出しているが柱穴列及び硬化面との関連は不明である。

遺構と遺物

１区では、縄文時代早期の集石遺構２基、縄文時代晩期の土坑２基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡１０軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面で検出した。

遺物では、旧石器時代の石核や剥片、縄文時代早期及び後期・晩期の石器・土器が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯・打製石包丁・管玉・鉄鏃・須恵器等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土錘・石錘等も出土している。



12.１区空中写真

旧石器時代

主にⅧ層上面から出土しているが、量的には多くない。一部トレンチを掘り下げ白斑ローム下位まで掘り下げたが、遺物・遺物の検出はなかった。一部包含層を除けば、縄文時代晩期の遺物を多く含むⅦ層からの出土や竪穴住居跡内からの出土例も見られる。

使用痕剥片（1・3～5・12）、加工を有する剥片（2）、スクレイパー（6～8・13）、礫器（9）、石核（10・11）が出土している。石材にはホルンフェルス（4・9・13）と流紋岩（それ以外）を利用している。礫器と石核以外の剥片素材の石器では、縦長剥片素材の利用は少なく（3・4）、打面調整も3と12を除いて見られない。また、受熱石器と思われるもの（4）や若干のローリングを受けているもの（12）がある。

縄文時代早期

アカホヤ層の堆積は良好であるが、検出した遺構は集石遺構の2基のみにとどまった。1－A区で一部焼礫の集中が見られたが、遺物の出土量は多くない。他地区では、焼けた砂岩礫やチャート製の剥片など若干見られる程度である。

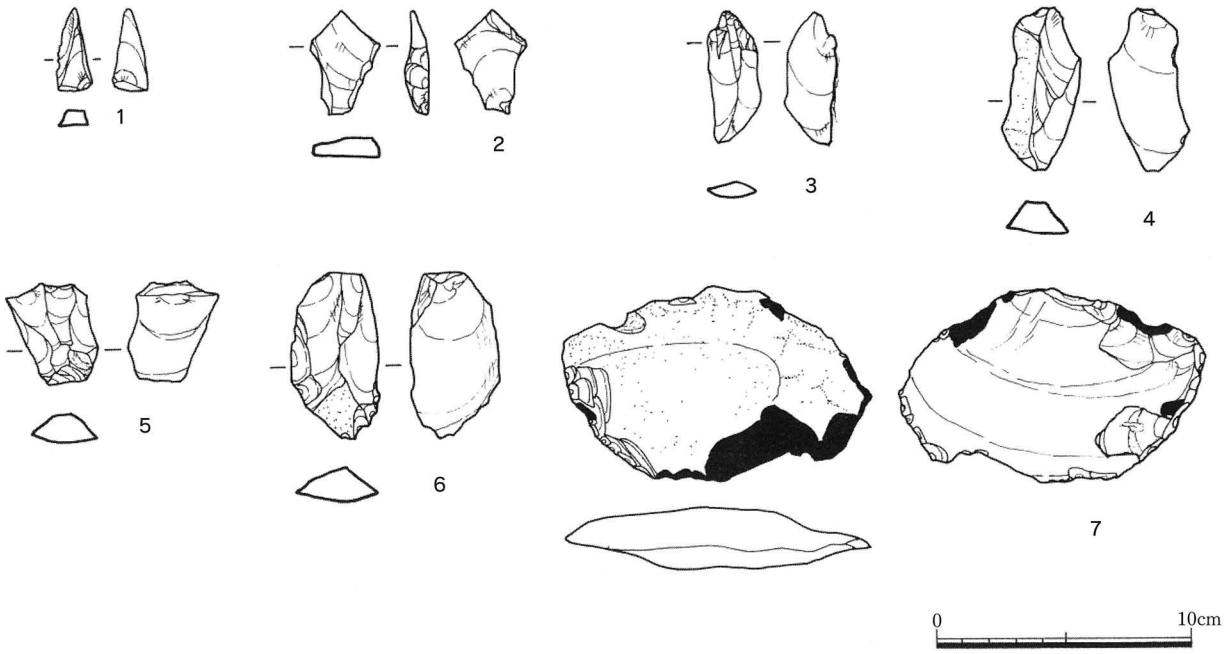
集石遺構からの出土遺物はない。

1号集石遺構は、砂岩の礫が比較的まとまって検出され、掘り込みもしっかりしている。浅い段がつき二段掘り状になっている。敷石が見られる。

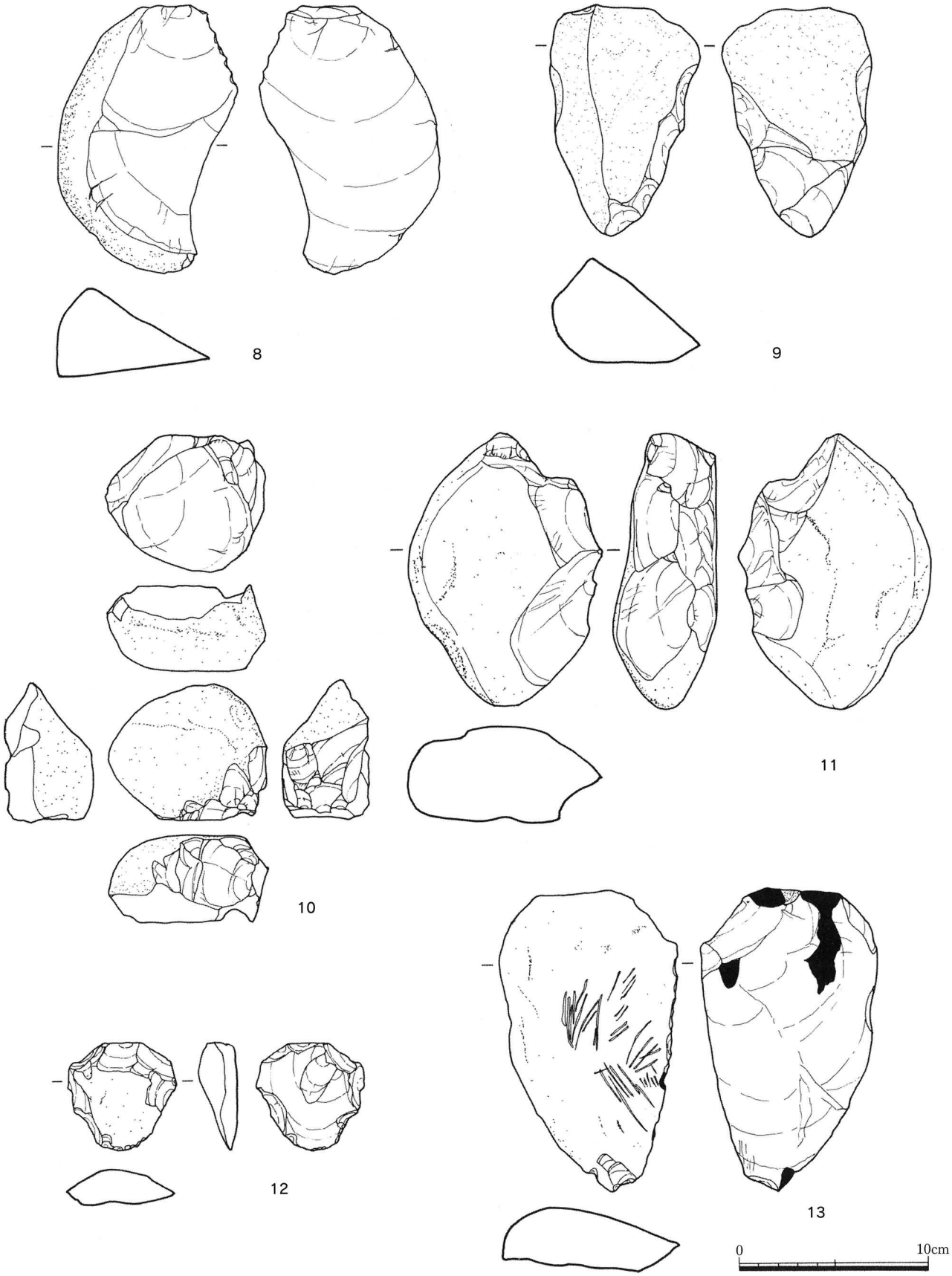
2号集石遺構は、礫は散漫に広がり掘り込みも浅い。一部削平を受けている。

出土遺物では、石鏃（14～18）、尖頭状石器（19）、スクレイパー（20）、礫器（21）、敲打器（22）、楕円押型文土器（23）、貝殻押引文円筒土器（24～27）が出土している。石鏃では剥片の剥離面を残したまま周縁を粗く加工したもの（16）や鍬形鏃（17・18）が出土している。

また、黒曜石製の尖頭状石器は出土例が少なく貴重である。



13.旧石器時代出土遺物実測図①(S=1/3)



14.旧石器時代出土遺物実測図②(S=1/3)

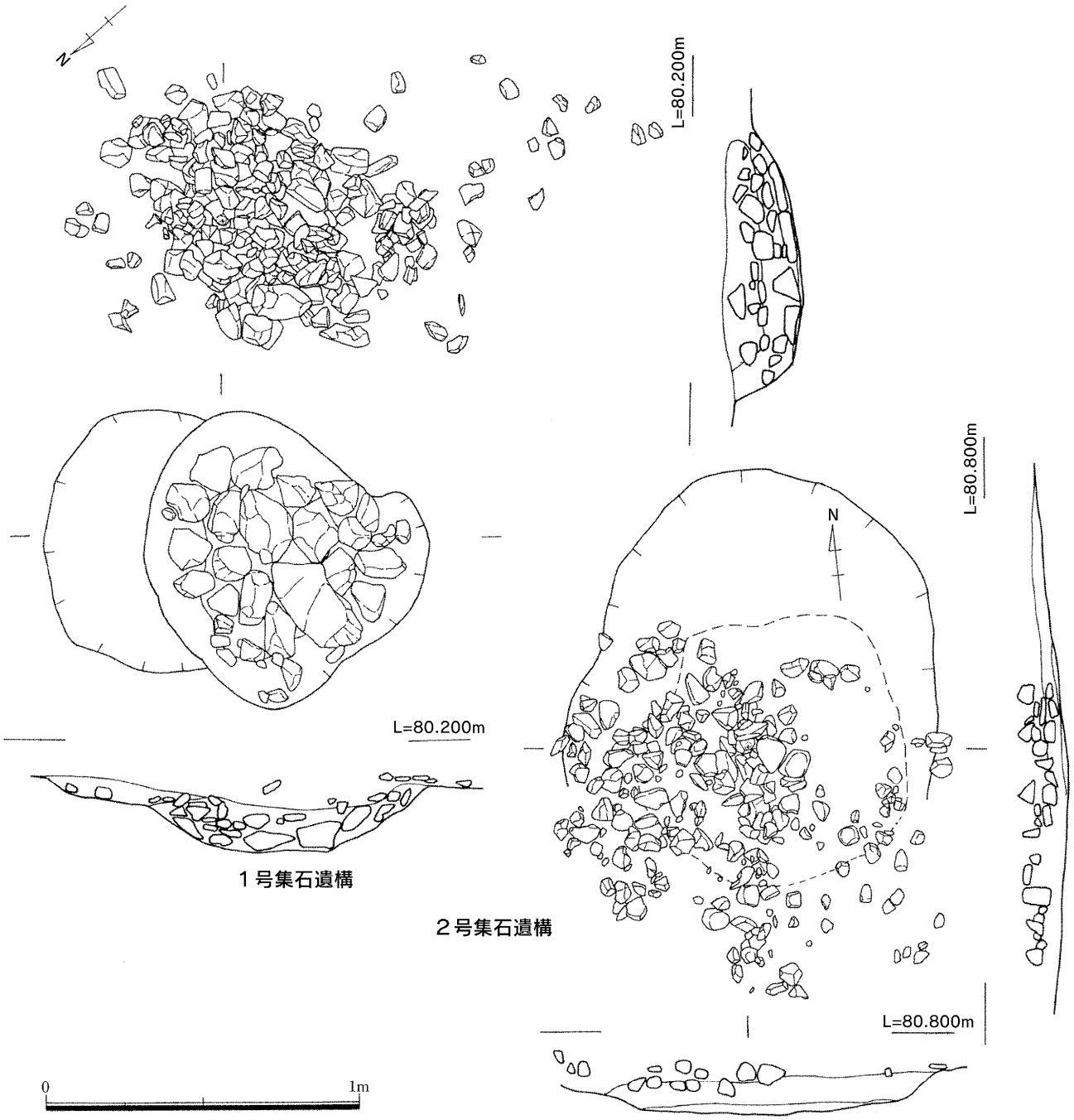
縄文時代前期・縄文時代後期

北方地域では、この時期の遺構は検出されていない。遺物も縄文時代晩期の遺物中に混入して出土している状況である。

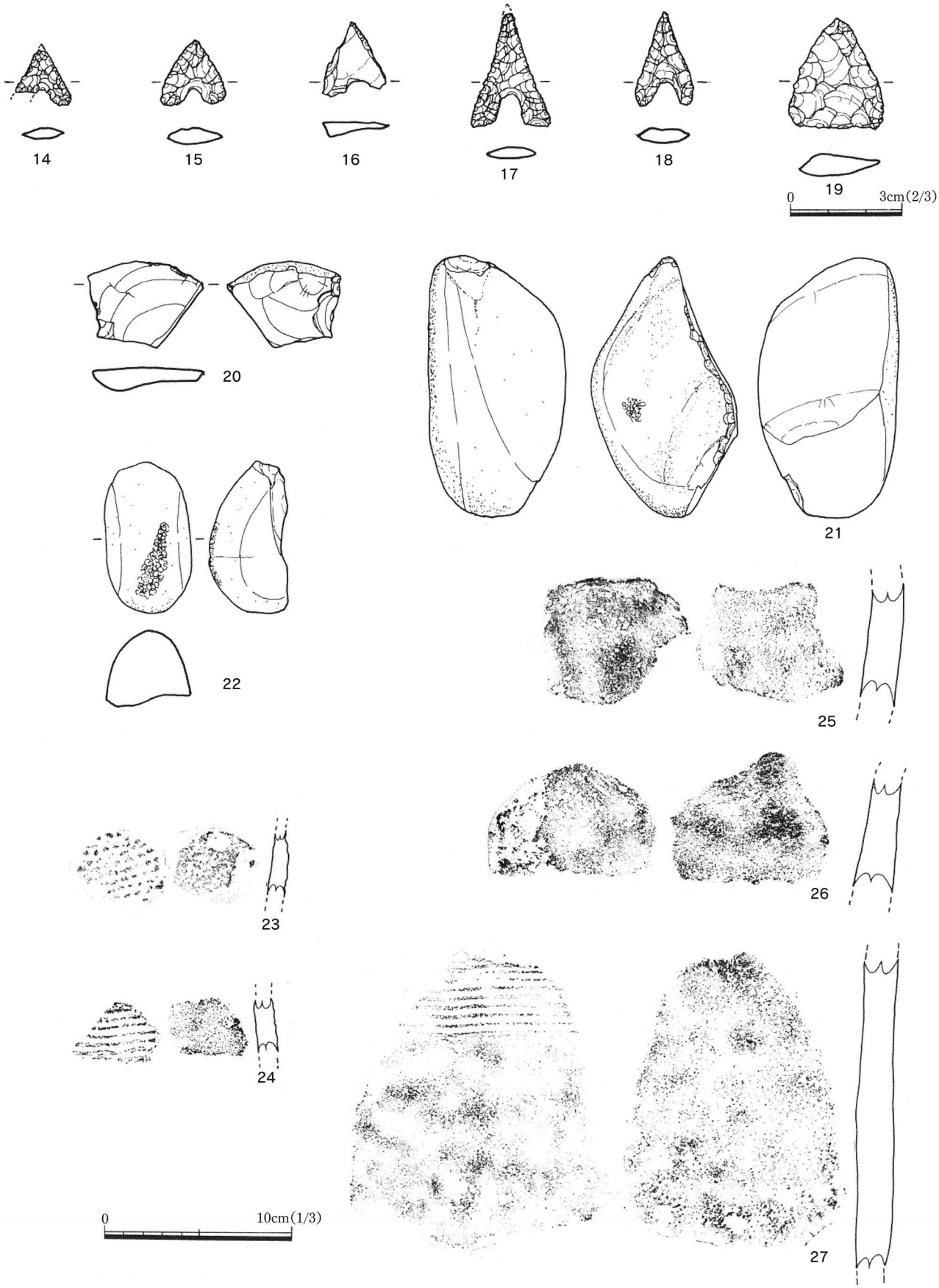
縄文時代前期の遺物としては、貝殻条痕文土器（２８）、轟Ｂ式土器と思われる貝殻条痕文にミミズバレ状の突帯を貼り付ける土器（２９・３２）が出土している。

縄文時代中期の遺物は出土していない。

縄文時代後期の遺物としては、西平系の磨消縄文土器（３０～３１・３３～３４）、口縁部がやや内湾し沈線施文や貝殻ミガキによる調整が施される南九州系土器（３５・３７～４０）が出土している。



15.縄文時代早期集石遺構実測図(S=1/20)



16.縄文時代早期出土遺物実測図(S=2/3、1/3)

縄文時代晩期

今回の調査において縄文時代晩期の遺構としては、Ｃ区で土坑２基を検出した。遺物では、アカホヤ層の風化土壌と思われるＶ層から数多くの粗製深鉢土器出土しているが、精製浅鉢土器は少ない。

石器では、石鏃、石匙、使用痕剥片、スクレイパー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、石鎌、磨石、敲石、台石等が出土している。

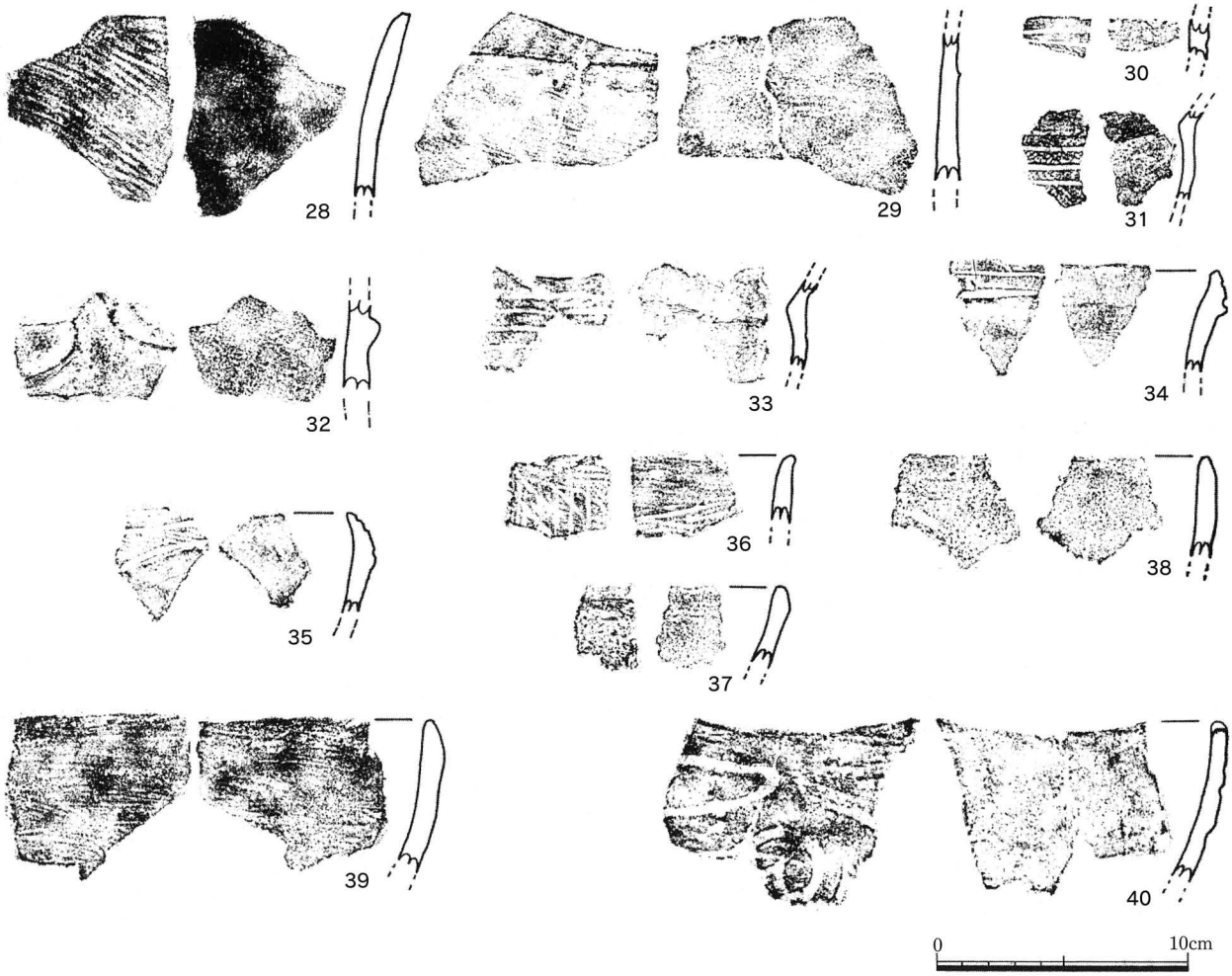
６号土坑は長軸１．９６ｍ、短軸０．８６ｍの長楕円形を呈し、検出面から床面まで０．２９ｍを測る。一部撹乱を受けている。出土遺物には粗製深鉢土器（４１～４６）及び精製浅鉢土器（４７・４８）がある。床面は平坦でなく、硬化面は見られない。

９号土坑は１．６４ｍ、短軸０．４５ｍの四隅が丸い長方形を呈し、検出面から床面まで０．９２ｍを測る。底面には逆茂木痕と思われる小柱穴が４個掘られている。この内、中央の２個は並列する。出土遺物には粗製深鉢土器（４９・５０・５４）及び精製浅鉢土器（５１～５３）がある。落とし穴と思われる。底面に小柱穴が３～４個掘られている同様の土坑が他に３基検出されたが、明確に当該期の遺構ととらえることができないと判断して別項で取り扱うこととする。

粗製深鉢土器は大まかに次のように分類した。大半はＣ区のＶ層からの出土であり、各分類が明確なレベル差を表すものではない。

Ⅰ類…裏面にはまれに沈線が見られるが、外面に突帯等の文様が見られないもの（５５～９０）

Ⅱ類…Ⅰ類の外面にミミズバレ状の低い突帯がつくもの（９１～１２６）



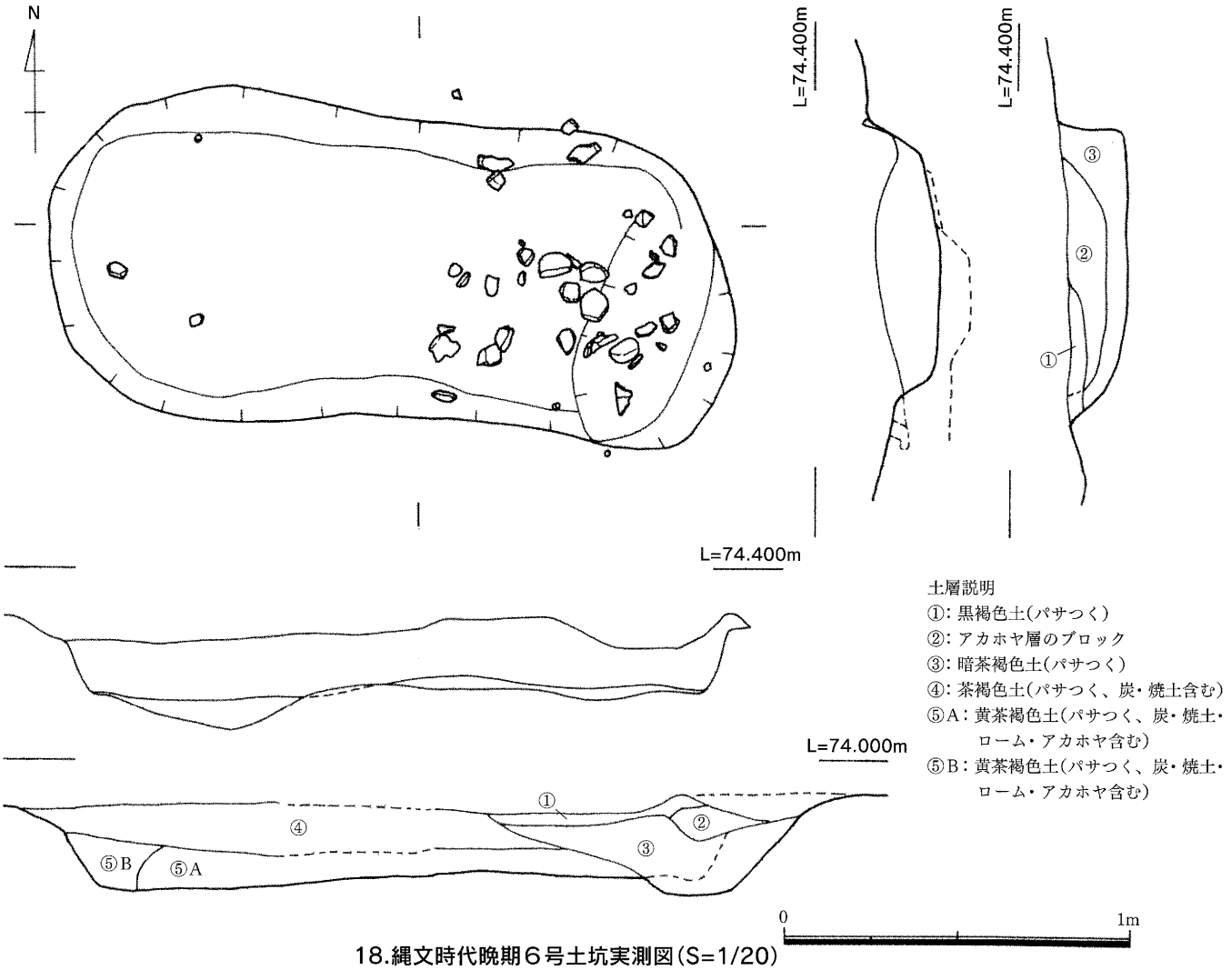
17.縄文時代前期～後期出土遺物実測図(S=1/3)

Ⅲ類…口唇もしくは口唇下部に沈線を施すもの（１２７～１４７）沈線下部が盛り上がり突帯状になったものも含むが、突帯の途中を円文状にするものも見受けられる。（１４１～１４７）

Ⅳ類…口縁部外面の下部を肥厚させて口縁帯を形成するものである。断面が三角形状・四角形状・台形状・半円形になるものなどさまざまなバリエーションが見られる。突帯の厚みもさまざまである。（１４８～２１４）

Ⅴ類…底部。（２１５～２２９）上げ底あるいは高台的な底部が平底よりも出土例が多い。

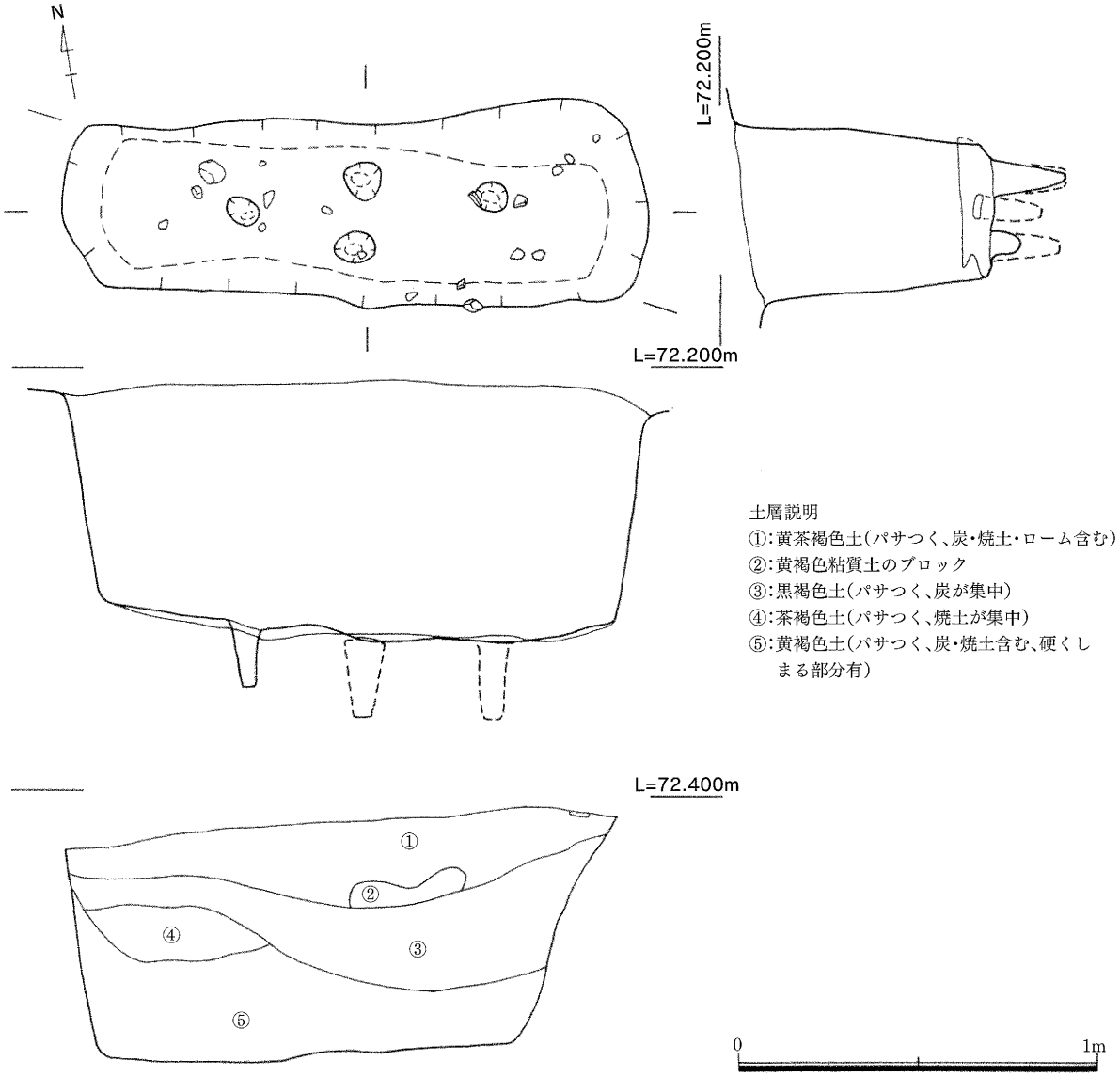
精製浅鉢土器は、粗製深鉢土器に比べて出土量が少ない。また、底部では１点（２６５）が確認できたのみである。内外面ともに丁寧に研磨されている。文様は沈線を内面もしくは外面の口唇下部に１本程度施すものがほとんどで、まれに複数本（２３０～２３３）施文するものもあるが、施文されないものも多く見受けられる。



18.縄文時代晩期６号土坑実測図(S=1/20)

比較的小破片が多い。また、鉢（２６３）や椀（２６４）も僅かながら出土している。

ここでは、出土した口縁部と頸部・底部をできるだけ取り上げた。２３７～２３９は比較的大型の破片で、口縁端部外側直下に明瞭な沈線をもち、同じく内側には不明瞭な沈線がある。比較的長い口頸部が外側に反って肩部で強く稜をなし、胴部が浅い形態である。２４１と２４５は短い口頸部に丸くおさめられた口縁部の組み合わせである。２４１は２４５に比べ内側部分が先鋭化している。口縁



19.縄文時代晩期９号土坑実測図(S=1/20)

部のみでの出土であるが、口縁部の下位はゆるい稜をなして浅鉢状を呈する形態になると思われる。２５０は、口縁部に見られるヒレ状突起の一部と思われる。

石器

石器では、Ｖ層中から石鏃、石匙、使用痕剥片、スクレイパー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、石錘、磨石、敲石、台石等が出土している。土器と違って明確な時期決定が難しい。

２６６～２７４は石鏃である。石材のほとんどがチャート製であるが、まれに姫島産黒曜石の利用が認められる。（２６７・２６８）

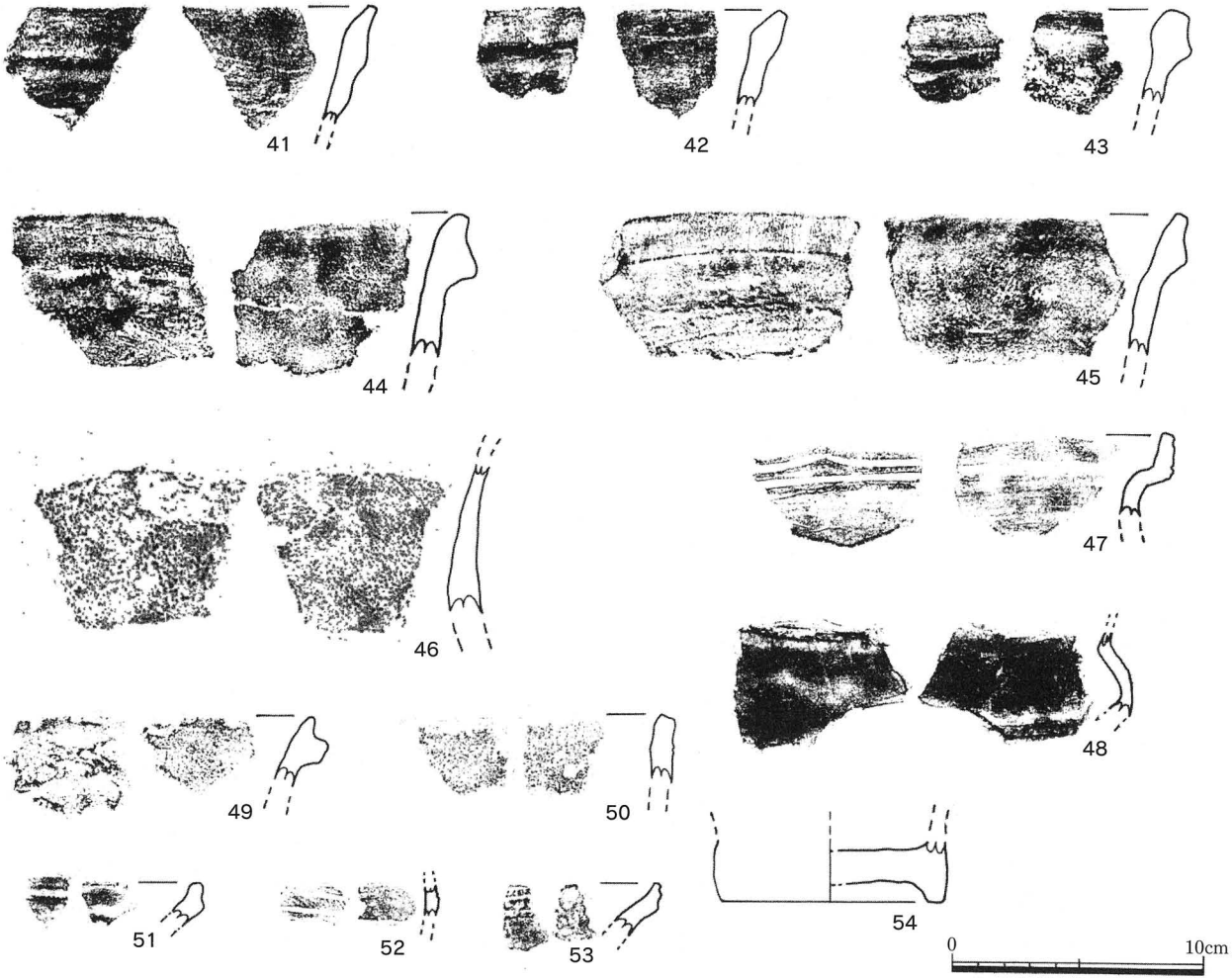
２７５は黒曜石を使用した使用痕剥片であるが、黒曜石の産地については不明である。

２７６はチャート製の石匙である。ツマミ部の加工は粗い。

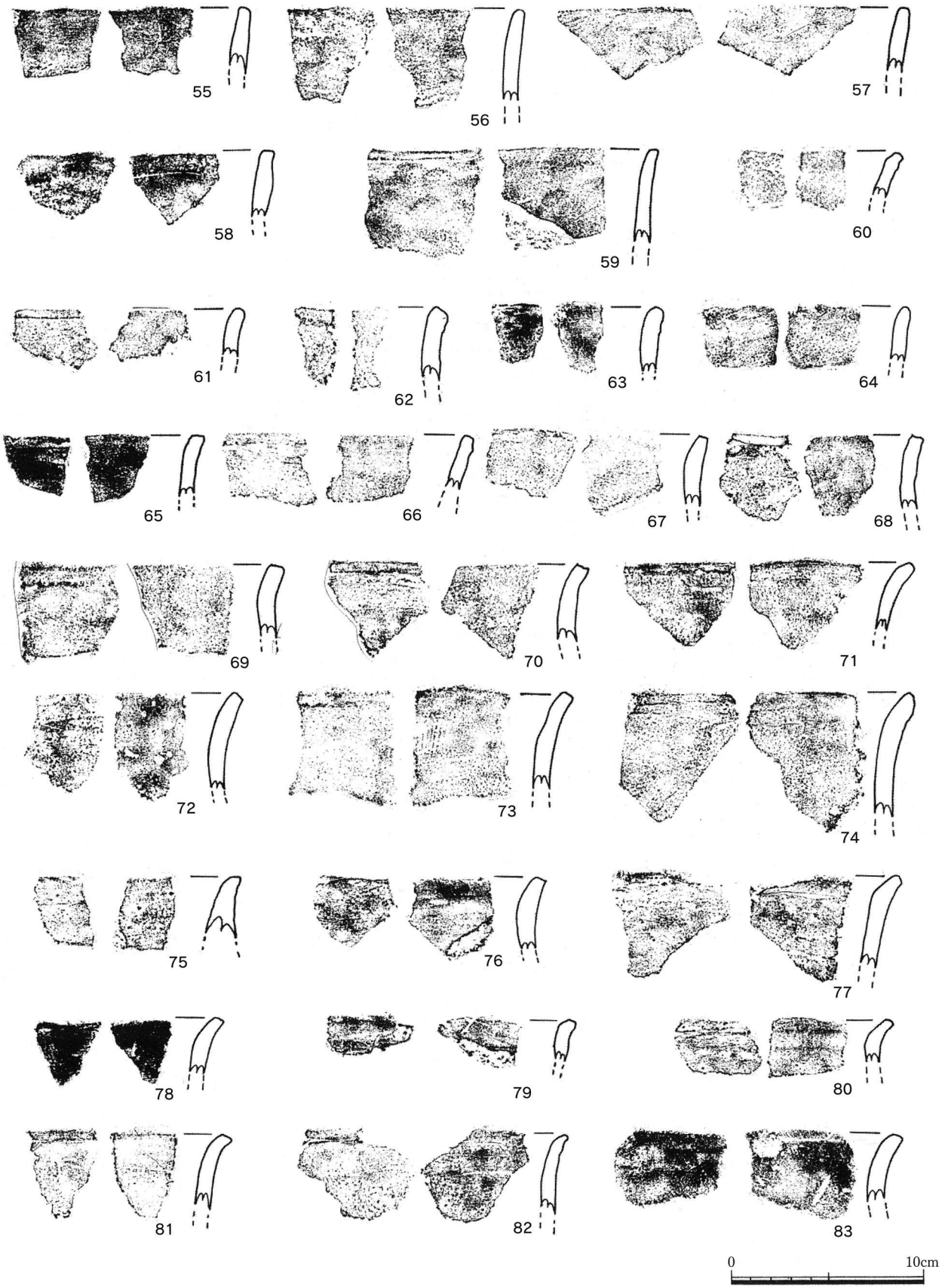
２７７はチャート製の石錐である。先端部が欠損している。

２７８・２７９・２８４は使用痕剥片である。２７９の片面は丁寧に研磨されており、あるいは磨製石器の欠損品を転用したものとも考えられる。

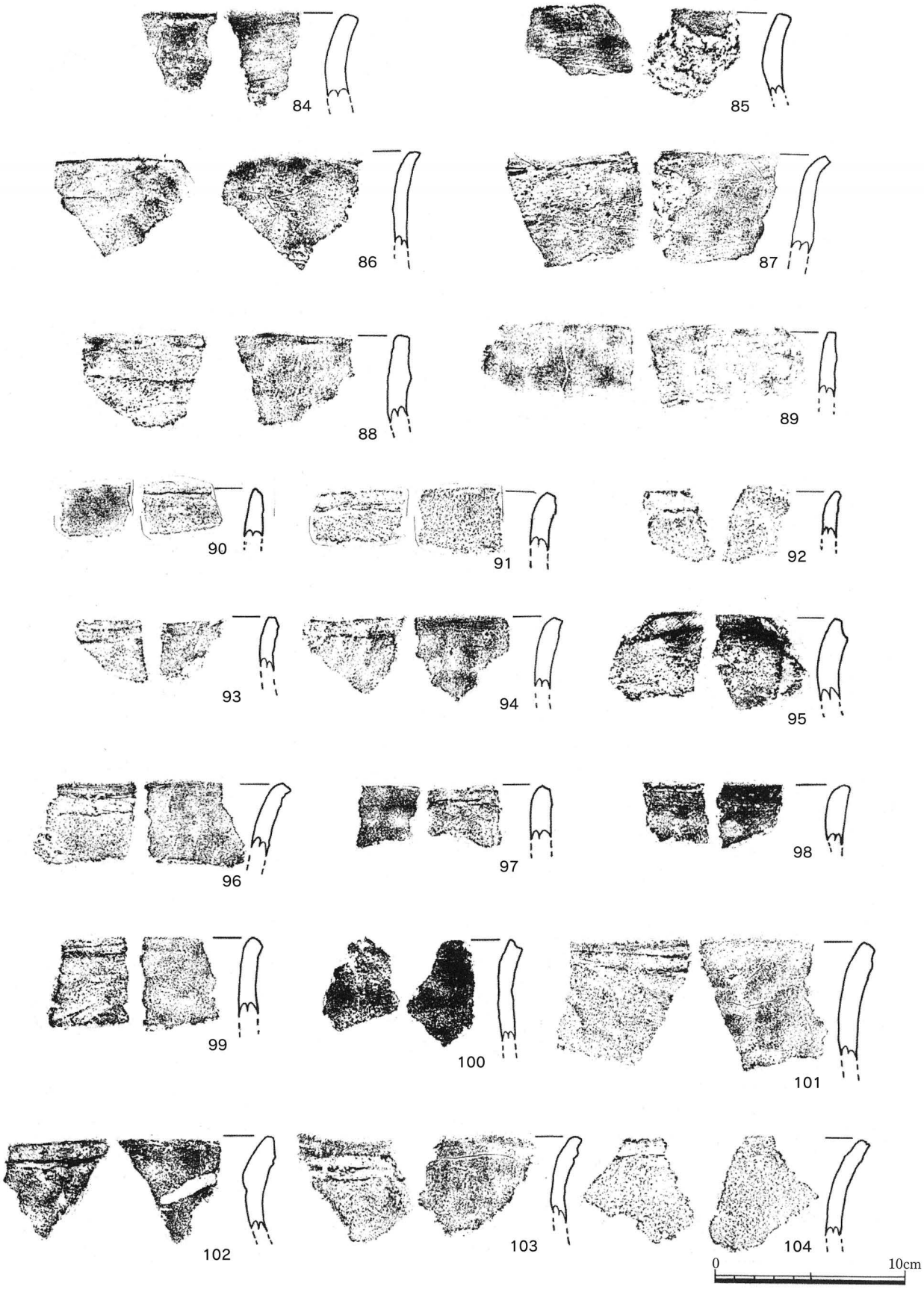
２８０～２８３・２８５はスクレイパーである。２８２には鋸歯状の加工が見られる。２８３には



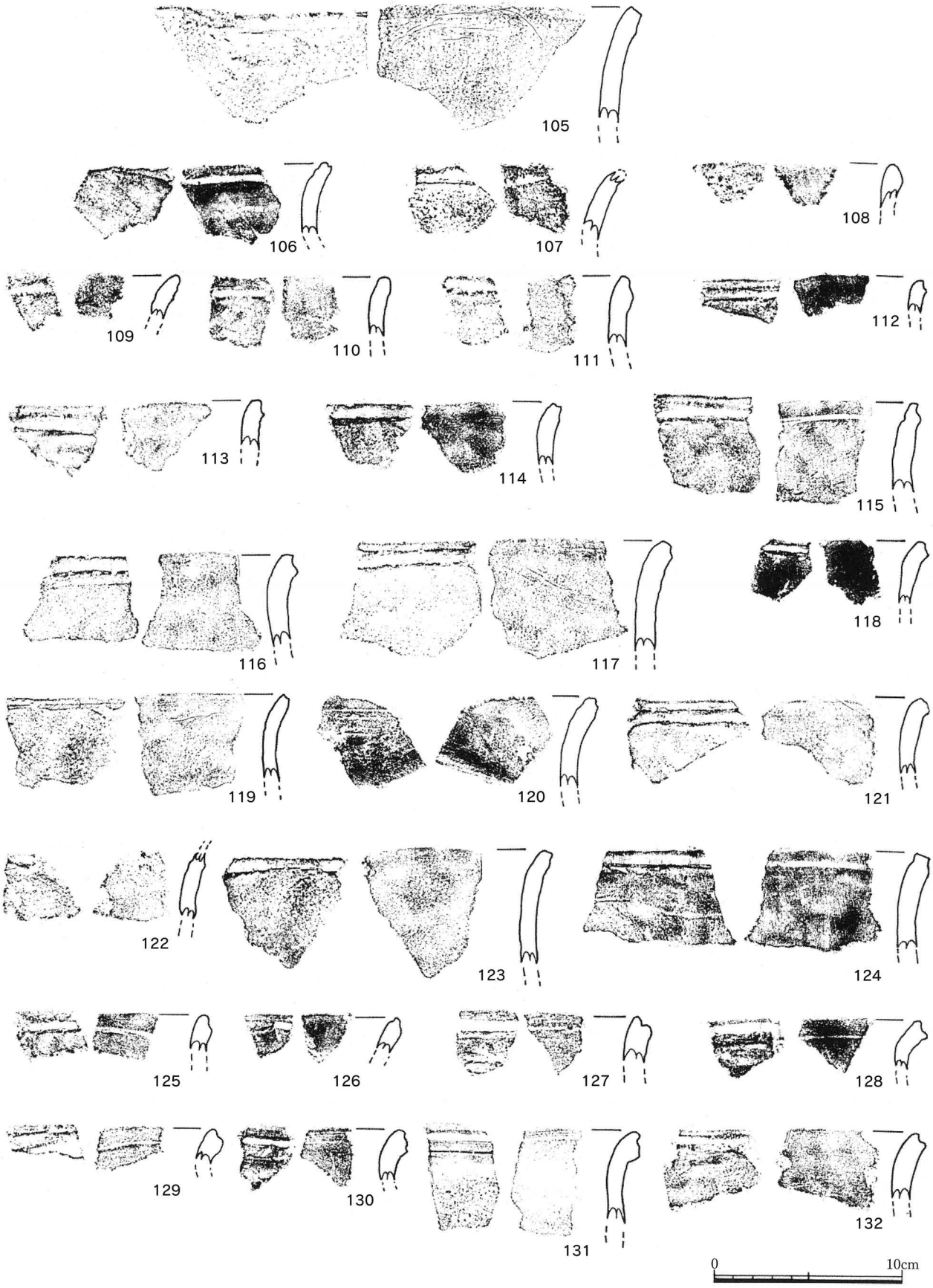
20.縄文時代晩期土坑内出土遺物実測図（S=1/3）



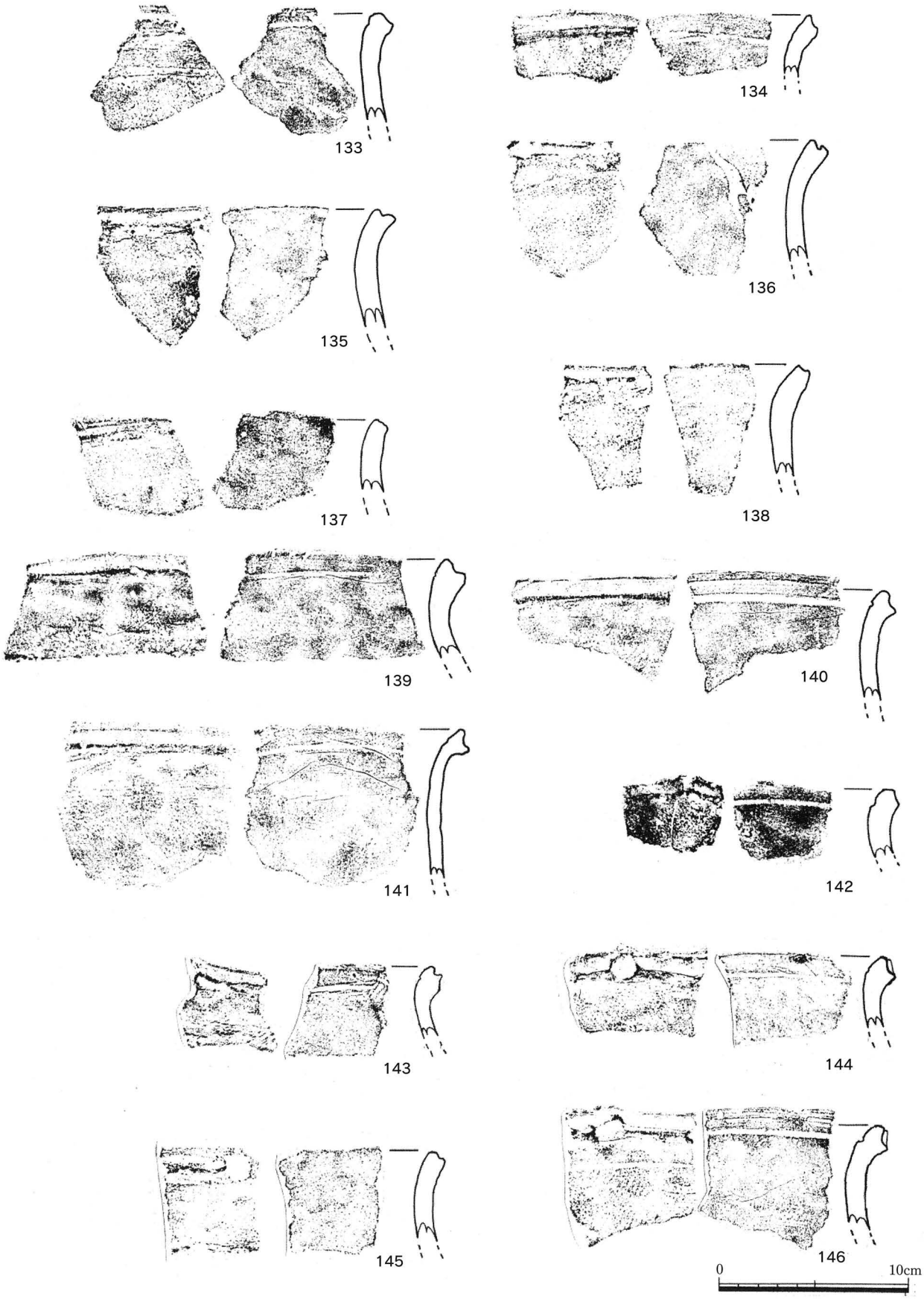
21.縄文時代出土遺物(土器)実測図①(S=1/3)



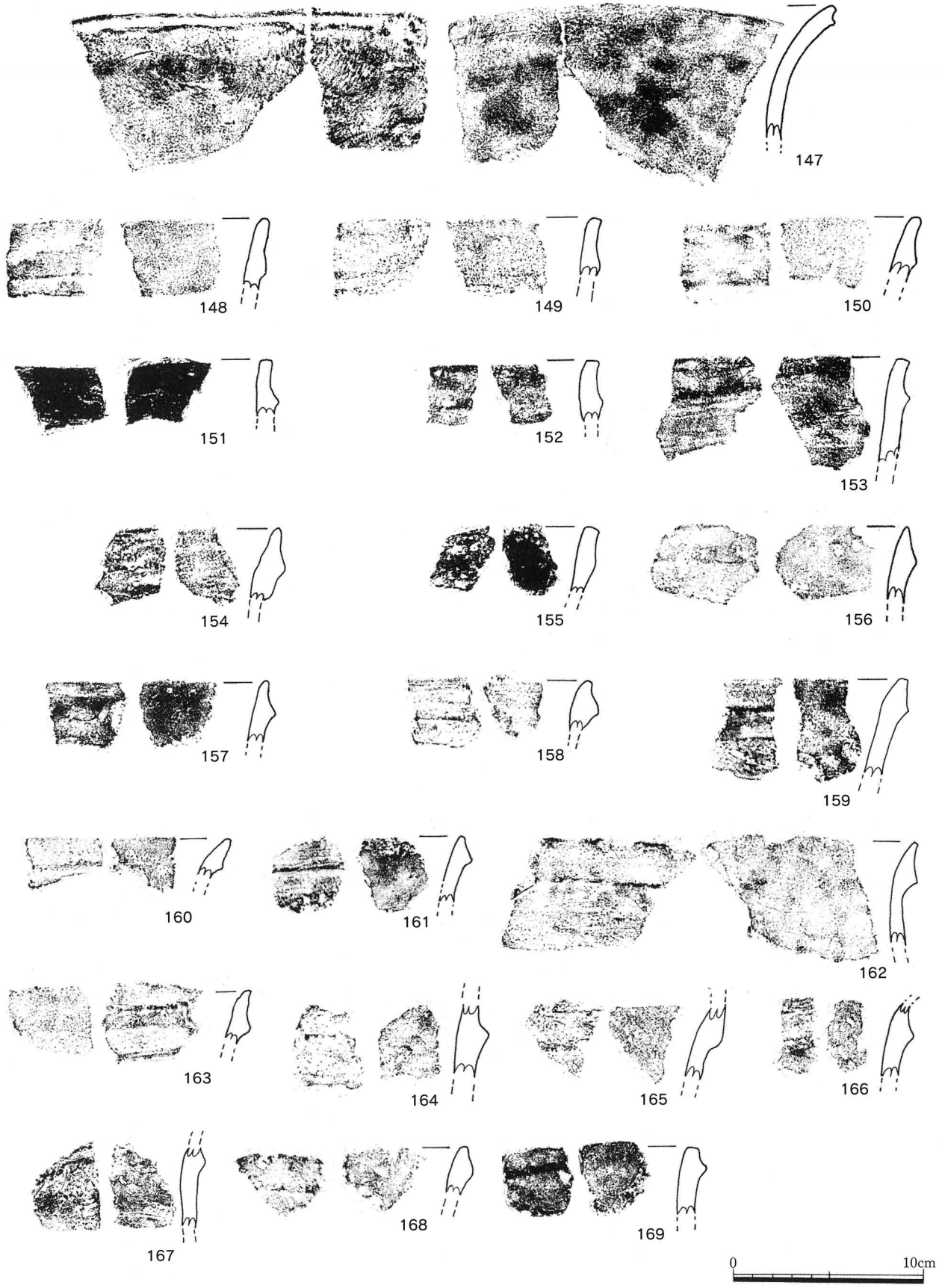
22.縄文時代出土遺物(土器)実測図②(S=1/3)



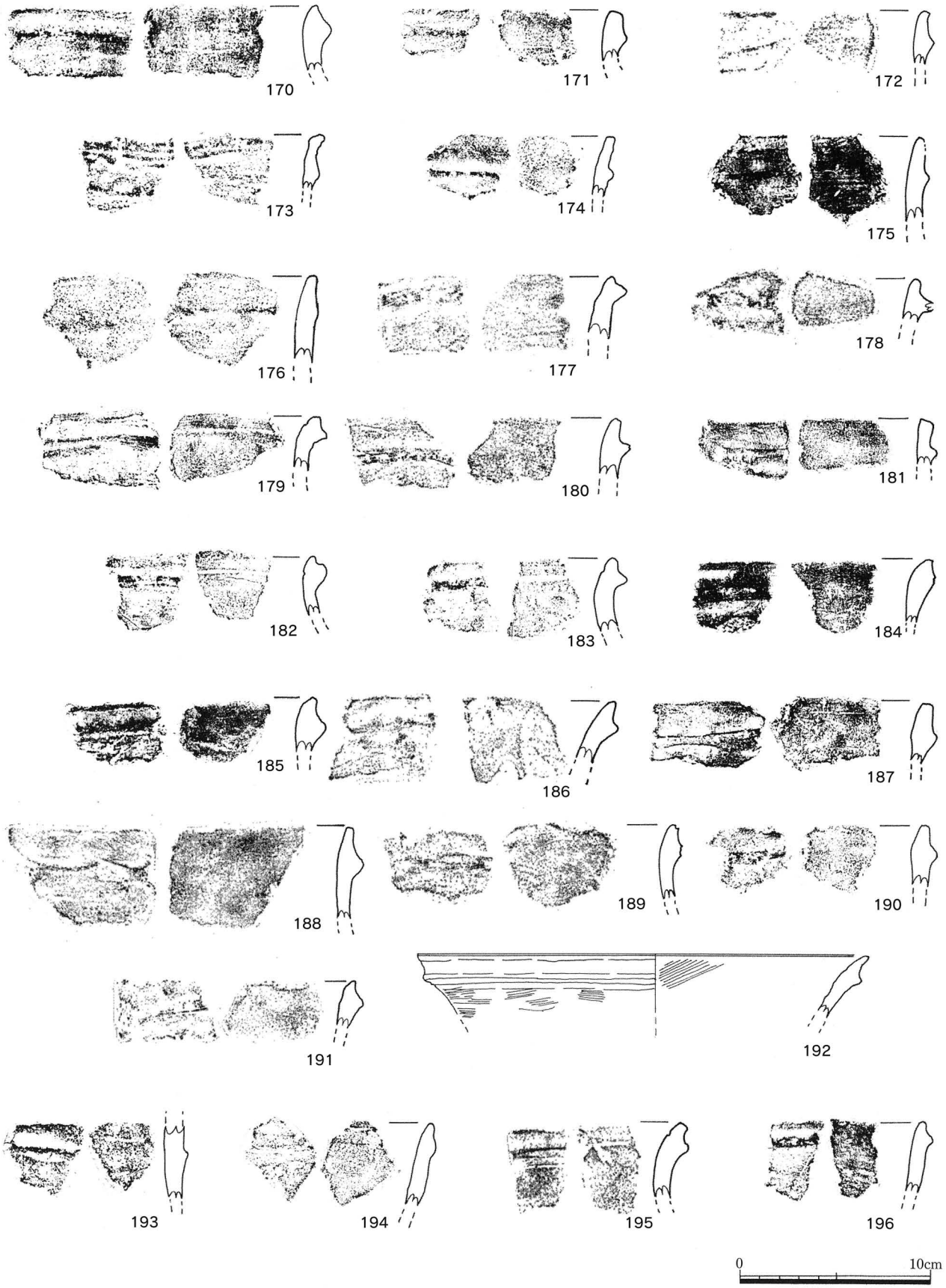
23.縄文時代出土遺物(土器)実測図③(S=1/3)



24.縄文時代出土遺物(土器)実測図④(S=1/3)



25.縄文時代出土遺物(土器)実測図⑤(S=1/3)



26.縄文時代出土遺物(土器)実測図⑥(S=1/3)

弧部に微細な刃部整形加工が見られる。その他の石器の加工は粗い。

２８６～２８７は加工を有する剥片である。細長い礫の片面に丁寧な加工が施される。もう片面は自然面で下部を欠損している。石斧等の未製品とも考えられる。２８７の一側縁には丁寧な加工が施されている。片面には自然面が残る。何らかの石器の未製品か、石器の欠損品もしくは再利用品ではないかと考えられる。

２８８～２９１は礫器である。２８８・２８９・２９１には一側縁には粗い加工が施され、微細な使用痕も認められる。２９０には敲打痕が残る。

２９２～３０８は石斧、３０９～３１４は扁平打製石斧である。２９４・２９６～２９７は一部に磨痕が残る局部磨製石斧である。２９８～３０１には敲打痕や研磨痕が見られる。３０２には側面に丁寧な研磨痕が残る。３０３には全面に粗い剥離痕が施され、一部研磨が見られる。３０４は片面に剥離痕が、半面には敲打痕と研磨痕が見られる。３０５は欠損品であるが、片面に丁寧な敲打調整が

27.縄文時代出土遺物(土器)実測図⑦(S=1/3)

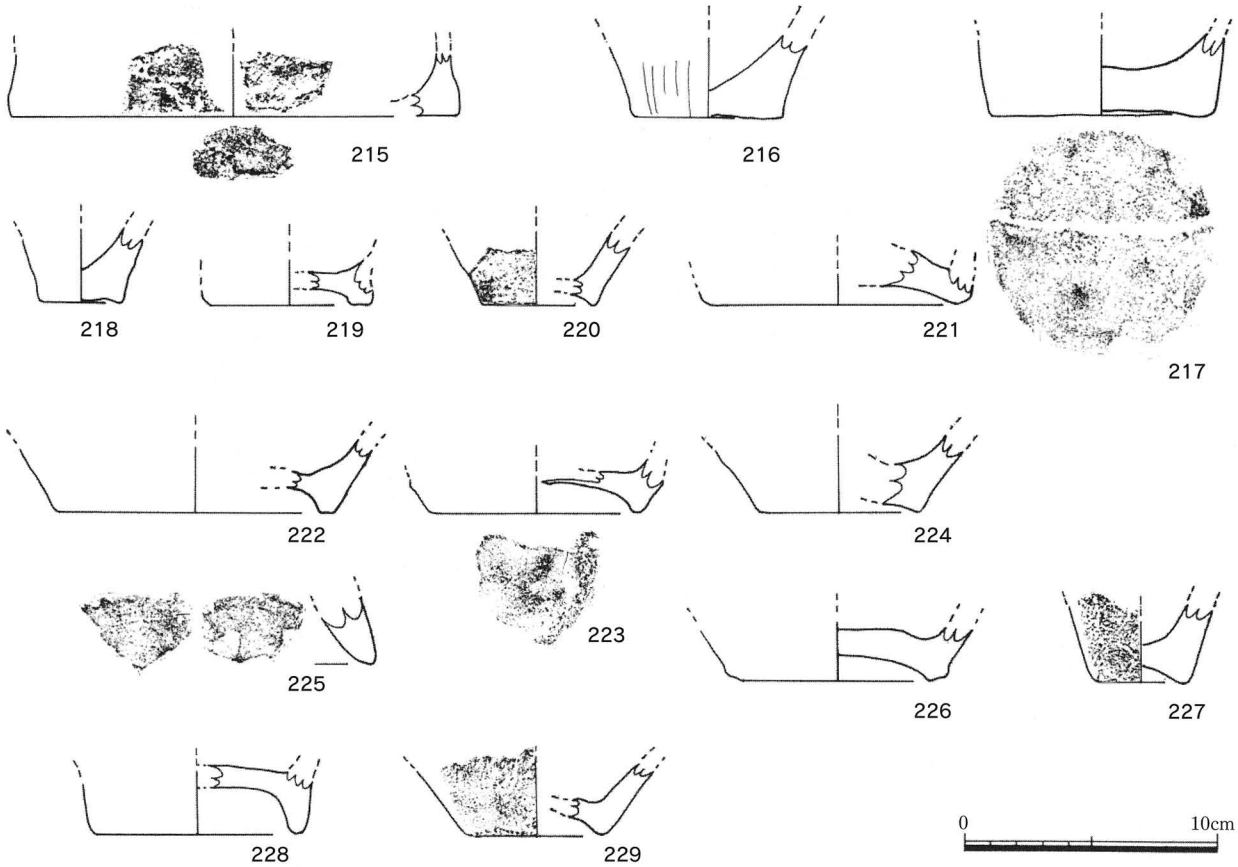
施される。３０６には側面に柄の装着との関連を窺わせる大きな剥離痕がある。刃部には微細な剥離痕が残る。３０７の基部には丁寧な研磨が施されている。３０８は刃部を欠損しているが、全面に丁寧な敲打調整が施される。一部磨痕も認められる。

扁平打製石斧では、有肩タイプのものは出土せず、やや撥型のもの（３０９・３１０）、上・下端幅のあまり変わらない短冊形様のもの（３１１～３１３）、やや異形を呈するもの（３１４）がある。短冊形様のものには、片面に自然面の未加工を残すものがある。３１４は撥型の欠損部を加工しなおして再利用したものと思われる。３１５も同様に短冊形様の両端の欠損品を加工して再利用した石器と思われる。

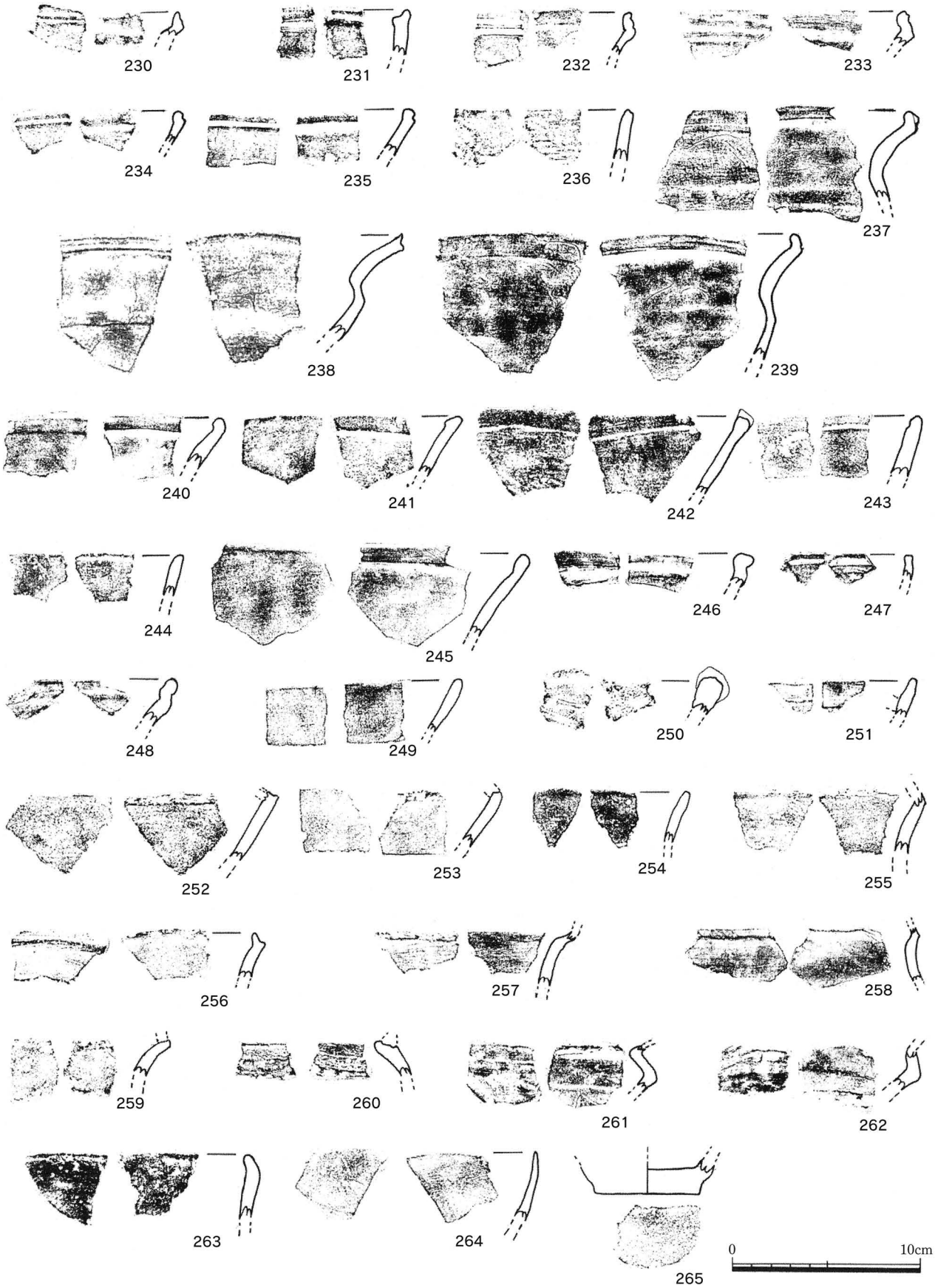
３１６は石鎌と思われる石器である。片面に自然面が残り、刃部には細かい加工が、背部には粗い加工が施される。３１７～３２４は砂岩製の剥片の一部に加工を施した石器である。刃部として使用したと思われる部分には使用痕と思われる刃こぼれが認められる。片面に自然面を残す石器が多い。

今回の調査では、磨石、叩石等の敲打器の出土例も多い。（３２５～３４６）山間部での植物性蛋白の取得を目的とした生活の一端を垣間見るようで興味深い。

３２５は小型の自然礫を磨ったものである。３２６・３２７は自然面を残しながらも細かい剥離で形を整えたものである。３２６は両端に敲打痕が残る。３２７は一端と側面の一部に敲打痕が見られるが敲打痕や磨痕は見られない。３２８と３２９は棒状の礫の端部に敲打痕が認められる。３３０の一端には打撃による剥離が見られる。３３１と３３２は半損礫を利用し、自然面側の一端に打痕が残

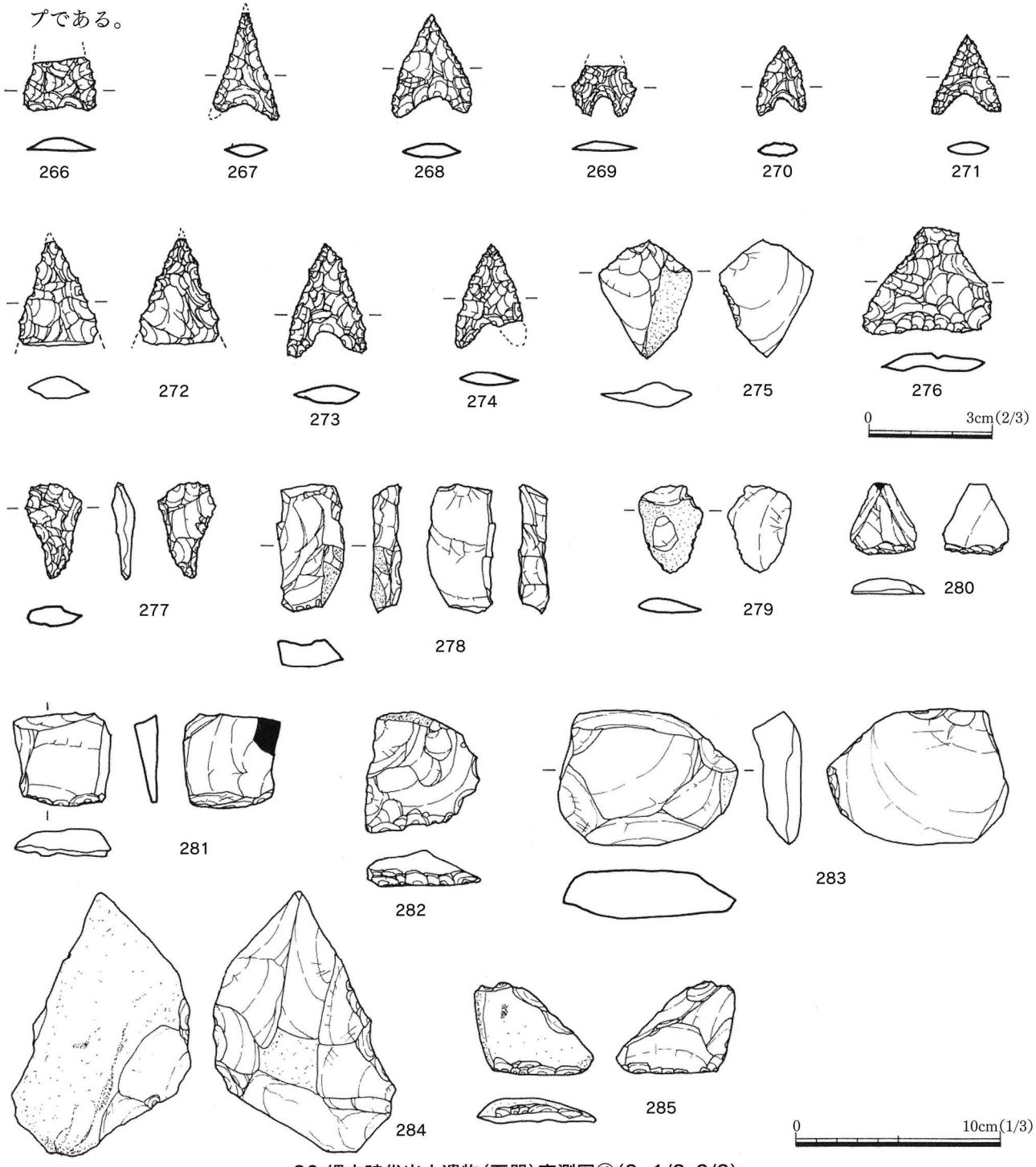


28.縄文時代出土遺物（土器）実測図⑧（S=1/3）



29.縄文時代出土遺物(土器)実測図⑨(S=1/3)

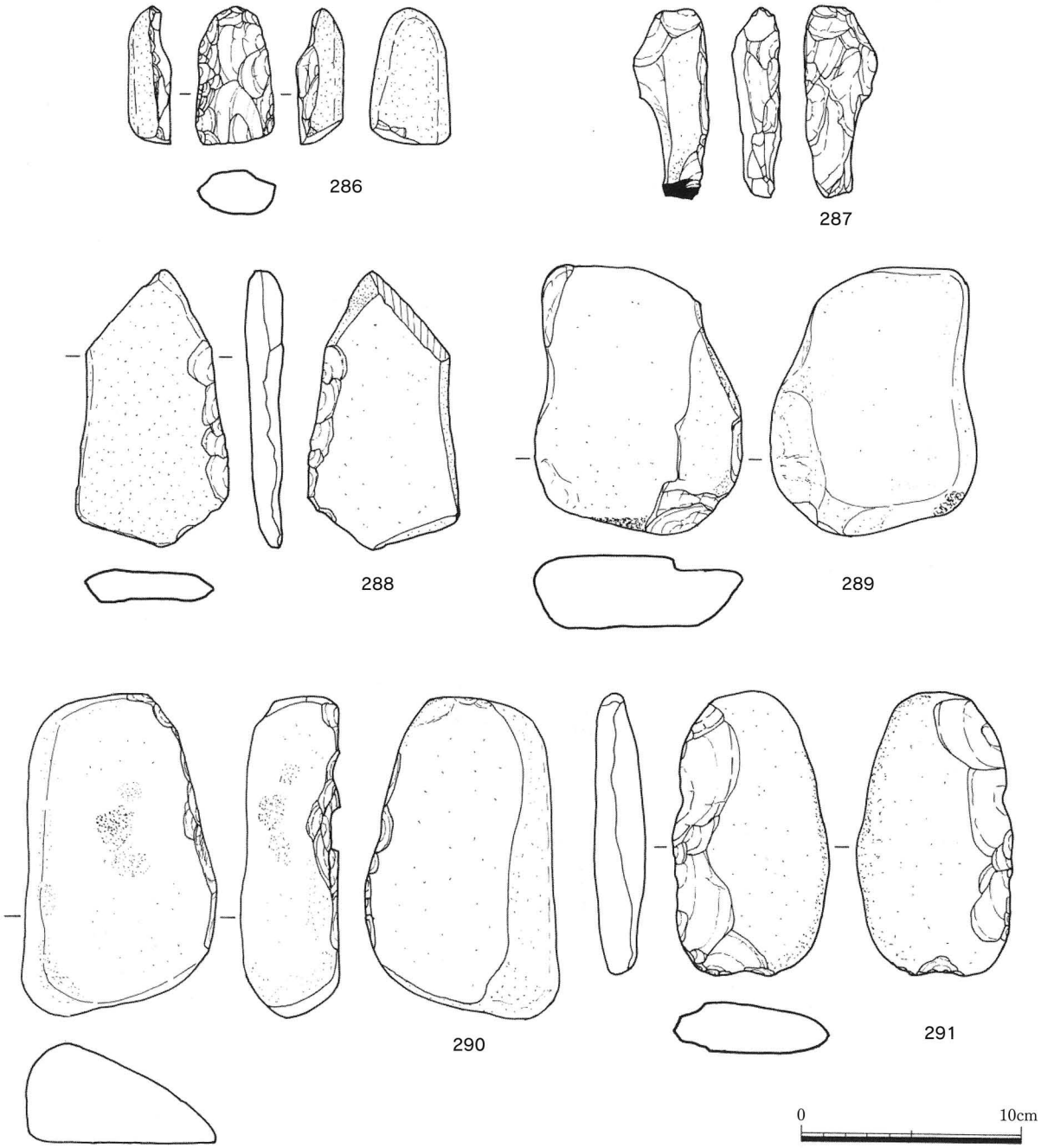
る。３３１は受熱のためか赤変して、もろくなっている。使用痕は顕著に残る。３３３は使用時の衝撃のためか１／３を欠損している。端部だけでなく側面の縁部分にも使用痕が見られる。３３４は洋ナシ型の礫を使用した叩き石で、端部には顕著な剥離痕が見られる。反対側の端部と側面には敲打痕がある。受熱による風化が顕著である。３３５には両面に磨痕が、側面に敲打痕が見られる。３３６には磨痕はなく敲打痕が側面にみられる。３３７には端部と側縁には丁寧な敲打痕が残るが、両面は自然面のままである。３３８は側縁の一部にのみ敲打痕が見られる。３３９と３４０には礫の両端と側縁部に敲打痕が残る。３４１には片面と両端部に敲打痕が残る。３４２は３３６のタイプが分割礫となったものである。３４３・３４４は両面を丁寧に磨き、側面にはあまり敲打痕が見られないタイプである。



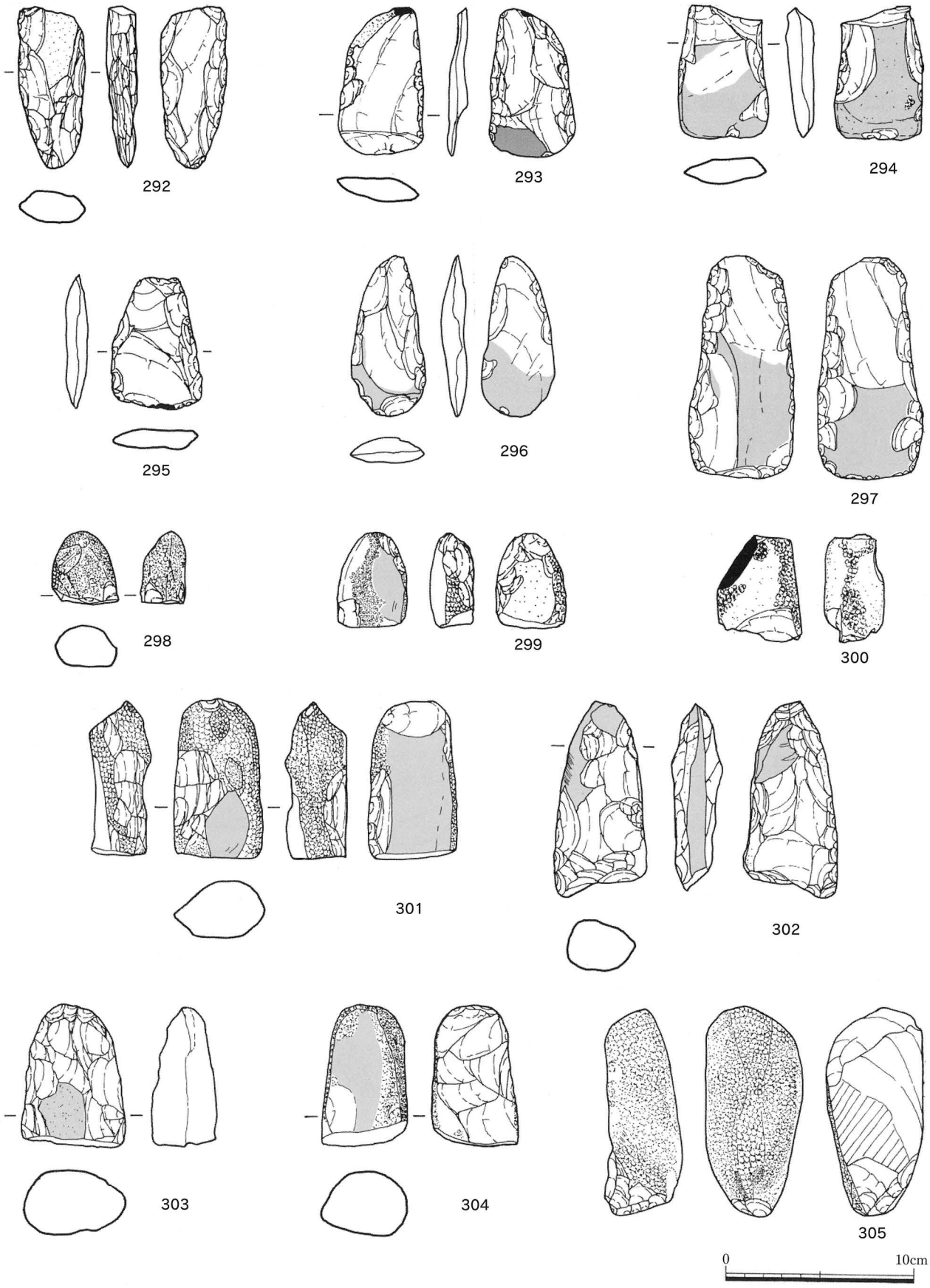
30.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑩(S=1/3、2/3)

３４４は半分が欠損しているが、割り面の縁にも利用の後が見られる。３４５は両面を丁寧に磨き側返全周に敲打痕が残るタイプである。３４６は、１－Ｃ区のＶ層中より出土した砂岩製の台石である。顕著な敲打痕・磨痕はみられない。

石材は、石鏃や剥片石器ではまれに姫島産等の黒曜石が利用されているが、ほとんどがチャートや頁岩、安山岩、ホルンフェルス、緑色岩等五ヶ瀬川の転礫が利用されている。石斧では凝灰岩、砂岩、ホルンフェルスが利用されているが、扁平打製石斧ではほとんど砂岩を利用している。この砂岩の剥片を利用した石器も多いが、多くの石器には片面に自然面を残している。敲打器には砂岩が多用され、凝灰岩やホルンフェルス、花崗斑岩も利用されている。



31.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑪(S=1/3)

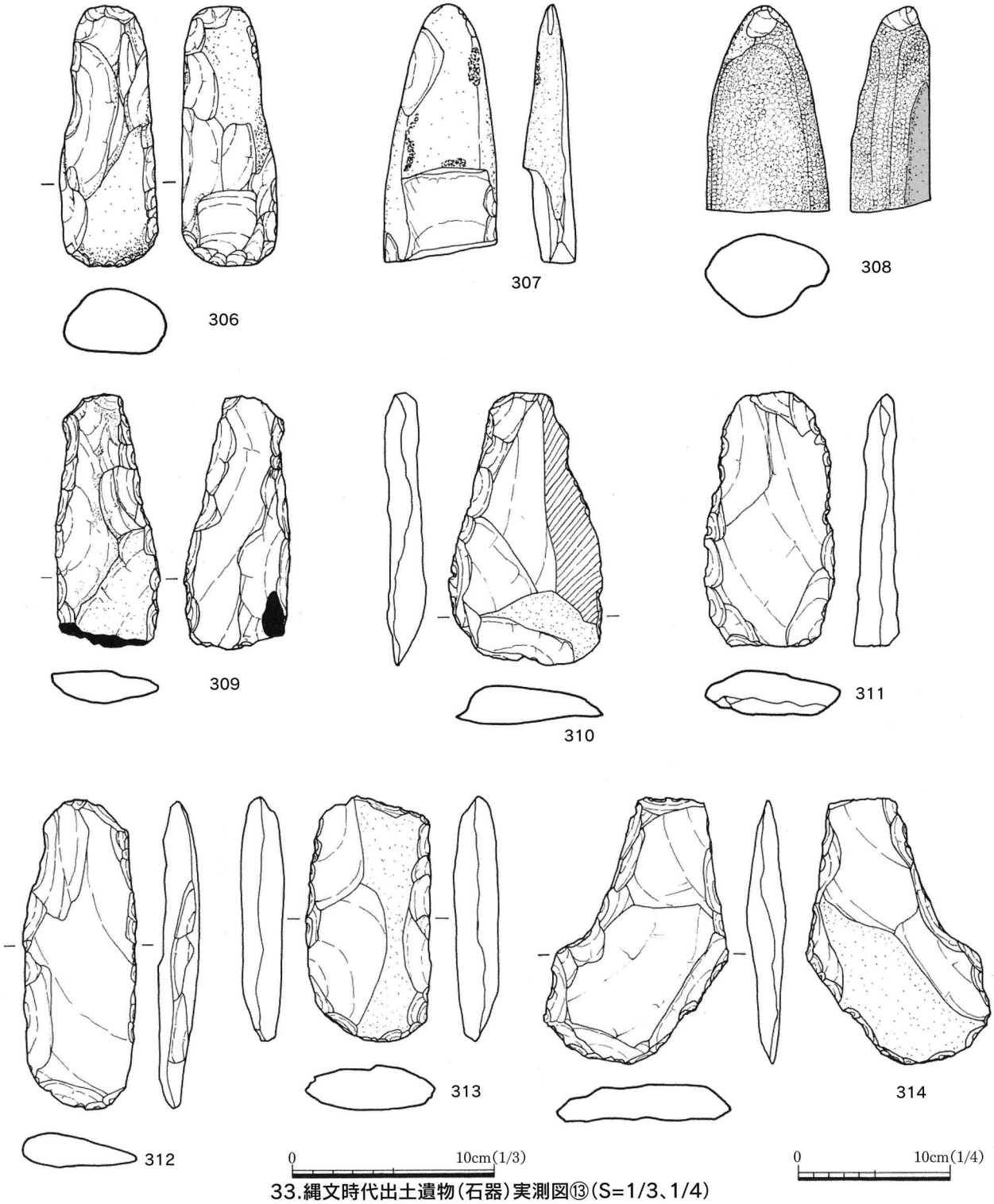


32.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑫(S=1/3)

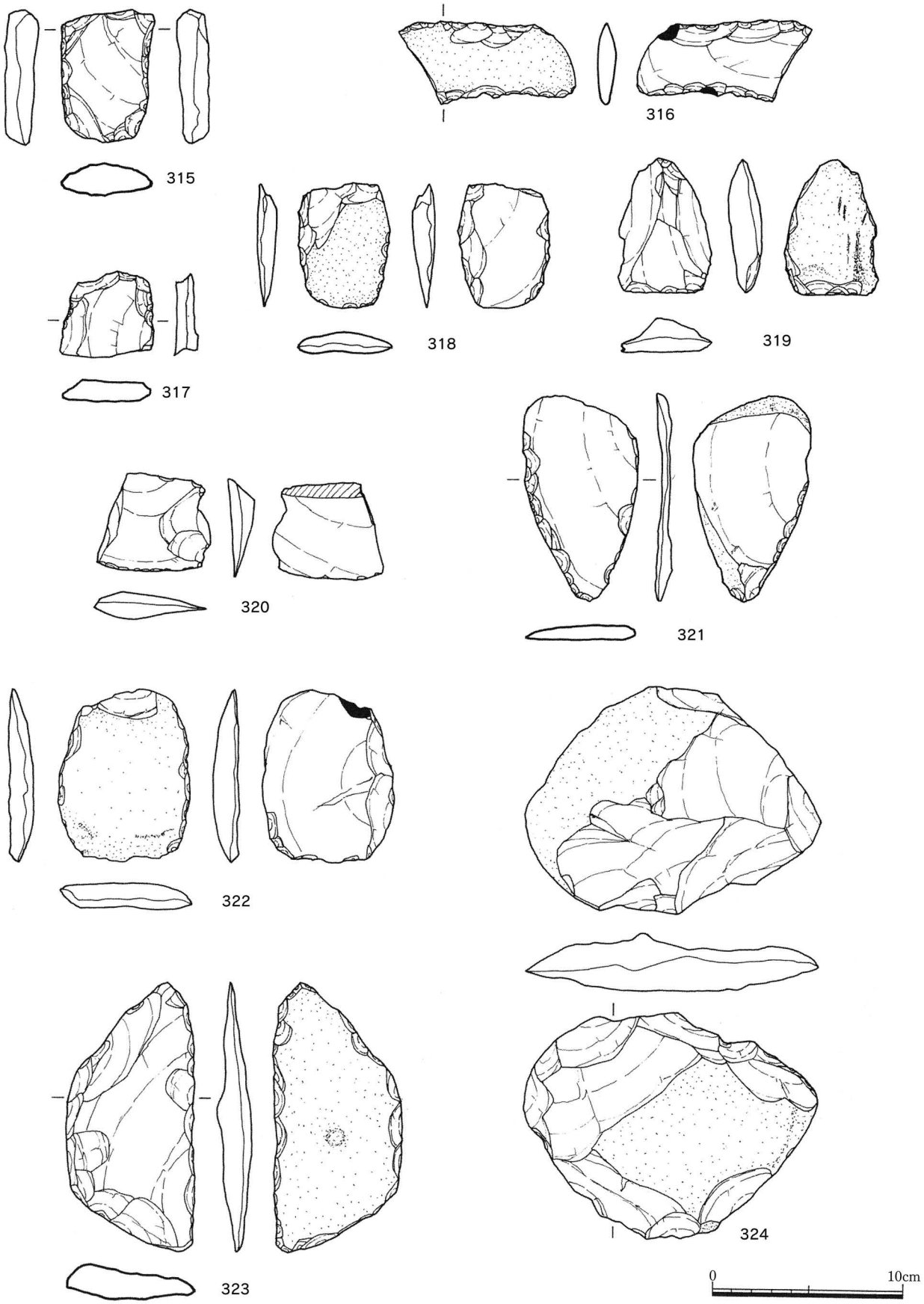
弥生・古墳時代

この時期の遺構としては竪穴住居跡が１０軒確認された。１－Ａ区で６軒、Ｂ区で３軒、Ｃ区で１軒となっている。竪穴住居跡内から出土した遺物から時期としてはほぼ古墳時代前期に営まれたものと考える。竪穴住居跡間には重複関係は認められなかった。

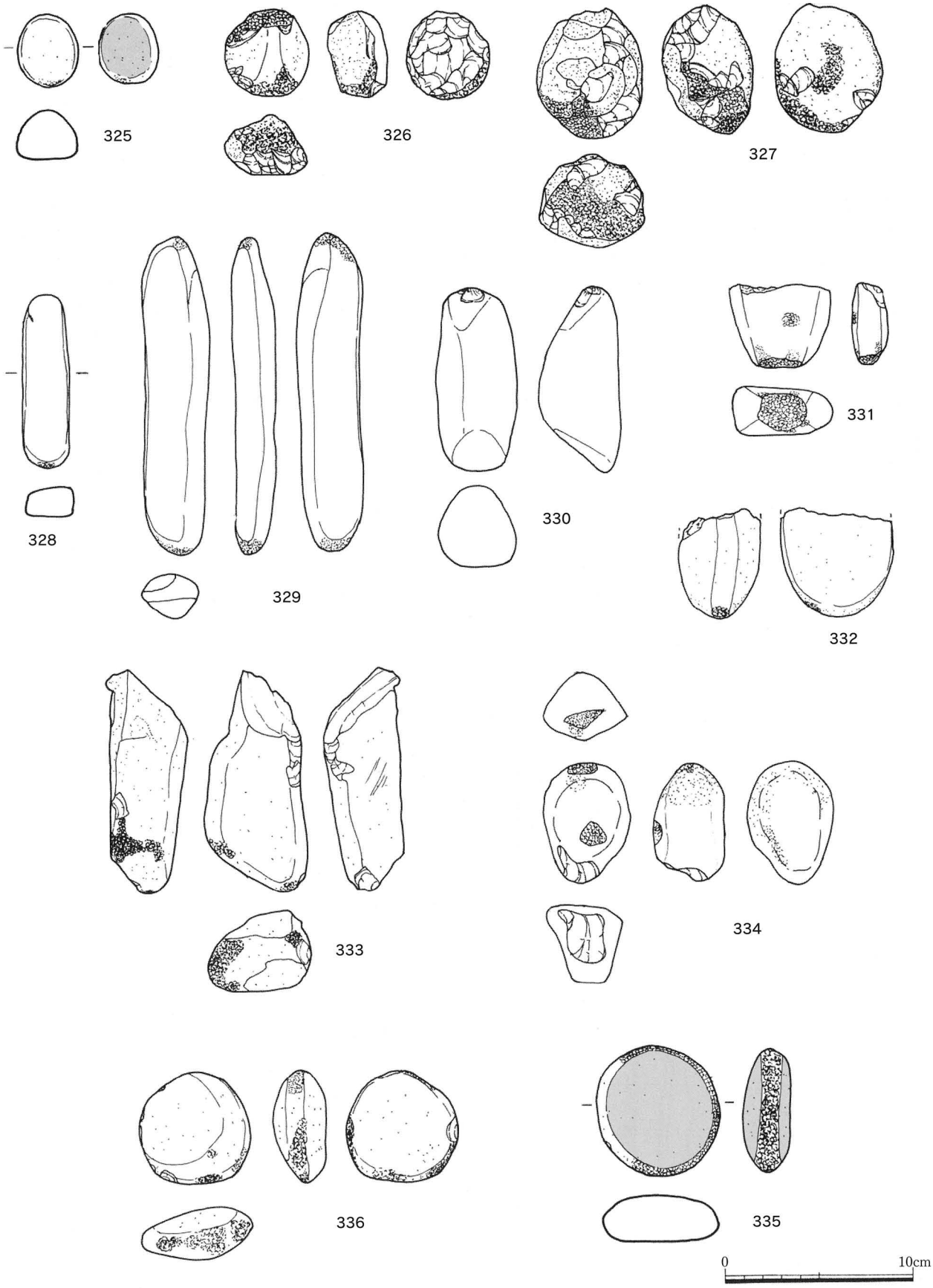
この他の遺構としては、土坑や柱穴も検出されたが、当該期の遺物が主体的にでないことやＣ区では中・近世の遺物も同レベル・同一層中から出土しているため弥生・古墳時代のものと特定することができない。



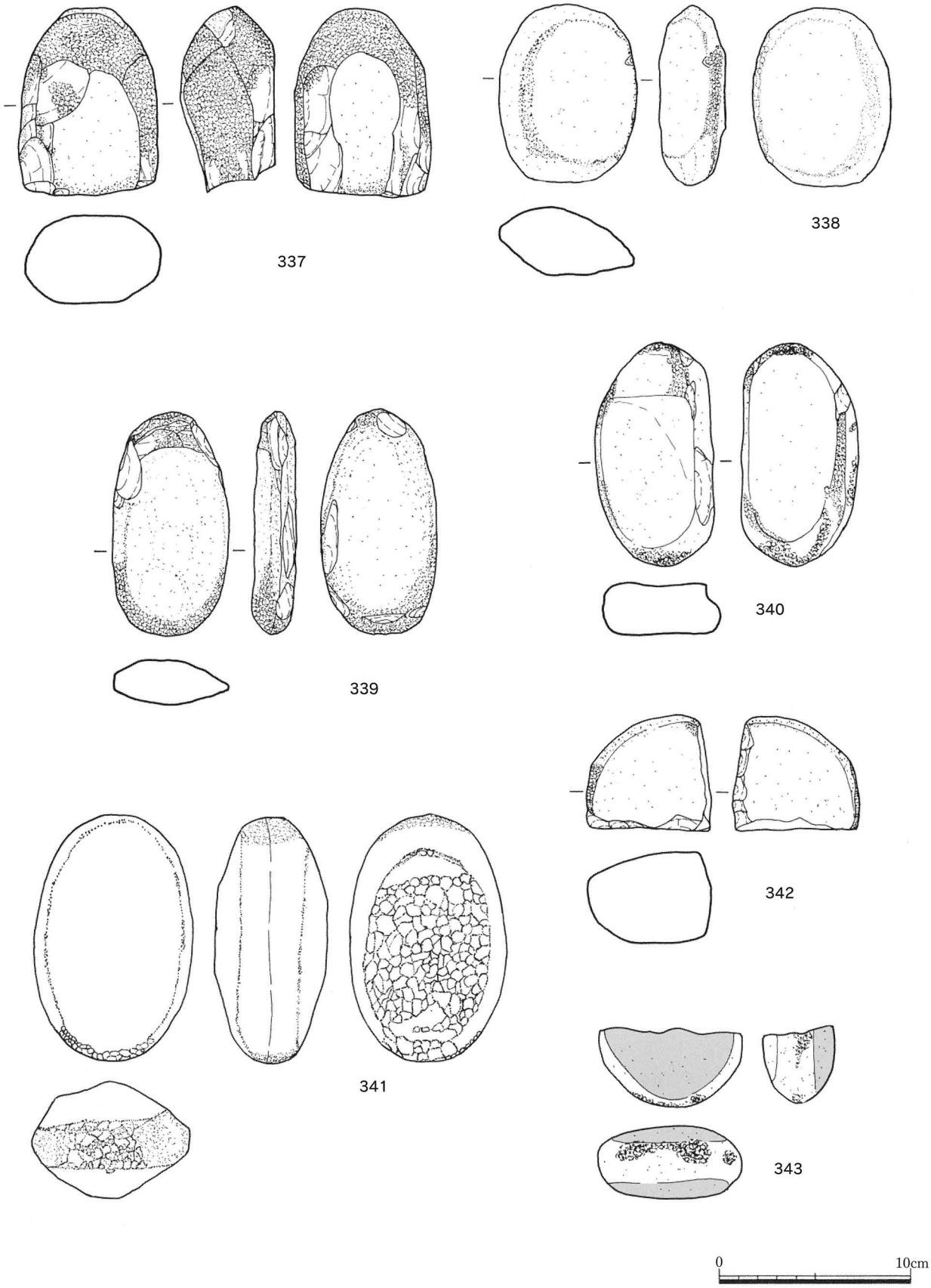
33.縄文時代出土遺物（石器）実測図⑬（S=1/3、1/4）



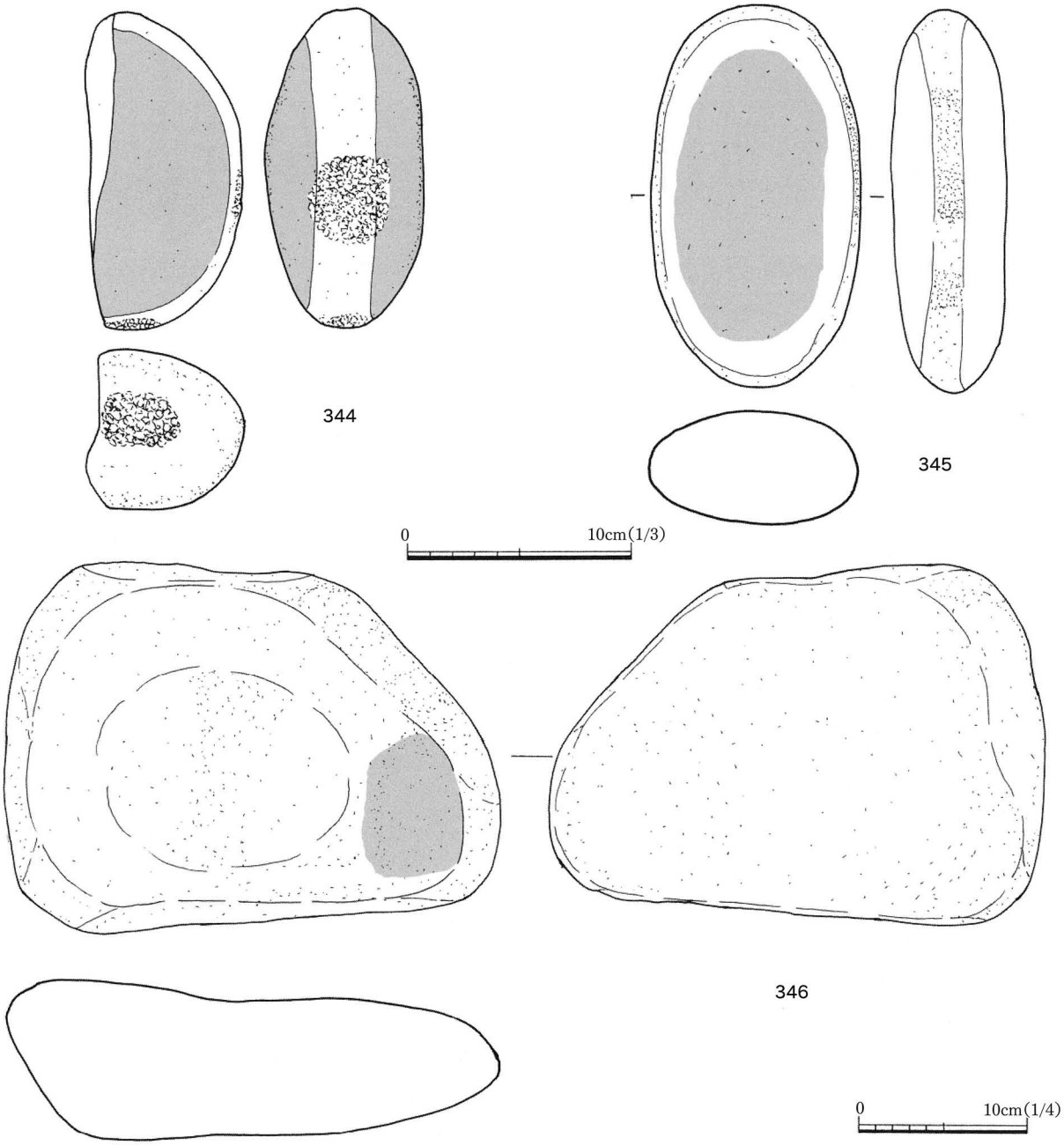
34.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑭(S=1/3)



35.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑮(S=1/3)



36.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑯(S=1/3)



37.縄文時代出土遺物(石器)実測図⑰(S=1/3、1/4)

また、遺物のほとんどがC区のV層中から出土し、A区・B区では竪穴住居跡以外からはほとんど出土していない。弥生時代後期から古墳時代の遺物については、分離することが困難なものが多いので別項でまとめて述べる。遺物のほとんどは土器で、須恵器も若干出土している。

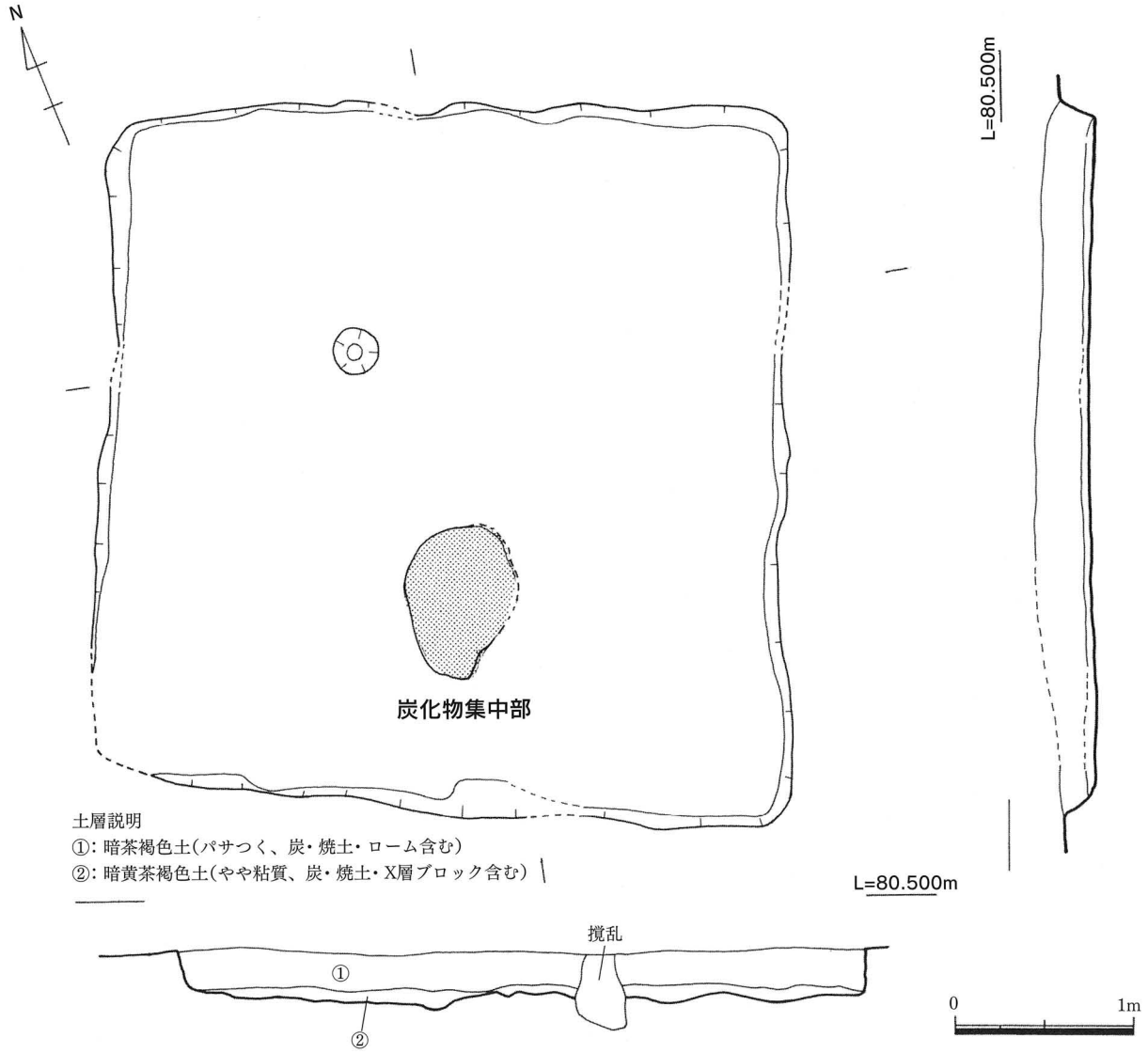
C区では、V層を掘り下げる段階で床面と思われる硬化面と柱穴を検出したが、覆土は確認できなかった。同レベルで台石（３４６）が出土しているが、焼土の集中部は確認できていない。また、南東部分の硬化面は削平により不明である。出土遺物も縄文時代晩期の遺物との混在が見られ明確に当該期の遺構と判断できなかったため、別項で建物遺構として取り扱っている。

１号竪穴住居跡

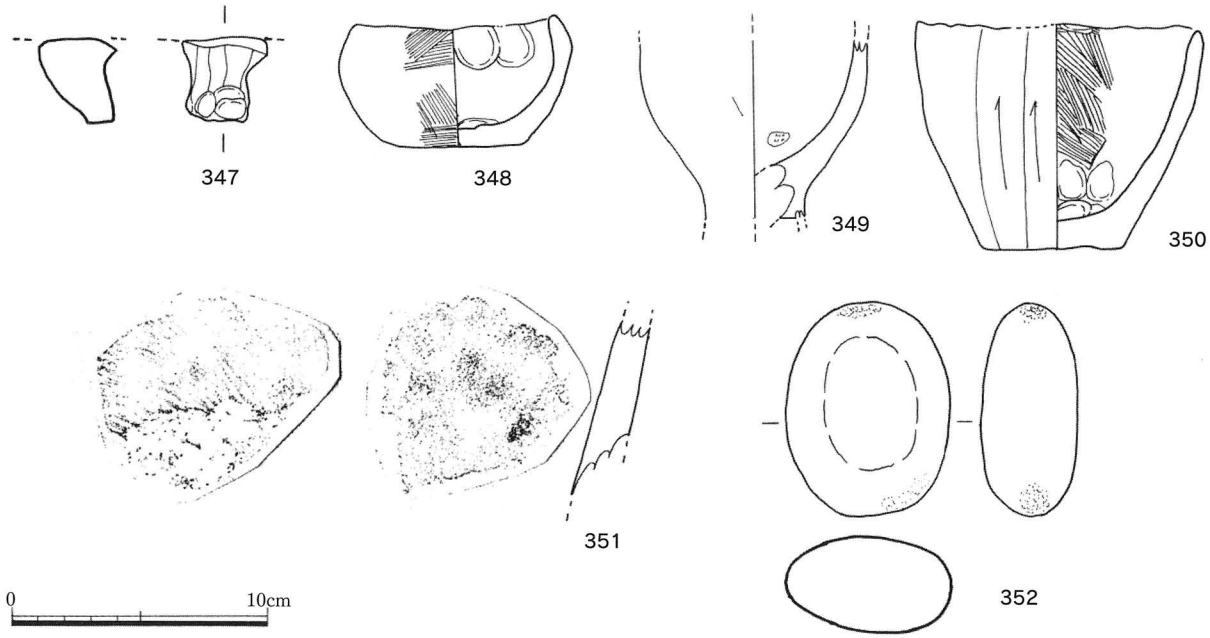
平面形は隅丸方形でピットを１つと床面直上で炭化物集中部を検出した。長軸は４．０８ｍ、短軸は３．８２ｍを測り、検出面から床面までは０．３ｍである。床面はほぼ平坦で、出土遺物には高杯の脚との接合部を埋める部品（３４７）、椀（３４８）、壺（３４９・３５１）、鉢（３５０）、砂岩製の磨石（３５２）、不明鉄器（３５３）の基部がある。遺物量は少なく、覆土には耕作土が混じる。
炭化物の分析を行なった結果、１，０３７ＡＤ～１，１６０ＡＤの値がでている。木根等による撹乱の影響も考えられる。

２号竪穴住居跡

平面形は細長い台形上を呈す。ピットは確認できなかった。中央部分が床面よりやや盛り上がり、南側にやや寄ったところに焼土と炭化物の集中部が見られる。長軸は４．７６ｍ、短軸は上底部分３．



38.１号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



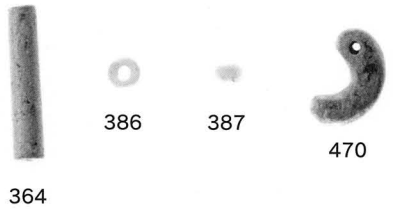
39.１号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)

７６ｍ、下底部分４．３８ｍを測り、検出面から床面までは０．３２ｍである。貼床が認められる。床面はほぼ平坦であるが、床面上部にＸ層が露出しているためか凸凹した部分をローム層で塞いでいる状況である。出土遺物には甕（３５４・３５５）、砂岩製の砥石（３５６・３５７）、頁岩製の不明石器（３５８）、錐状鉄器（３５３）、不明鉄器（３６０・３６１）がある。３５８は側面に磨痕があり砥石としての機能も考えられる。錐状鉄器は勾玉などの穿孔に使われた可能性が高い。

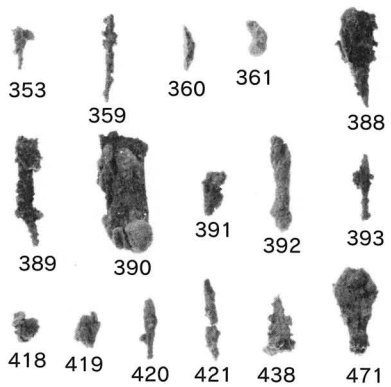
炭化物の分析を行なった結果、２０８ＡＤ～２６１ＡＤの値がでている。また、炭化材は分析の結果、ツバキ科ツバキ属と同定されている。用途は不明である。

３号竪穴住居跡

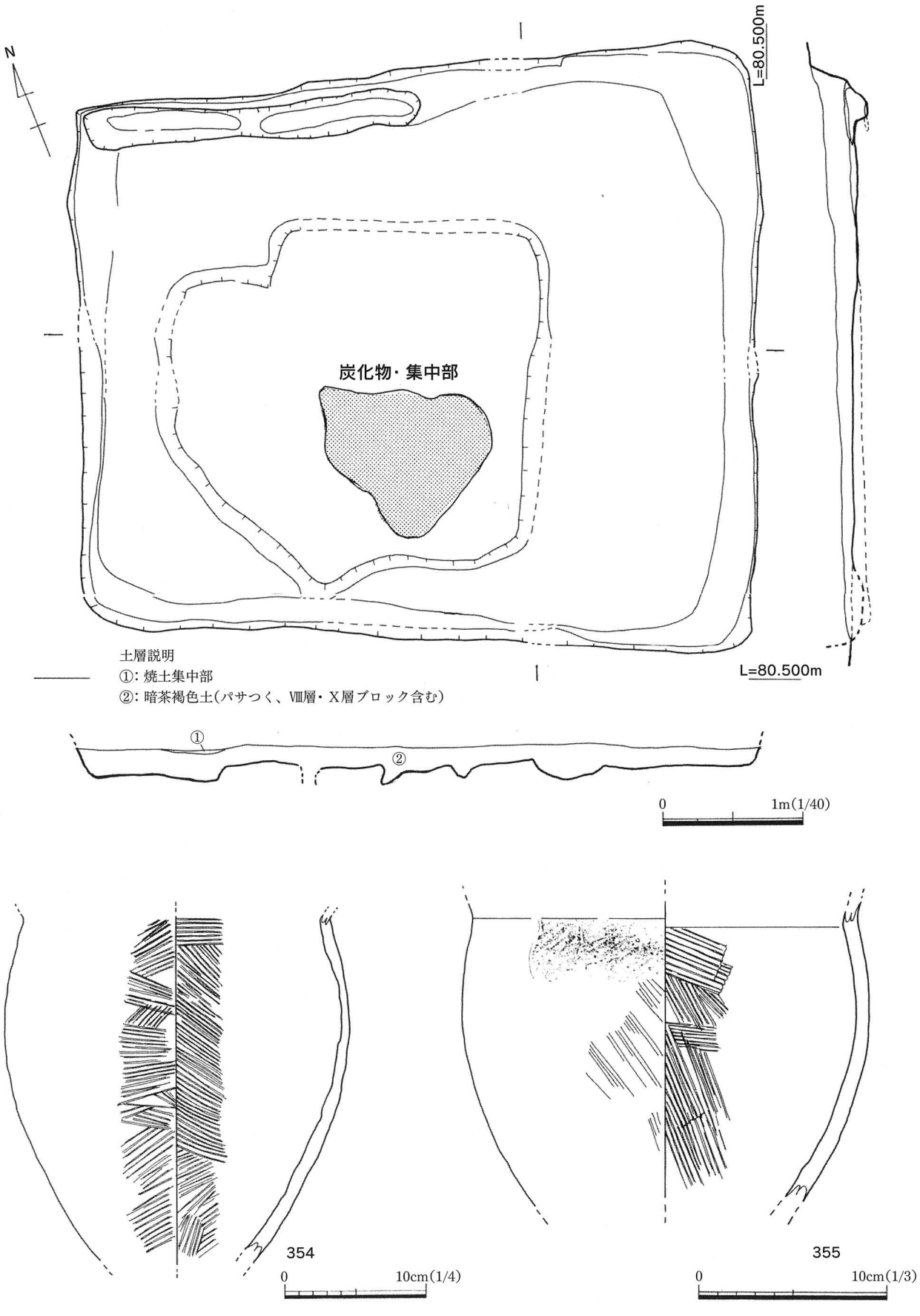
平面形は隅丸方形で中央部に炭化物や焼土の集中部が散在する。ピットは検出されず、南側の隅に土坑が掘られ壺底部（３６２・３６３）が出土している。長軸は３．６４ｍ、短軸は３．４４ｍを測り、検出面から床面までは北東側の斜面上部で０．２ｍである。南西側の斜面下部では覆土の状態からか



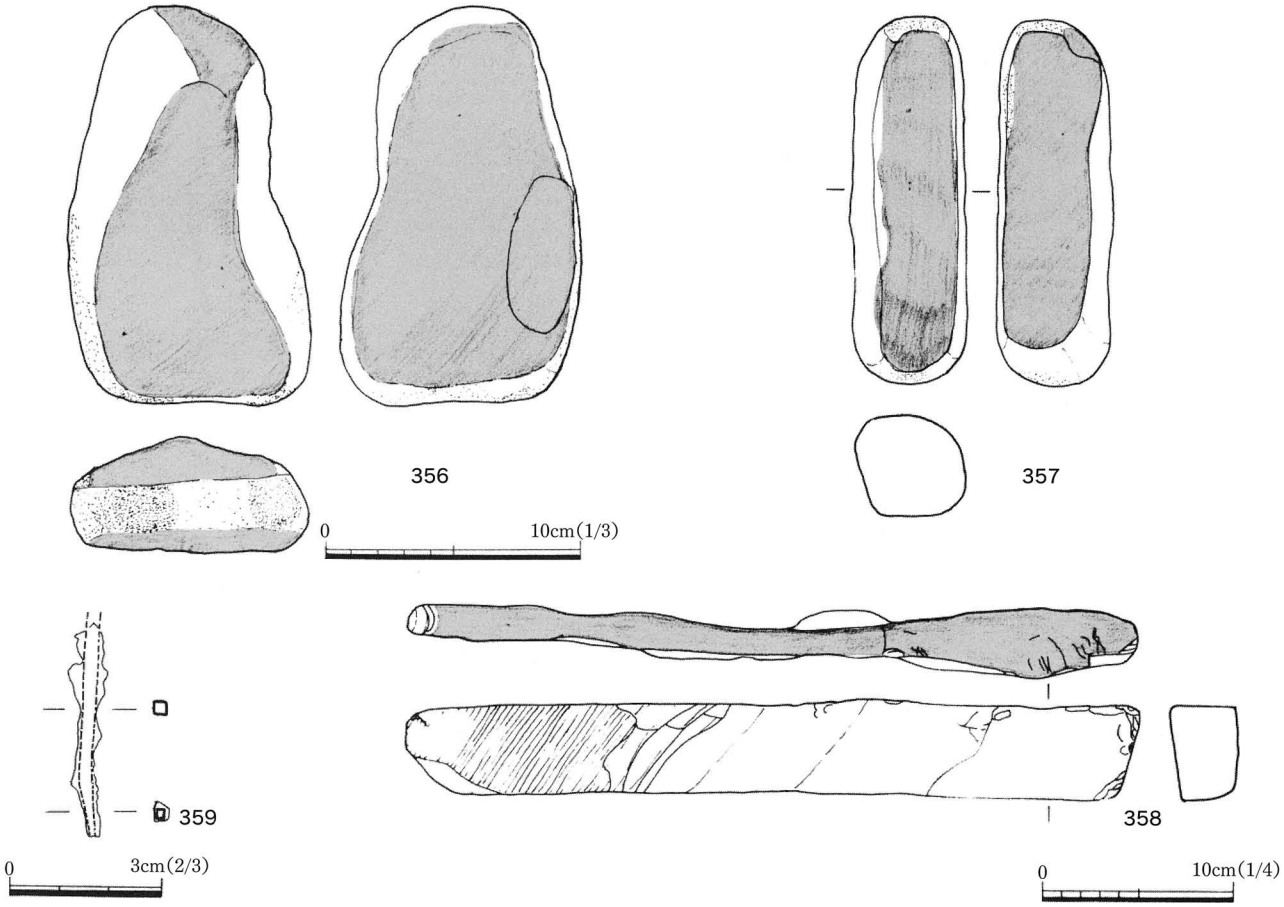
40.出土遺物写真(玉類)



41.出土遺物写真(鉄器類)



42.2号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/3、1/4、1/40)



43.２号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、2/3、1/4)

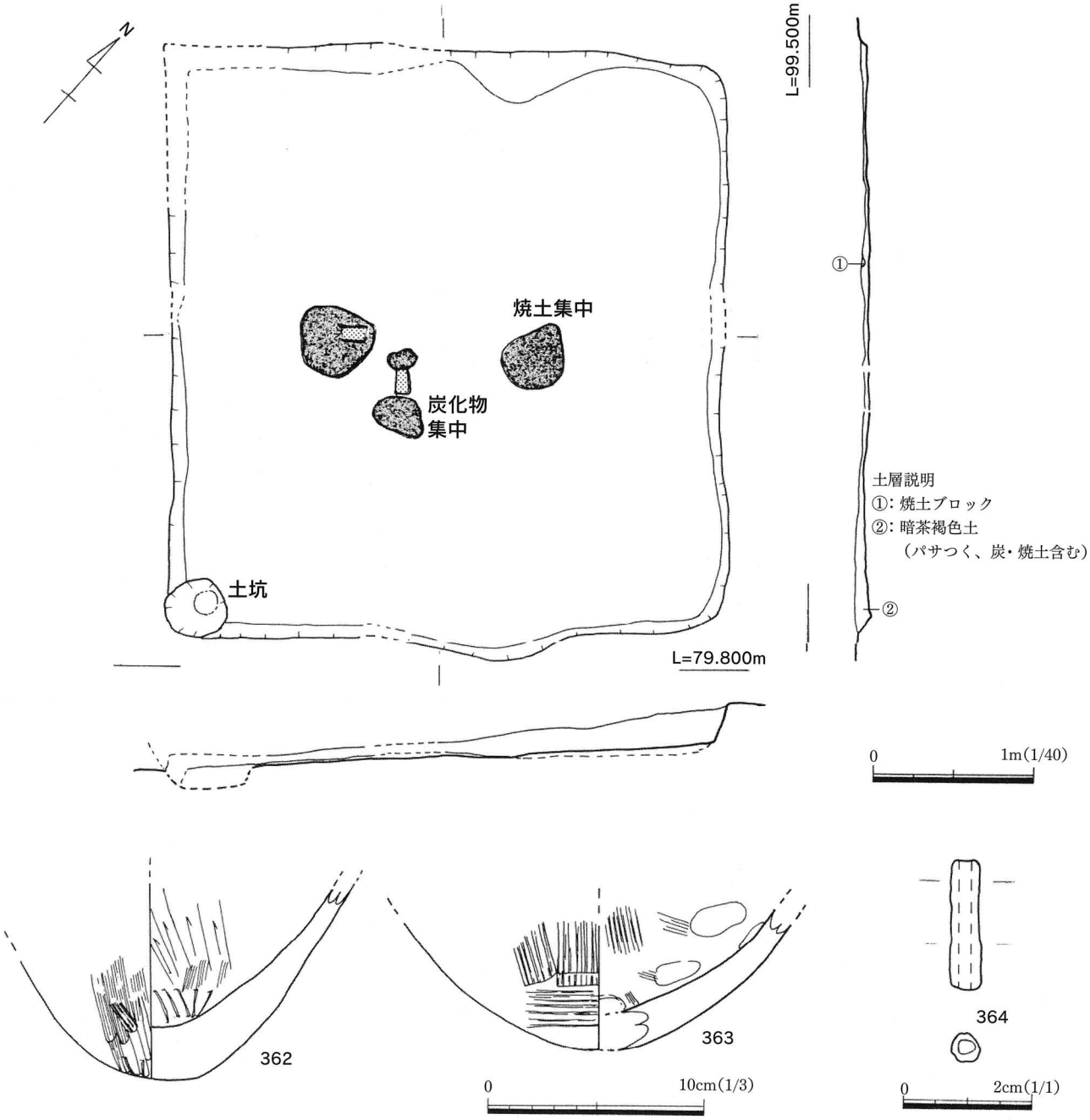
ろうじて床面の立ち上がりを確認した。床面はほぼ平坦で、出土遺物には、東側の壁際で凝灰岩製の管玉が出土している程度である。炭化物の分析を行なった結果、２４４ＡＤ～３５７ＡＤの値がでている。

４号住居跡

８．９２ｍ×７．９３ｍの長方形を呈し、検出面から床面までは０．６９ｍを測る。床面は平坦で、貼床が見られる。主柱穴は４本で、中央に１ヶ所、南東と北西の柱穴の横にさらに１つずつ柱穴が掘られる。当遺跡で検出した他の竪穴住居跡の柱穴と比べると、規模も関係すると思われるが、数も多くしっかりとしている。

中央の柱穴の北側にはかなり広範囲に焼土及び炭化物の集中が見られたが、５㎝程度の堆積層が床面上に見られのみで土坑状の掘り込みはなかった。中央の柱穴の南側にはやや楕円形を呈する浅い土坑を検出したが、焼土や炭化物は検出されず、土坑の南側にほぼ同規模の焼土の集中が見られた。北側の焼土の集中部と同様に土坑状の掘り込みは見られなかった。北側の焼土集中部より出土した炭化物の分析を行なった結果、２４４ＡＤ～３５７ＡＤの値がでている。

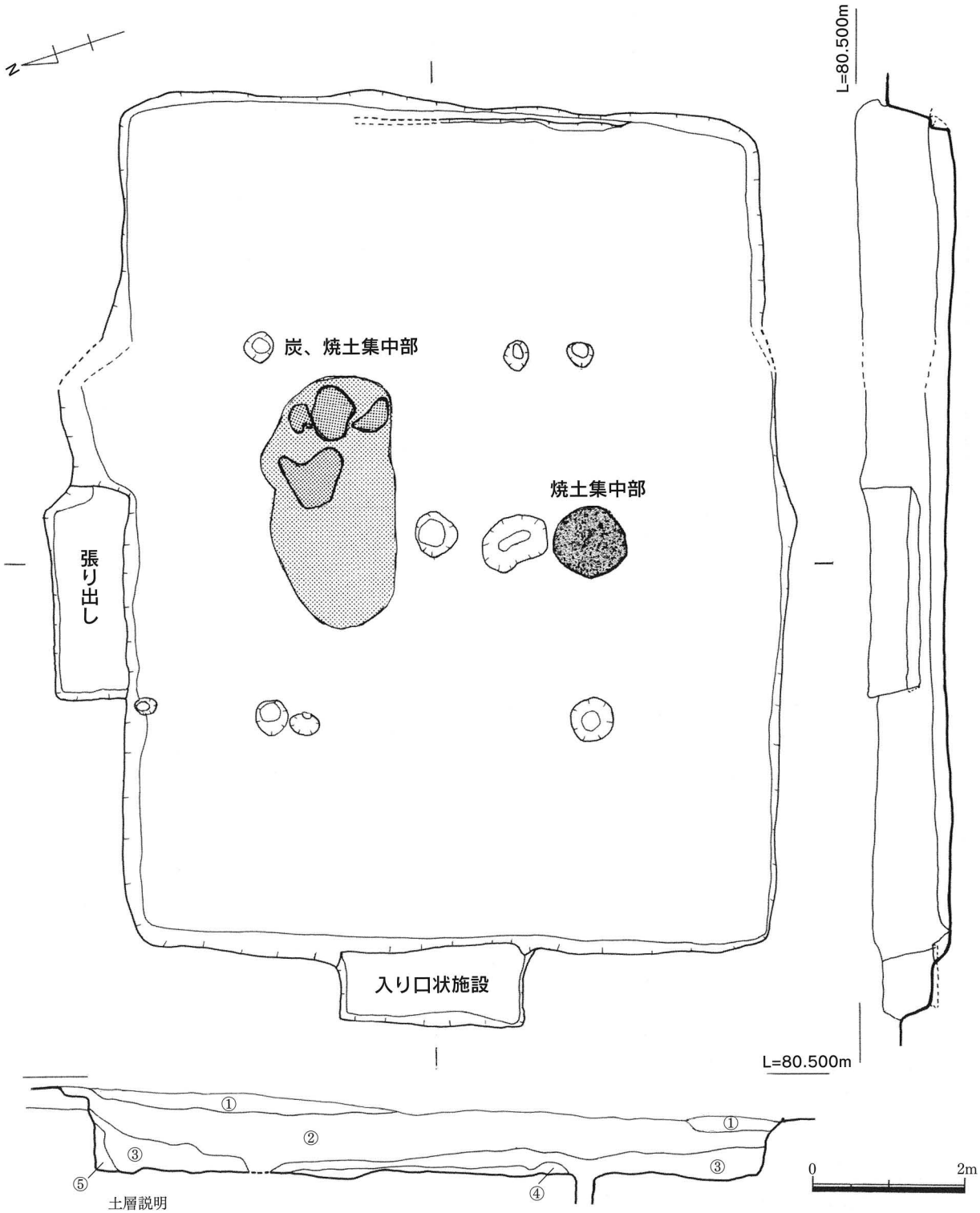
北側の壁際で小ピットが確認された。近くには棚状の張り出しが確認され、何らかの関連も伺われる。棚状の張り出し部からは土器片が若干出土したのみである。



44.３号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/1、1/3、1/40)

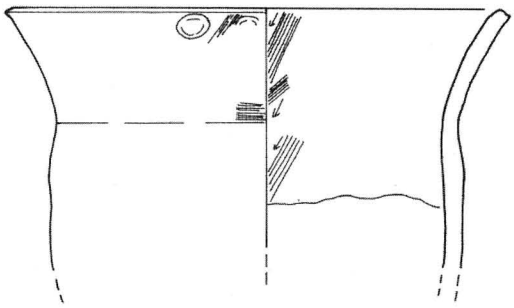
西側の張り出しの規模は、北側の張り出しとほぼ同規模であるが、床面に近い位置で段が形成されるため、入り口状施設と推察される。床面は平坦で北側の張り出し状遺構に比べかなり硬くしまっている。東側の壁際には、入り口状施設と同レベルで狭い段を検出したが、中央から北側部分は確認できなかった。入り口状施設との関連については不明である。

出土遺物には、甕（３６５・３６６)、壺（３６７～３６９・３７１)、緑色岩の石核（３７０)、砂岩製の敲打器（３７２)、砂岩製の叩石（３７３・３７４)、頁岩製の砥石（３７５・３７６)、凝灰岩製の磨石（３７７)、鉄分が付着した砂岩製の敲打器（３７８)、砂岩製の磨石（３７９・３８０)、荒割した砂岩礫の角部分に敲打痕を施す石器（３８１～３８３)、細長い砂岩礫の八面をすり面とと



土層説明
①: 明茶褐色土(パサつく、炭・焼土含む)
②: 暗茶褐色土(パサつく、炭・焼土含む)
③: 黄茶褐色土(やや粘質、炭・焼土含む)
④: 明黒褐色土(粘質、炭・焼土含む)
⑤: 暗黄茶褐色土(やや粘質、炭・焼土・Ⅷ層ブロック含む)

45.4号竪穴住居跡実測図(S=1/80)

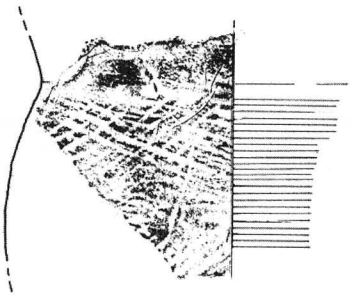


365

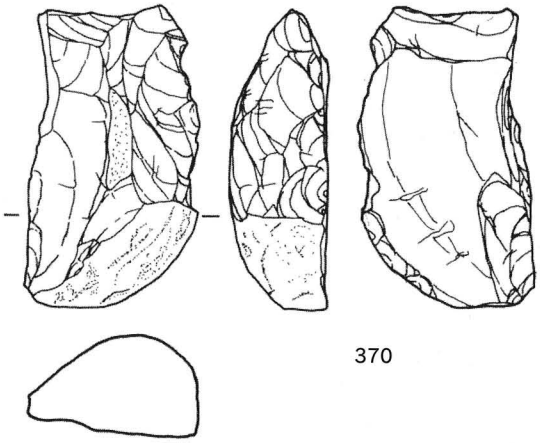
366

367

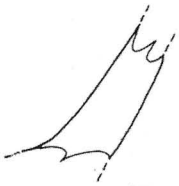
368



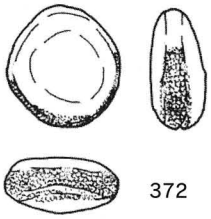
369



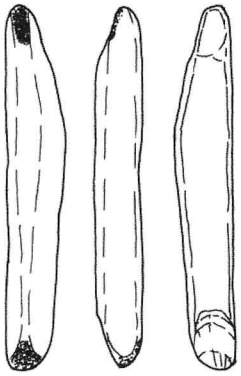
370



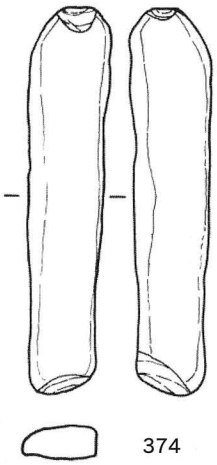
371



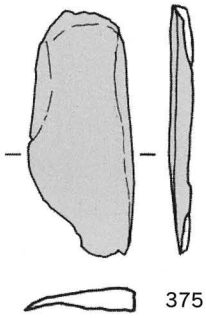
372



373



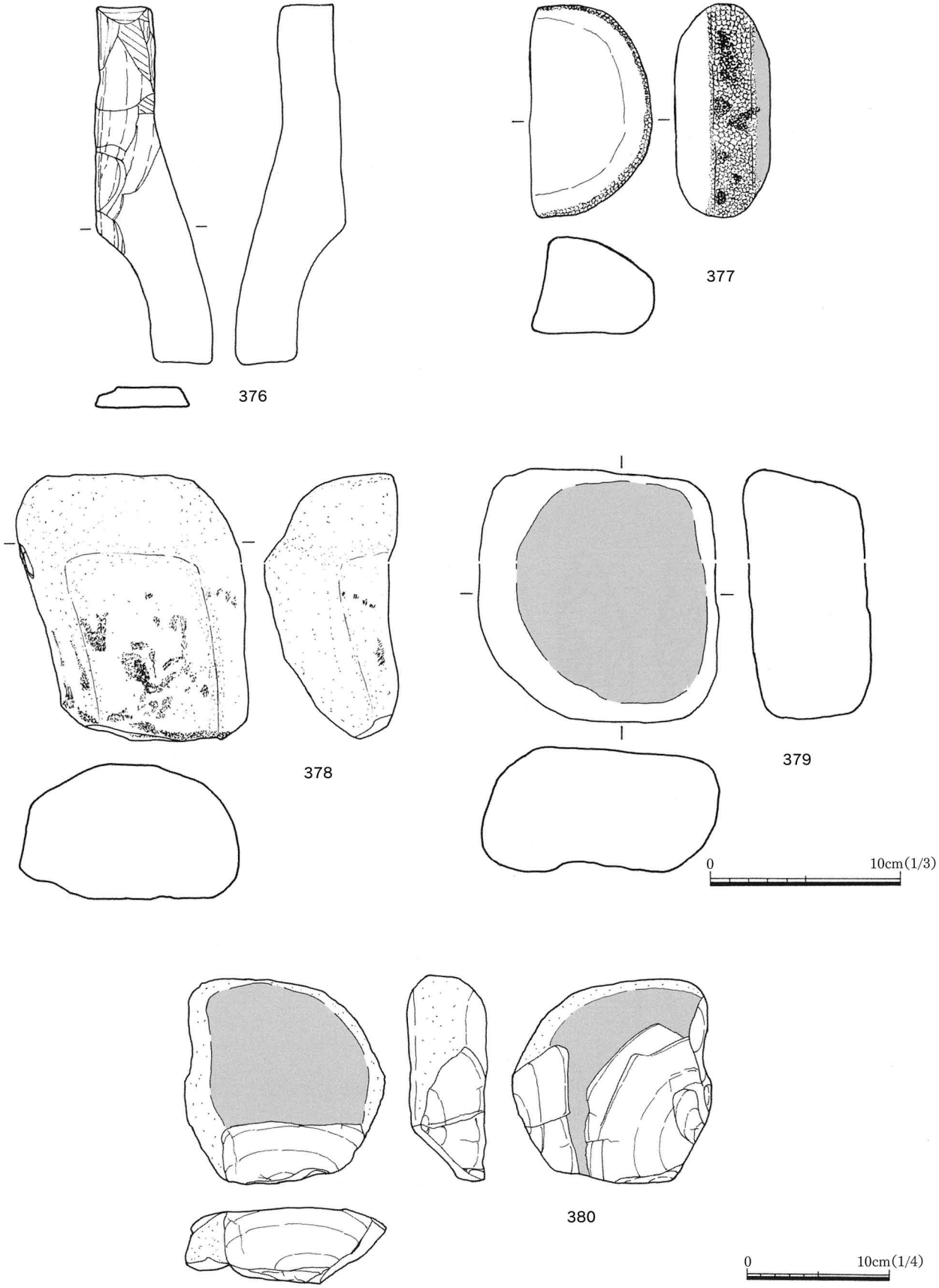
374



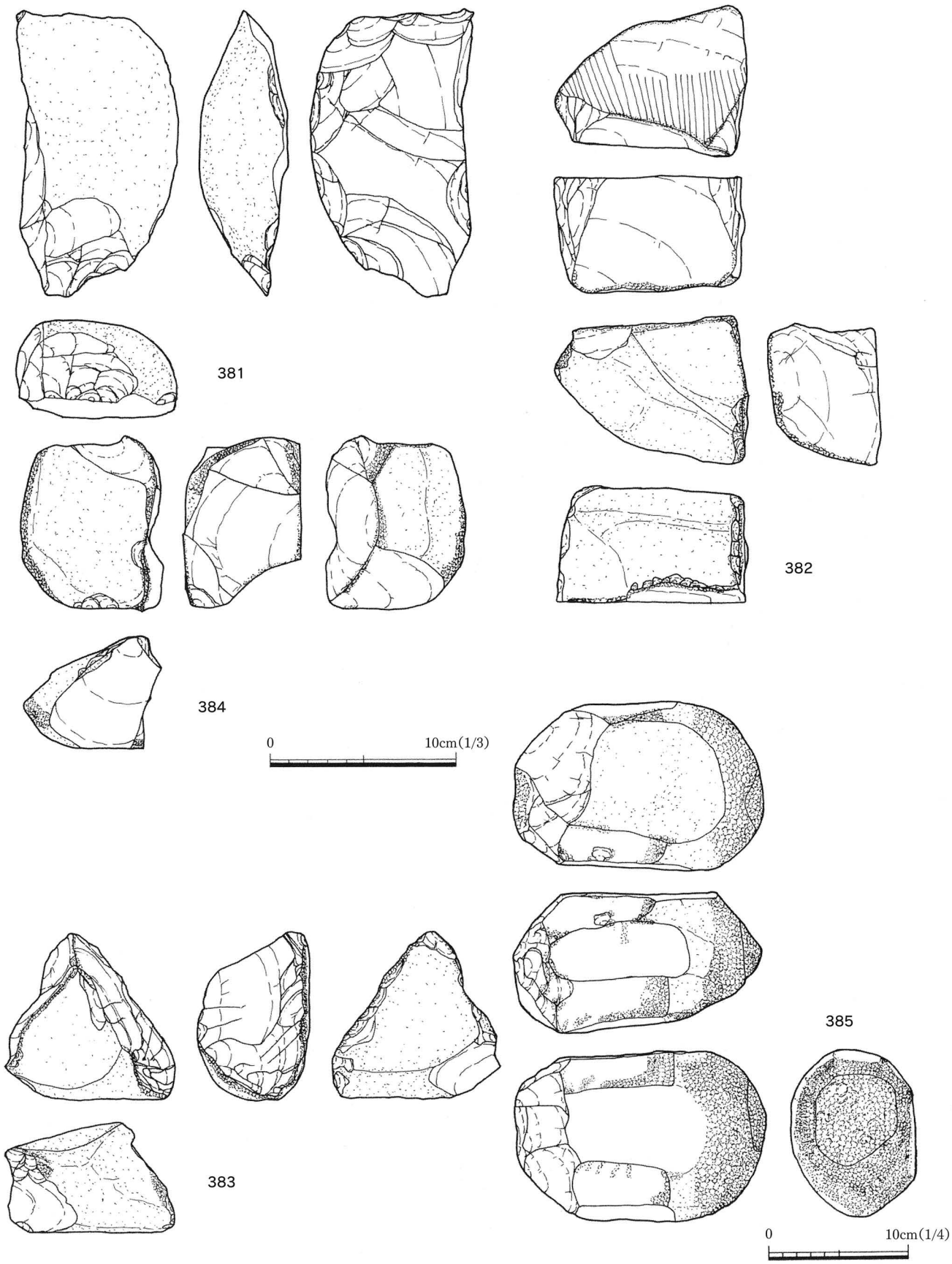
375

0 10cm

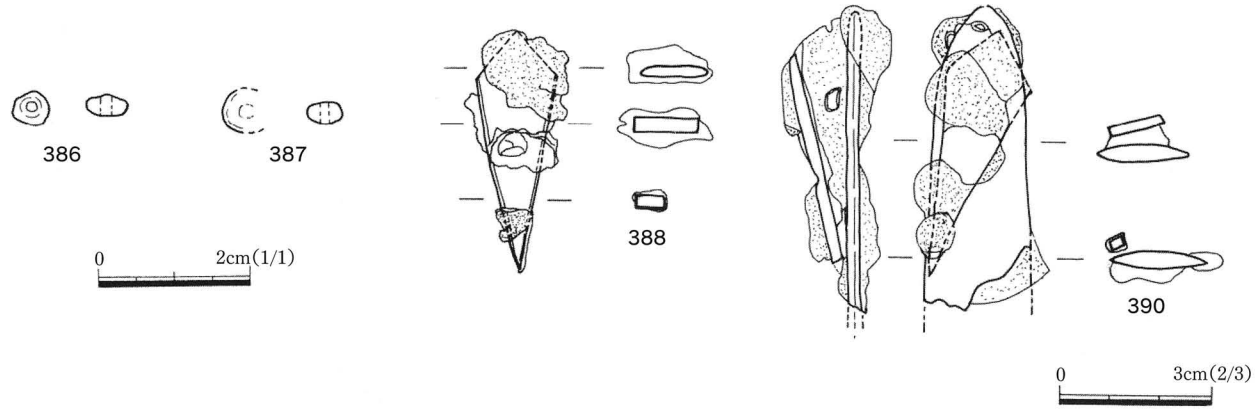
46.4号竪穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3)



47.4号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)



48.4号竪穴住居跡出土遺物実測図③(S=1/3、1/4)

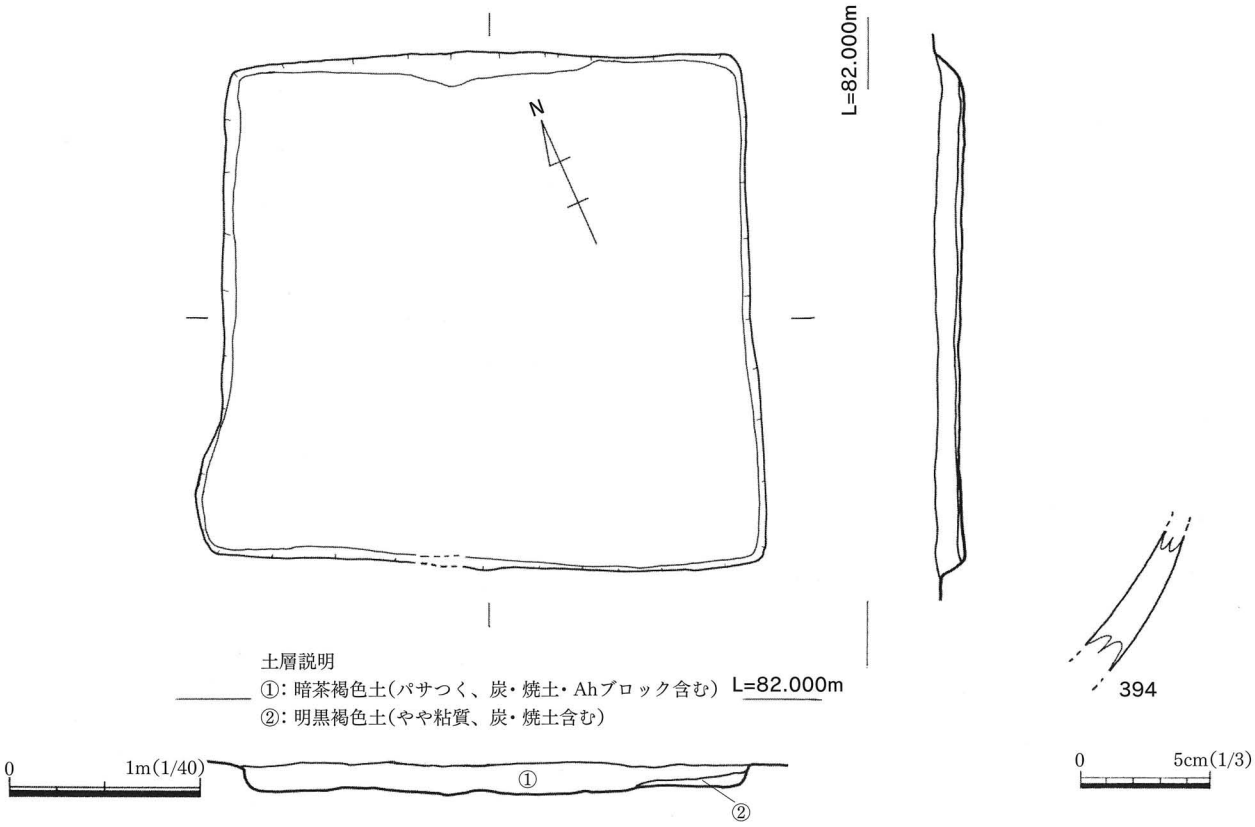


49.４号竪穴住居跡出土遺物実測図④(S=1/1、2/3)

して使用し一端には丁寧な敲打痕が見られる石器（３８５)、ガラス小玉（３８６・３８７)、圭頭鏃（３８８)、刀子（３８９)、短剣の先端部分に鉄鏃がくっついたもの（３９０)、柳葉鏃（３９２)、不明鉄器（３９１・３９３）がある。焼土やしっかりした柱穴、棚状遺構あるいは鉄器や石器等の出土遺物から工房的施設を髣髴とさせる。

５号竪穴住居跡

平面形は方形でピット･焼土集中部等は検出していない。長軸は３．０２ｍ、短軸は２．７２ｍを測り、検出面から床面までは０．１６ｍである。床面はほぼ平坦で、出土遺物は少なく、壺（３９４）等が



50.５号竪穴住居跡及出土遺物実測図(S=1/3、1/40)

若干出土しているのみである。床面はⅦ層で縄文時代早期の遺物や焼けた礫が散在するためか貼床は見られない。

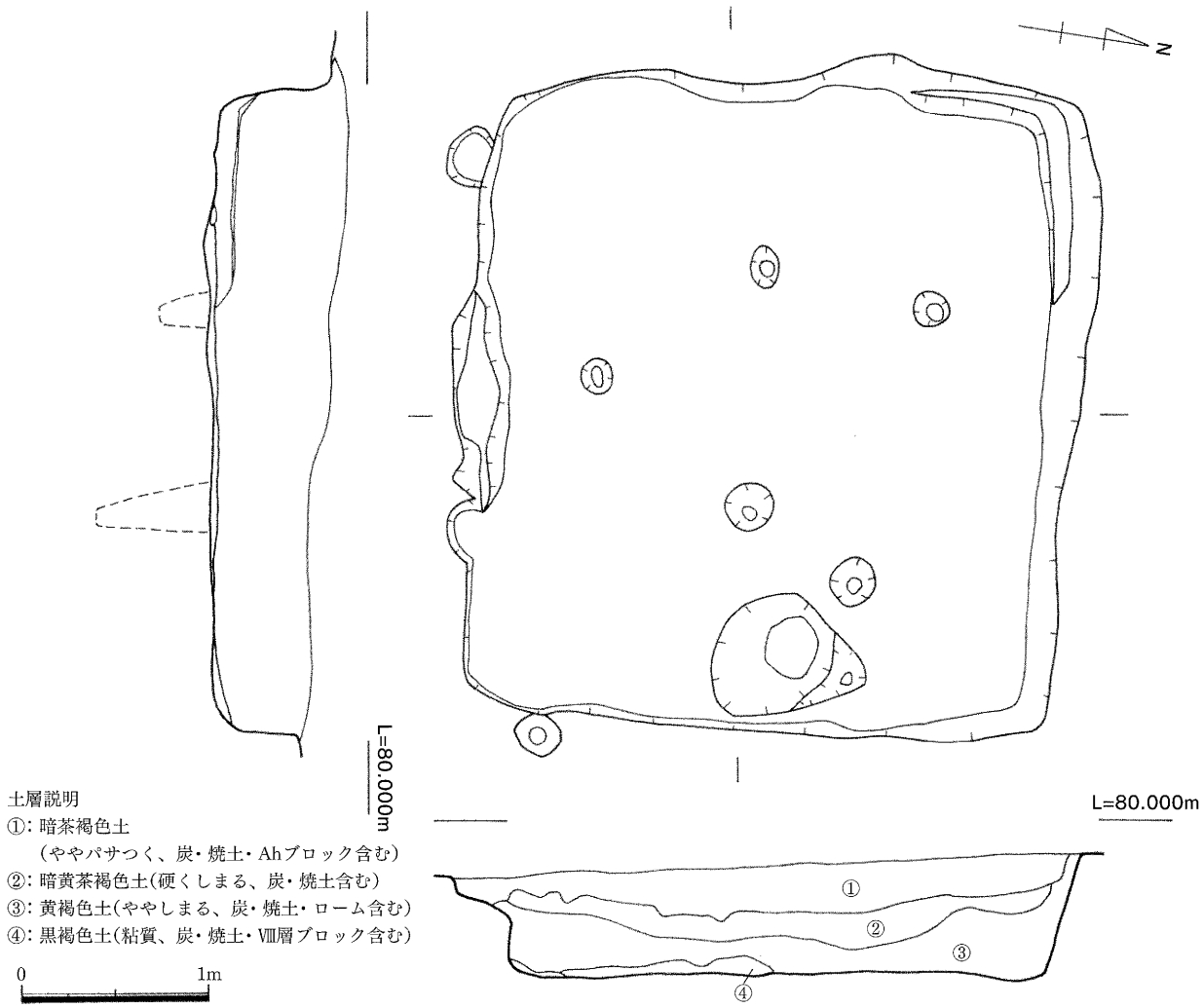
６号竪穴住居跡

平面形は隅丸方形で内部にピットを５つと外面に２つのピットを検出した。長軸は３．６６ｍ、短軸は３．２２ｍの比較的小ぶりながら、検出面から床面までは０．６６ｍを測る。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。

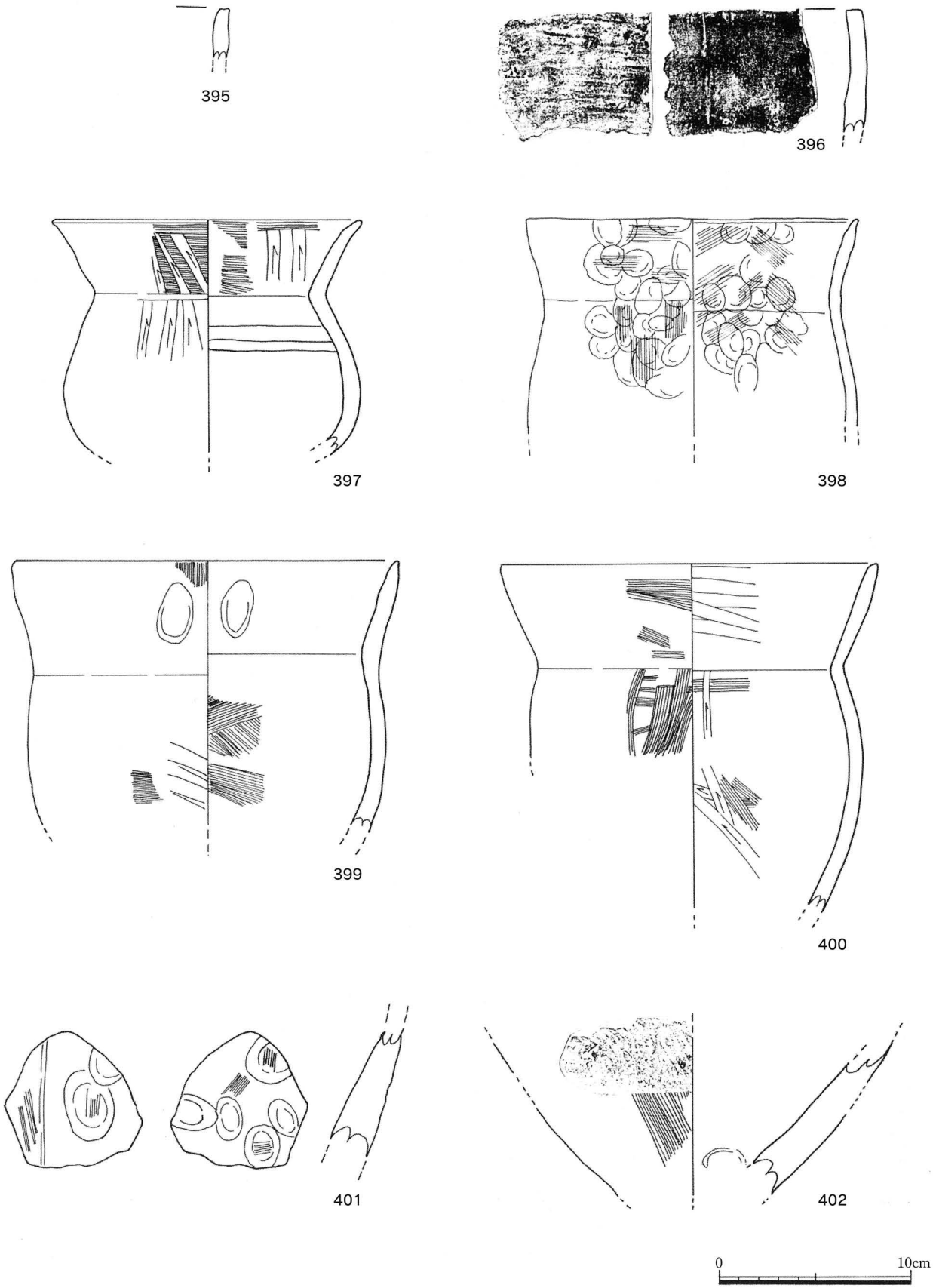
また、南側の壁中央の上位と北西隅下位に狭い段が見られる。東側の壁際には炭化物及び焼土の集中部を検出した。土坑状に浅くくぼむ。

出土遺物では他の竪穴住居跡に比べ量・質ともに土器類が充実し、甕（３９５～３９６、３９８～３９６、３９８～４００）壺（３９４・３９７・４０１～４０５・４０７～４１１）、鉢（４０６）、高杯（４１２・４１３）、椀（４１４）等が出土している。その他、頁岩製砥石（４１５・４１６）や砂岩礫（４１７）、錐状鉄器（４２１）や不明鉄器（４１８～４２０）が出土している。高杯の脚の一部が７号住居跡の高杯の脚（４３７）と接合している。

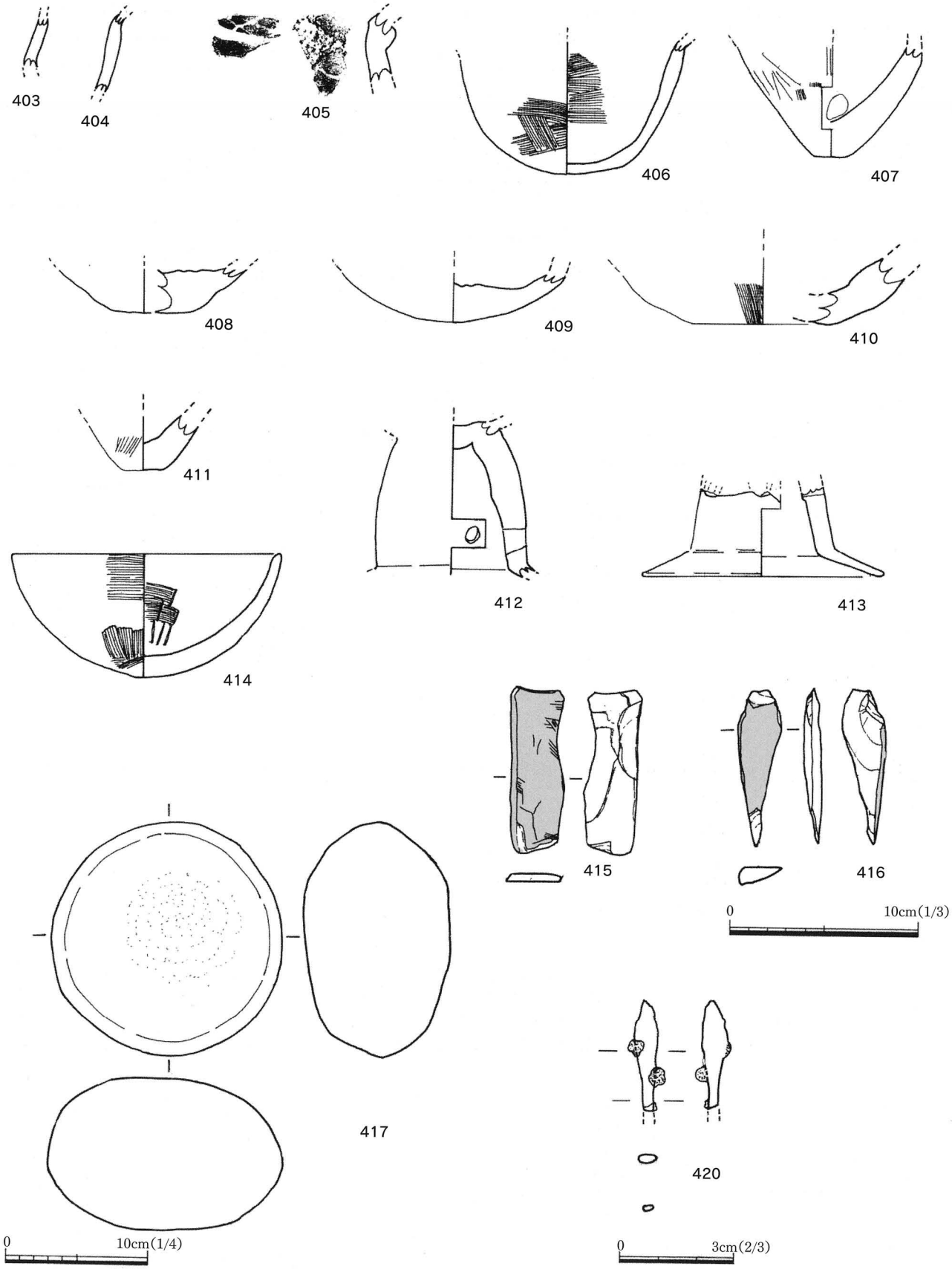
炭化物の分析を行なった結果、２１３ＡＤ～３４１ＡＤの値がでている。



51.6号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



52.6号竪穴住居跡出土遺物実測図①(S=1/3)

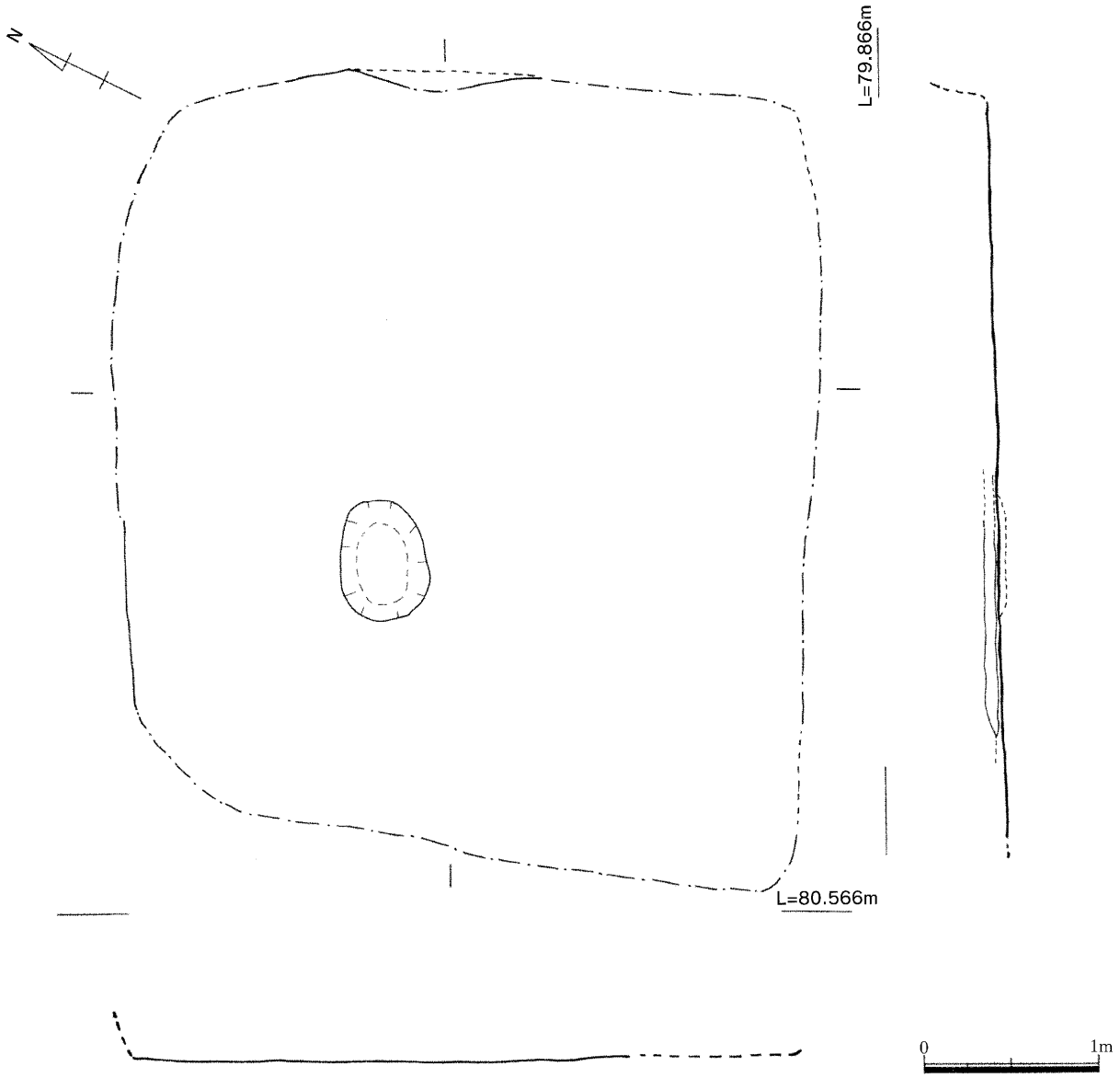


53.6号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、2/3、1/4)

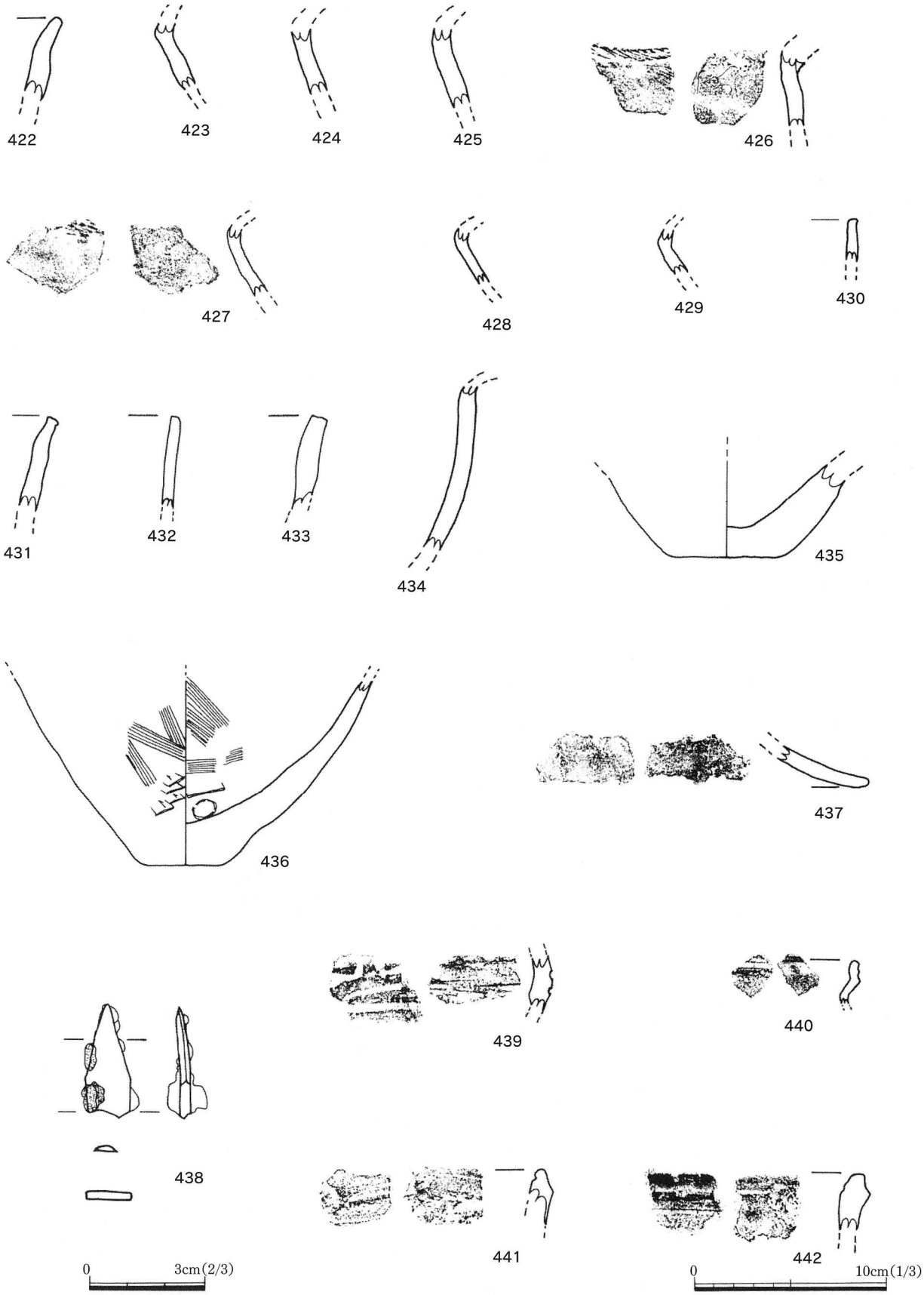
7号竪穴住居跡

7号～9号竪穴住居跡が検出されたB区は、調査前は栗林となっていた。表土直下にはⅥ層が検出されている。栗の植栽時に地形を大きく改変したものと思われる。このためか、伐開後に表土を重機で除去した残土中より結晶片岩製の勾玉が表採されている。

7号竪穴住居跡の正確な平面形は撹乱のため不明であるが、隅丸方形になるものと思われる。柱穴は不明であるが、中央やや西側で楕円形の浅い土坑を検出した。長軸は床面での計測になるが4．6m、短軸で3．88mを測る。検出面から床面までは0．08mを測るがほとんどは床面での検出である。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物では壺（422～429、435～436）、甕（430～434）、高杯（437…6号住居跡の高杯の脚と接合する。）、ヤリガンナ（438）が出土している。この他、縄文時代晩期の精製浅鉢土器（439・440）及び粗製深鉢土器（441・442）が出土している。



54.7号竪穴住居跡実測図（S=1/40）

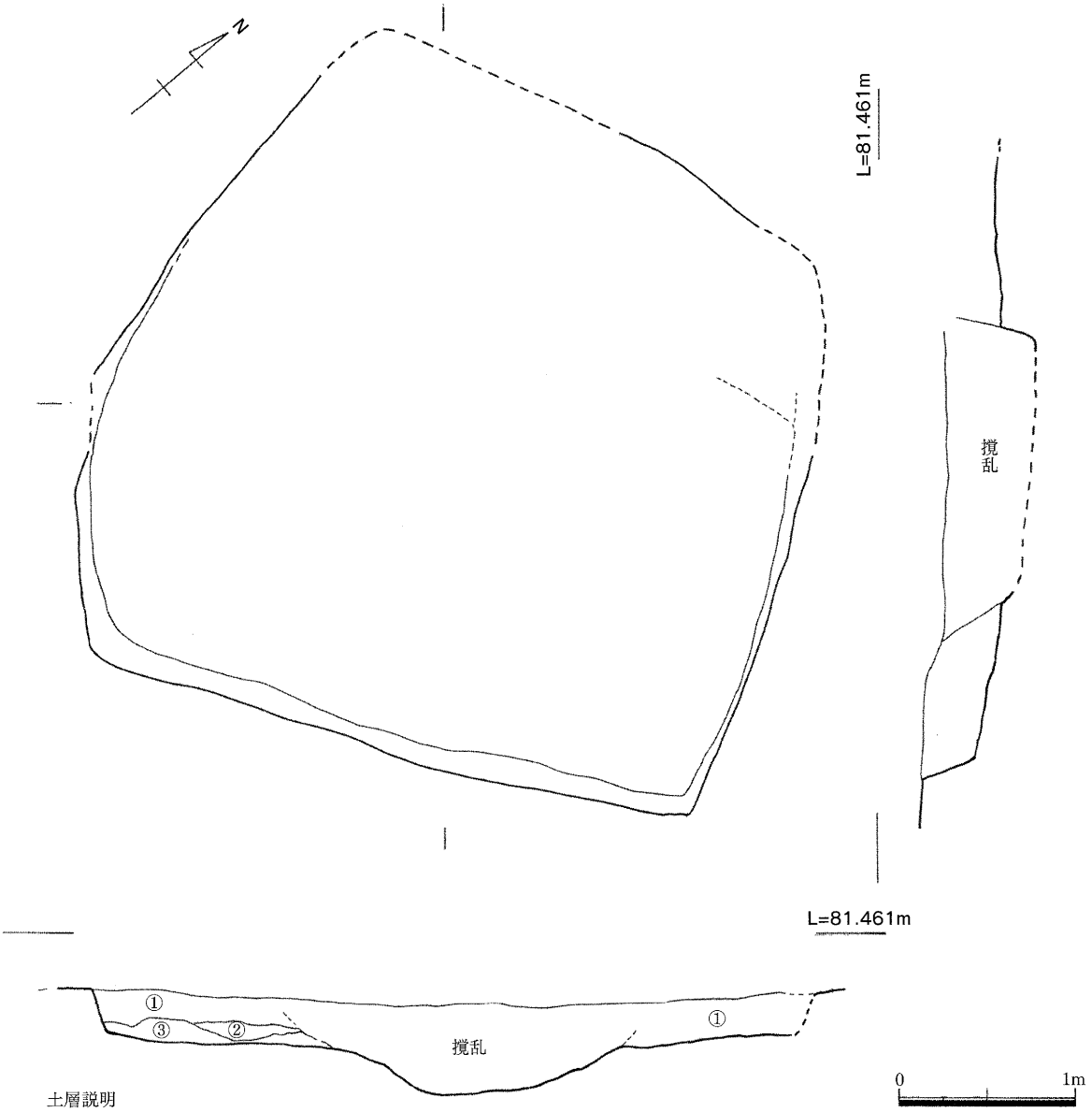


55.7号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3、2/3)

８号竪穴住居跡

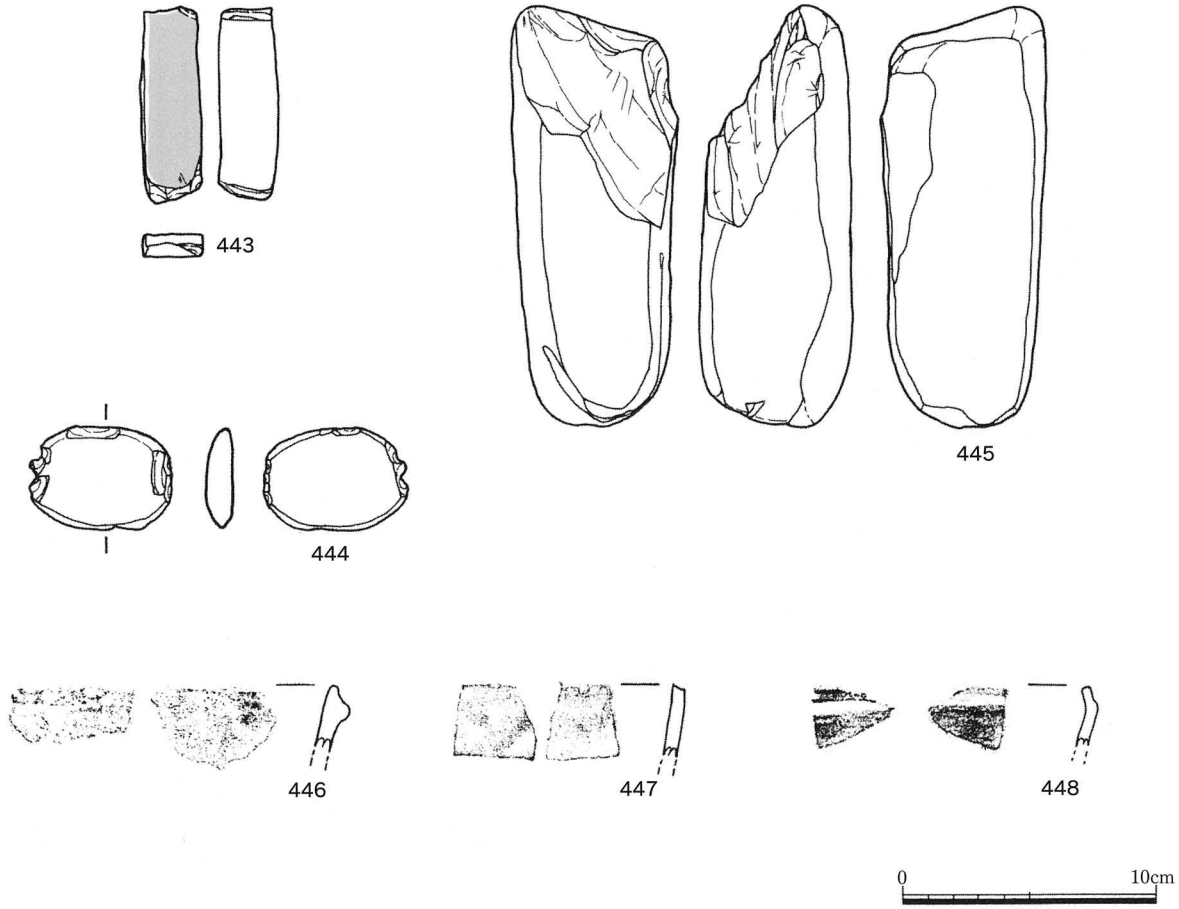
８号竪穴住居跡も正確な平面形は撹乱のため不明であるが、隅丸方形になるものと思われる。柱穴・土坑等は検出されなかった。中央部分が栗の根及び堆肥孔により大きく撹乱を受けている。長軸は４．１ｍ、短軸は床面での計測になるが２．７６ｍを測る。検出面から床面までは０．３２ｍを測るが北側は撹乱のため床面での検出である。

床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物に土器はなく、頁岩製の砥石（４４３）、砂岩製の石錘（４４４）と砥石（４４５）が出土している。この他、縄文時代晩期の粗製深鉢土器（４４６）及び精製浅鉢土器（４４７・４４８）が出土している。



土層説明
①：茶土褐色土（パサつく、炭・焼土含む）
②：黄茶褐色土（パサつく、炭・焼土・Ahブロック含む）
③：黄褐色土（やや粘質、炭・焼土・ローム含む）

56.８号竪穴住居跡実測図（S=1/40）



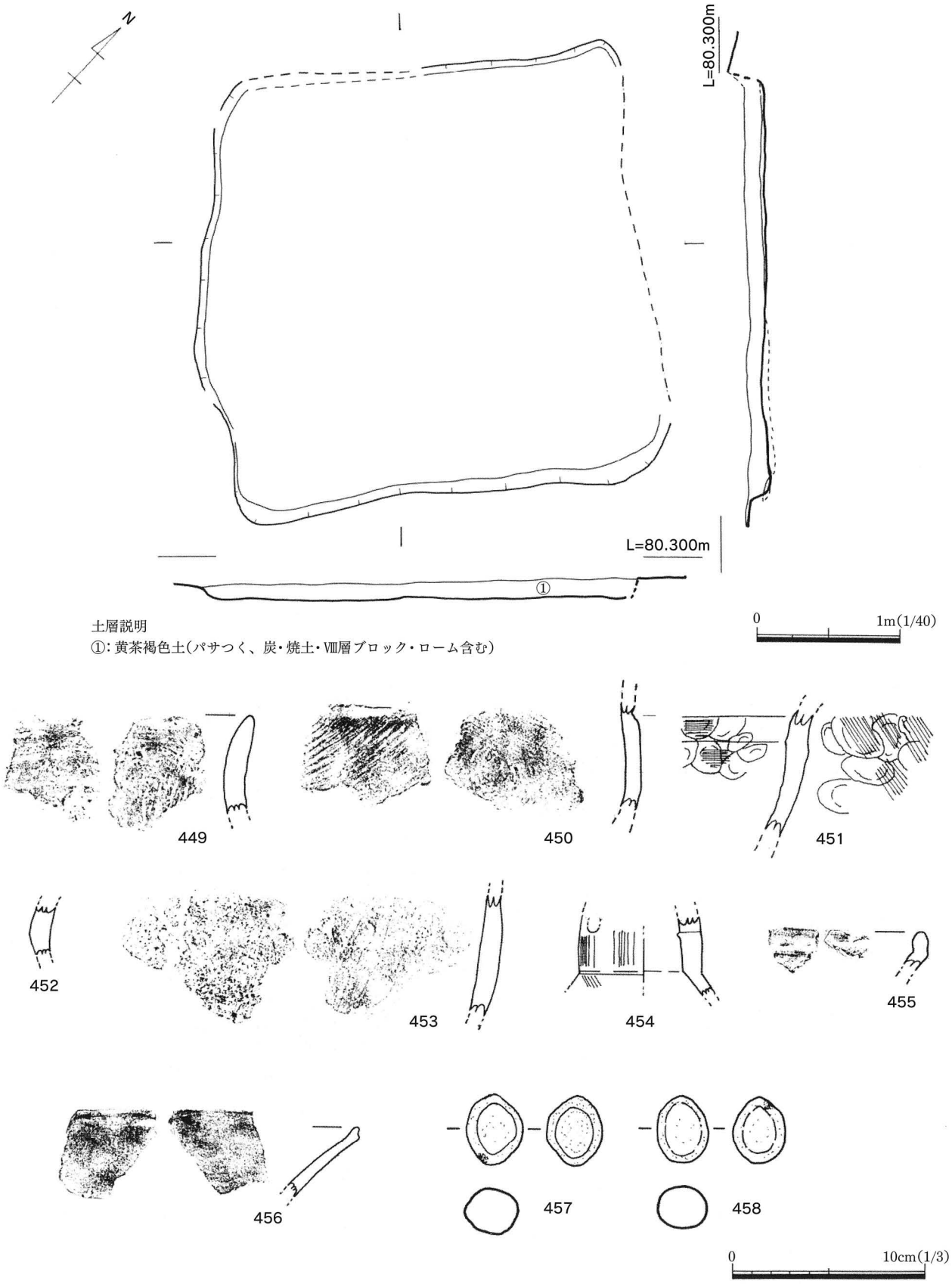
57.８号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/3)

９号竪穴住居跡

平面形は隅丸方形になるものと思われる。柱穴・土坑等は検出されなかった。一部撹乱により床面のみの検出となっている。長軸は３．１２ｍ、短軸は２．９６ｍを測る。検出面から床面までは０．１６ｍを測る。床面はほぼ平坦で、貼床が見られる。出土遺物には甕（４４９～４５３）、高杯（４５４）、一部に若干の敲打痕が確認される砂岩製の小礫（４５７・４５８）、頁岩製のヘラ状石器（４５９）、細長い砂岩製の板状礫の一端に打痕が認められる石器（４６０）、扁平な砂岩礫の一端を打ち欠いて先鋭化させた礫器（４６１）、一部に磨痕が見られる礫岩製の不明石器（４６２）、花崗斑岩製の台石の残欠（４６３）が出土している。この他、縄文時代晩期の精製浅鉢土器（４５５・４５６）が出土している。４６０と４６２は受熱のため赤変している。４６３には明確な研磨は確認できない。

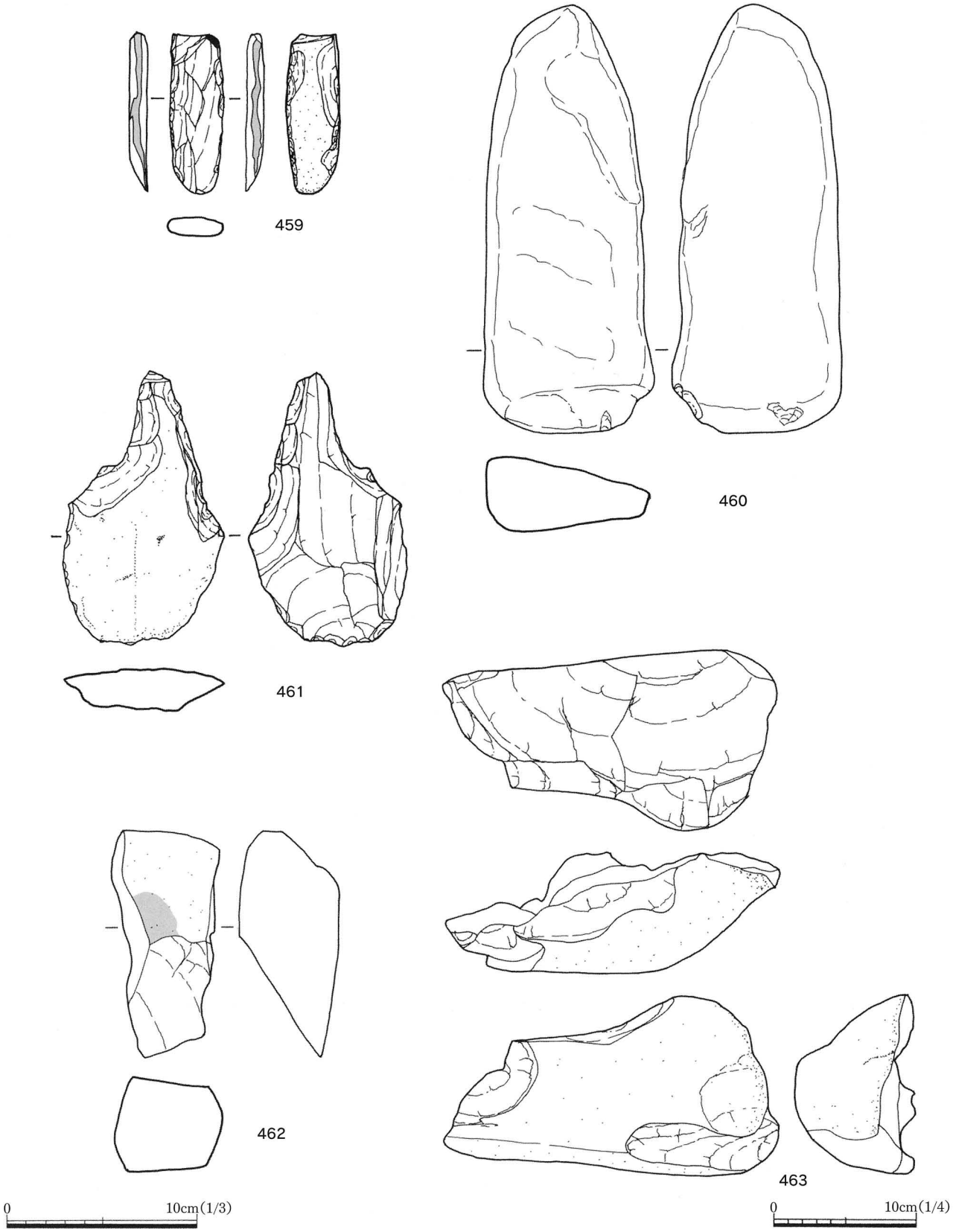
１０号竪穴住居跡

平面形は一部隅丸方形を呈す。柱穴は検出されなかった。南東隅にやや楕円形の浅い土坑を検出した。炭・焼土が集中する。中央部にも炭・焼土の集中部が見られるが掘りこみはなく、浅く堆積する程度である。長軸は３．３４ｍ、短軸は３．２２ｍを測る。検出面から床面までは０．４２ｍを測るが、



土層説明
①：黄茶褐色土(パサつく、炭・焼土・Ⅷ層ブロック・ローム含む)

58.9号竪穴住居跡及出土遺物実測図①(S=1/3、1/40)



59.9号竪穴住居跡出土遺物実測図②(S=1/3、1/4)

土層断面では０．８ｍである。これは、覆土ではまわりとの色の差が明確でなく、トレンチと周りを掘り下げて、ようやく竪穴住居跡と判断したためである。調査前、周辺は杉林であった。それ以前は段々畑があったが、荒れていたところに杉の植林をしたとのことである。杉の根の影響も考えられる。

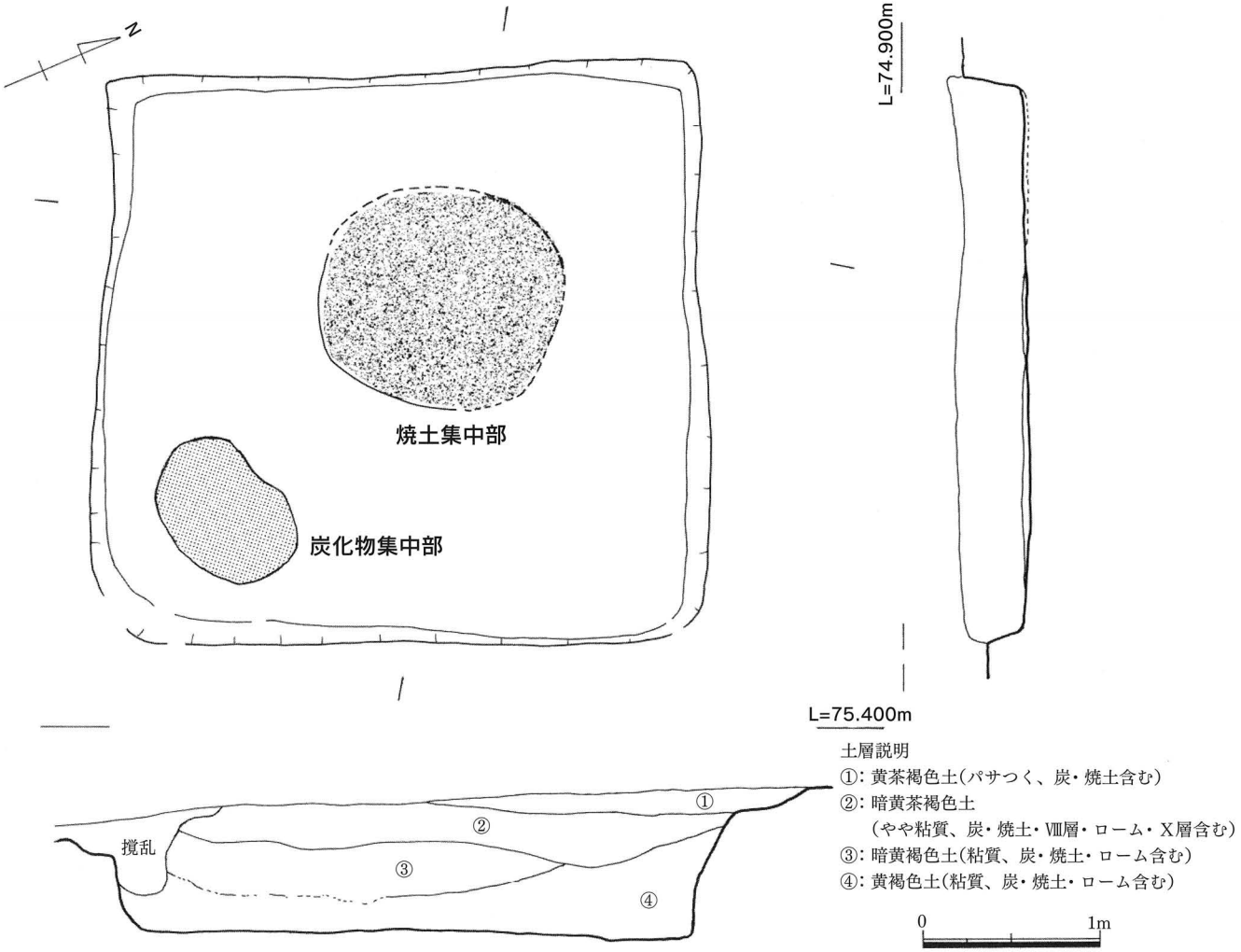
床面はほぼ平坦で、明確な貼床はみられない。床面がⅧ層のローム層のためと思われる。

出土遺物には甕（４６４～４６７）、壺（４６８）、高杯（４６９）、圭頭鏃（４７１）、砂岩製磨石（４７２）が出土している。

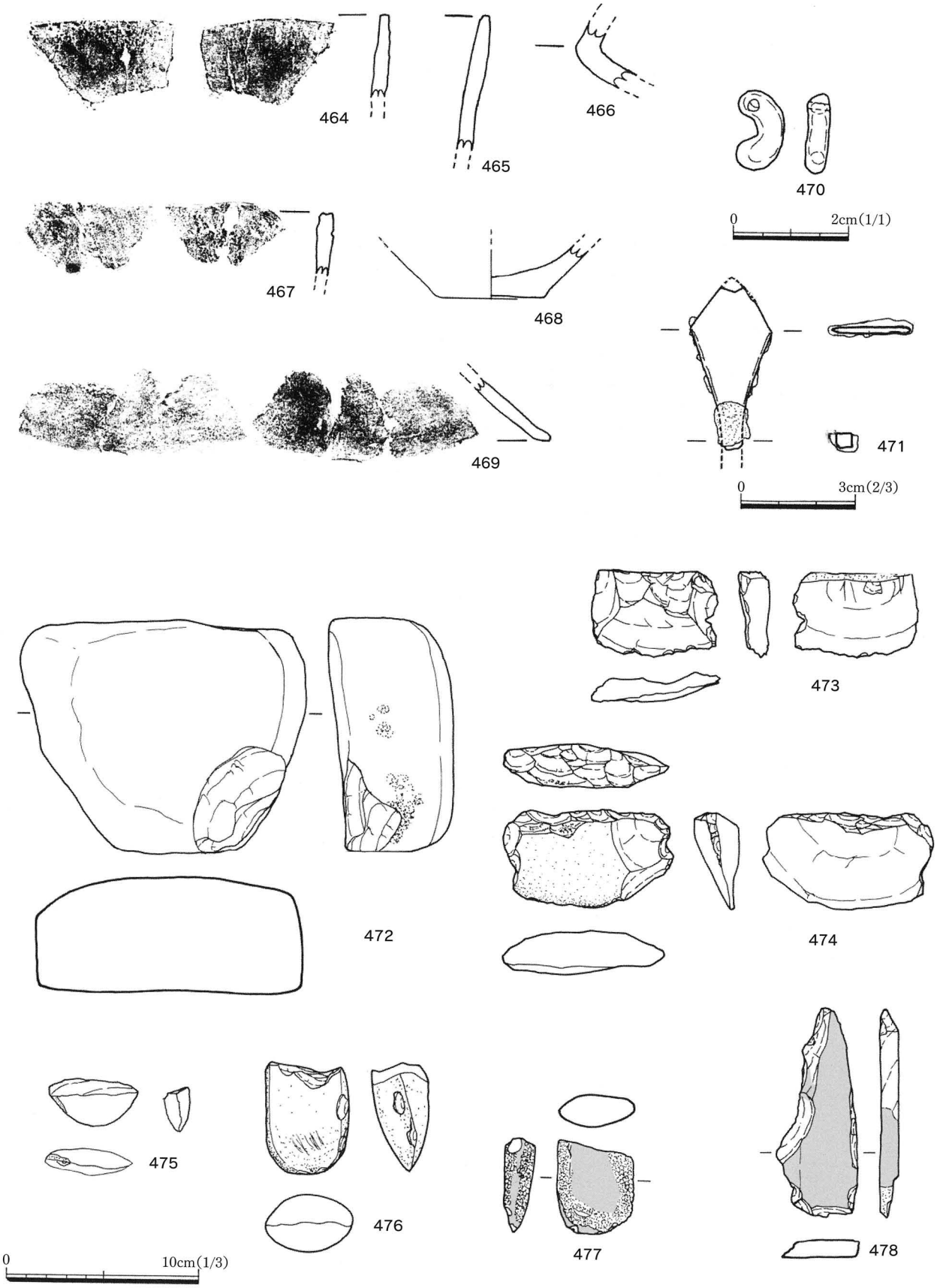
遺構外出土遺物

弥生・古墳時代の遺物のほとんどは、前述したようにＣ区Ｖ層中から出土している。Ｃ区では、明確な竪穴住居跡の検出例が１軒であるが、北側の台地上には良好な集落跡が予想されるため、周辺の開発には今後十分注意する必要がある。

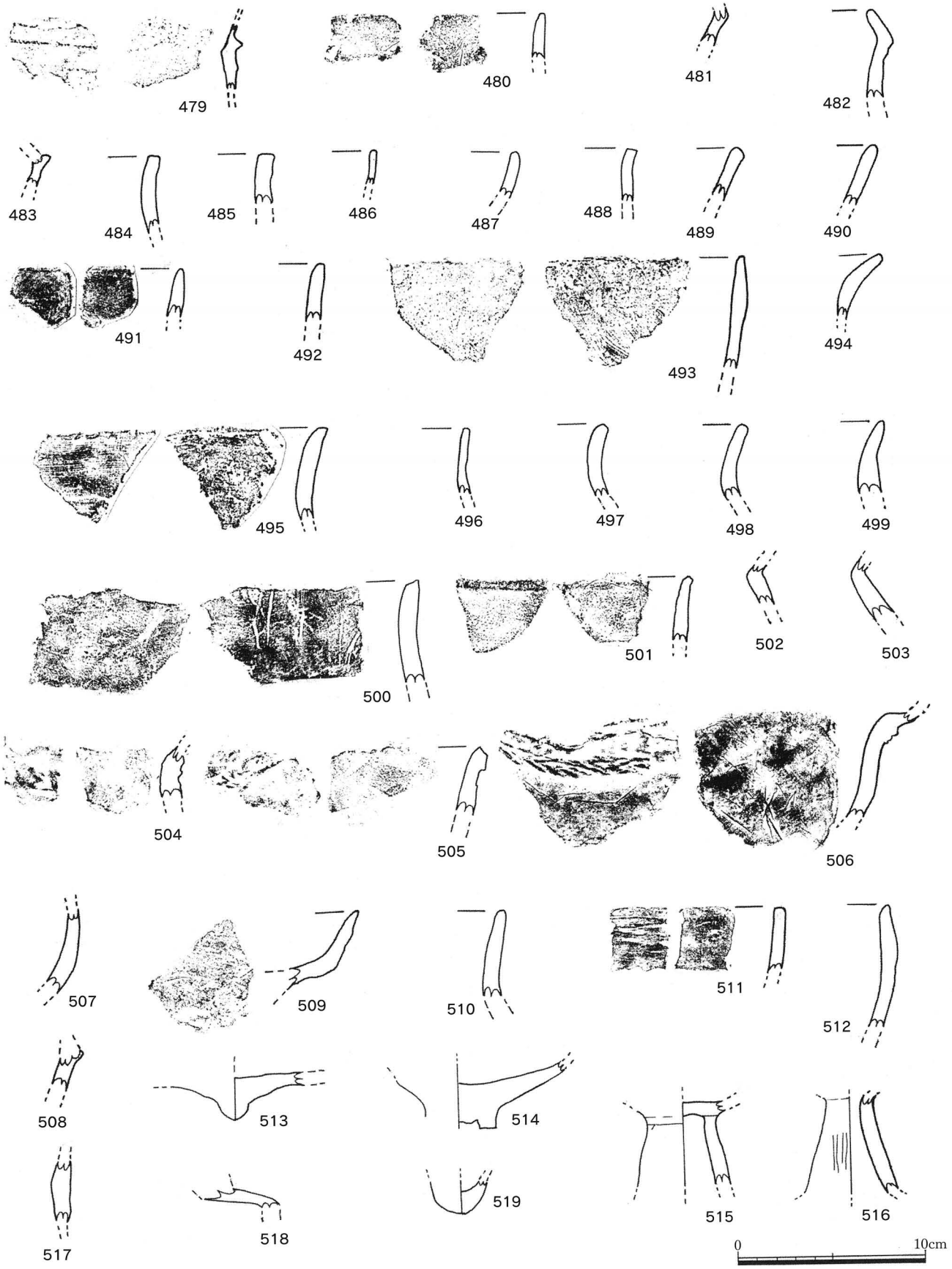
４７３は使用痕剥片である。刃部の使用痕より穂摘具としての使用したものと想像される。４７４は打製の石包丁である。北方地区では磨製の石包丁の出土例は少なく、礫の両端に抉りを有する打製の事例が多い。背部には丁寧な加工が施されている。使用頻度が高かったことを示す摩滅痕も見られる。４７５～４７７は小型の磨製石斧である。いずれも基部は欠損し、先端部のみの出土である。



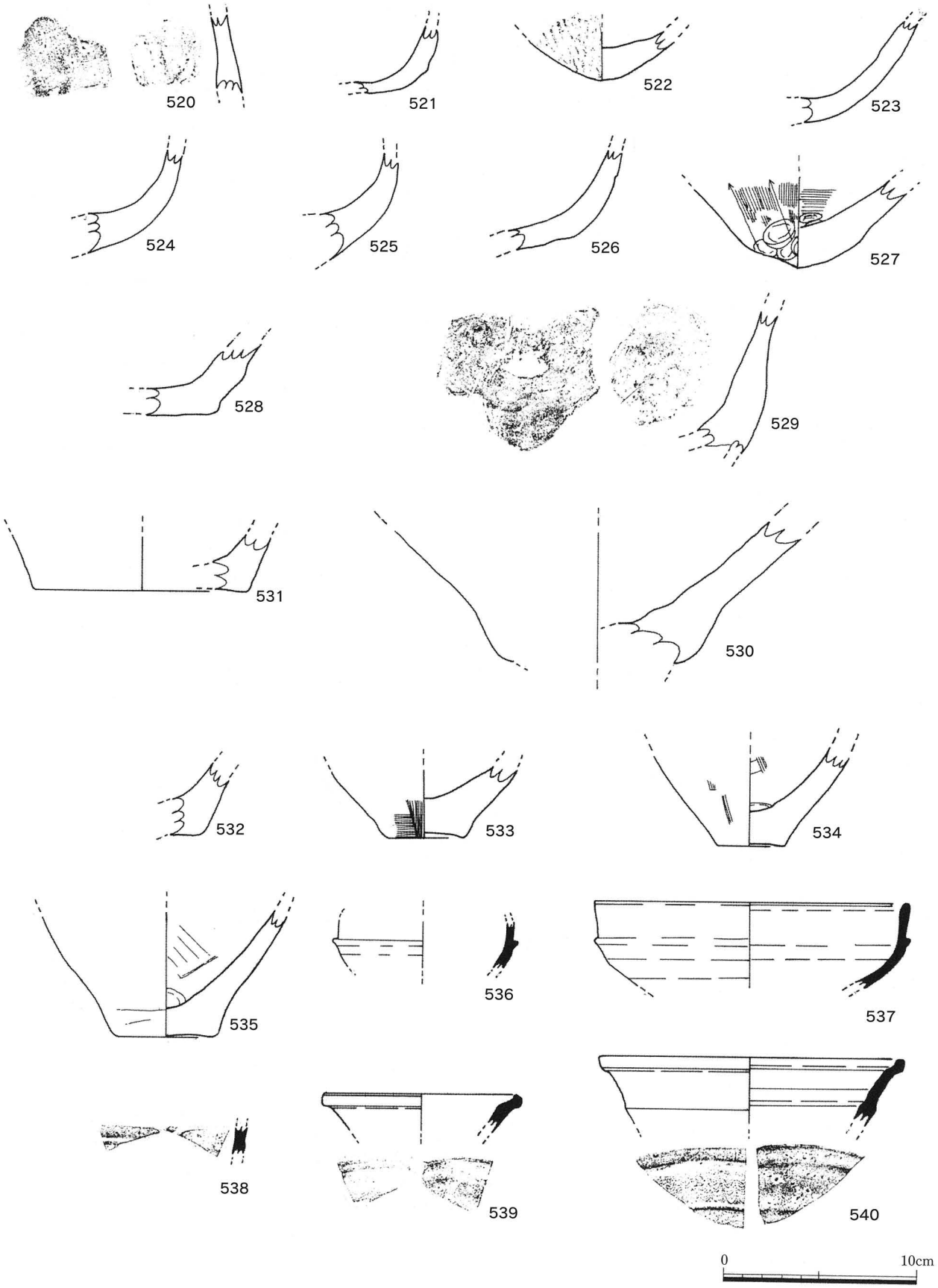
60.10号竪穴住居跡実測図(S=1/40)



61.10号竪穴住居跡出土遺物実測図(S=1/1、1/3、2/3)



62.弥生・古墳時代出土遺物実測図①(S=1/3)



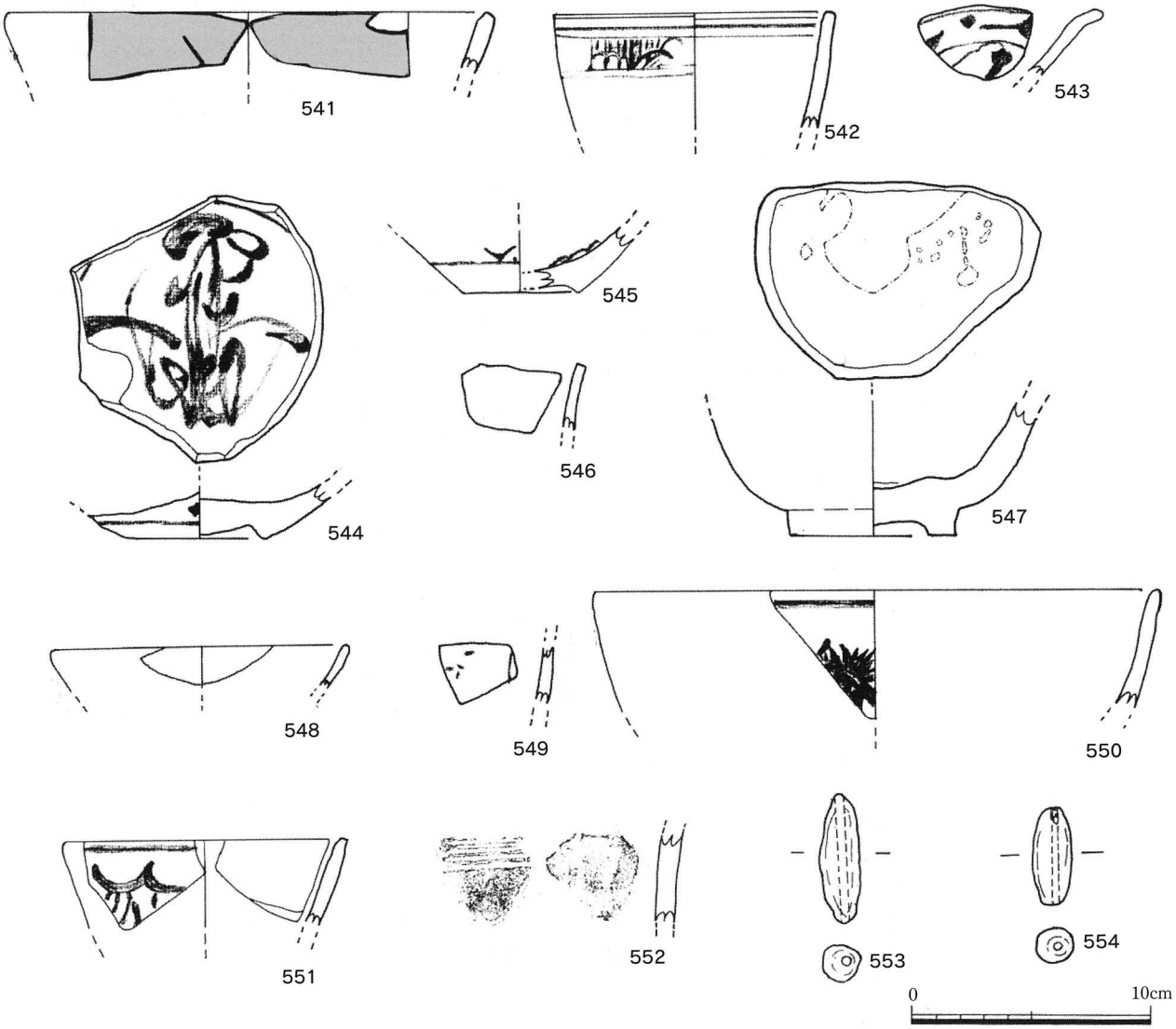
63.弥生・古墳時代出土遺物実測図②(S=1/3)

４７８は、頁岩製の砥石である。一部欠損している。側面にも磨り面が見られる。

当該期の出土土器の多くは、一部を除き胴部の小片である。ここでは、口縁部や貼付突帯の付いた頸部や底部といった部位を可能な限り取り上げている。４７９～５０９、５２１～５３０は壺である。４７９には断面三角形の突帯が見られる。４８１から４８３は二重口縁壺で、４８２には櫛描波状文が見られ安国寺系の遺物として注目される。早日渡遺跡では、竪穴住居跡内からの出土例もあり、笠下周辺での当該期の竪穴住居跡がこれから検出される可能性も高い。４８６と４８７は小型丸底壺の口縁部である。また、頸部にひも状貼付突帯が見られる壺（５０４～５０６）や山陰系の壺口縁部（５００）の出土もあり幅広い交流の跡が伺われる。

壺の多さに比べ甕（５１０・５１１、５３１～５３５）は出土量が少ない。５１１は口縁部の断面形が角張っており、弥生時代後期の所産と考えられる。その他に鉢（５１２）や高杯（５１３～５１８・５２０）、手ずくね土器（５１９）等も出土している。

須恵器の出土例は少ないが、杯（５３６～５３７）や聰（５３８～５４０）が出土している。谷を挟んだ東側の岩土北平遺跡では塚があったと伝えられているが、関連については不明である。



64.中・近世出土遺物実測図（S=1/3）

中・近世

この時期の遺構としては検出していないが、埋土中及びＣ区のＶ層中から陶磁器や備前系擂り鉢片、土錘（５５３～５５４）が出土している。

５４１は龍泉窯の青磁椀である。表面にはわずかに蓮弁の一部が確認できる。５４２は景徳鎮の蓮子椀である。５４３～５４５は草花文の皿である。５４３は口縁部に端反りが見られるが焼成はよくなく、釉薬が半透明となっている。５４４は漳州窯のものと思われる。

５４６は肥前焼の白磁で八角の小杯と思われる。５４７は古唐津の椀である。５４８は肥前系（嬉野か？）の皿と思われる。５４９は胴部の小破片なので特定は難しいが、肥前系の椀と思われる。５５０と５５１は肥前系の草花文椀である。５５２は備前系の擂り鉢片と思われる。すり目が確認できるが、数は不明である。

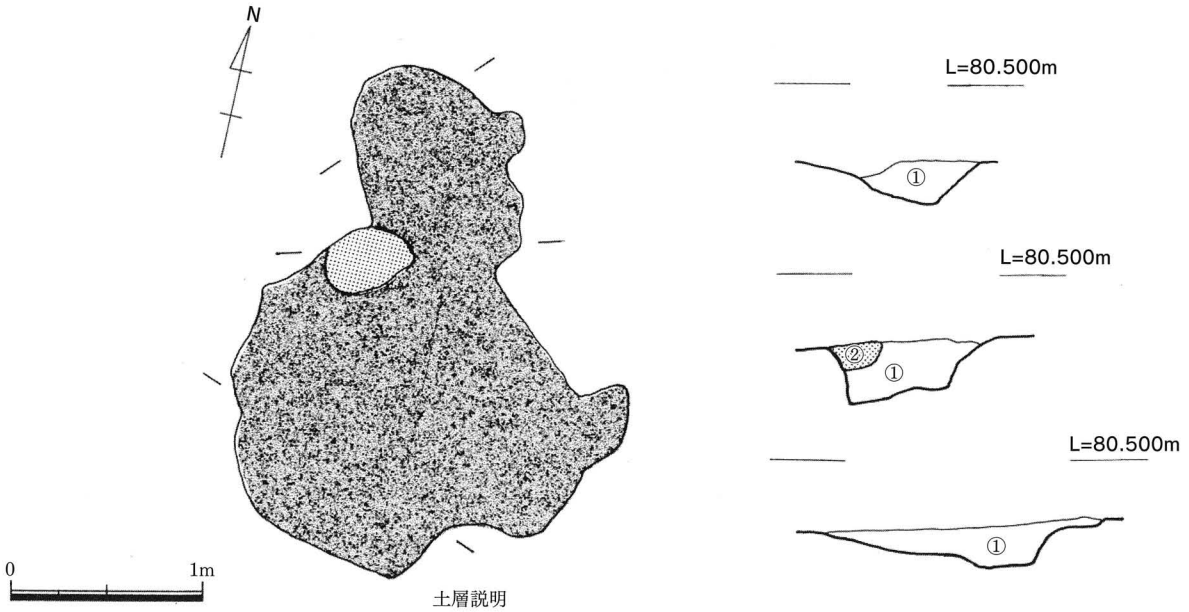
１５世紀代～１９世紀までの幅広い時代の舶載品及び国産（主に肥前系）遺物が出土している。

その他の遺構

１号土坑は不定形で明確な掘り込みははく、焼土が厚く堆積する。アカホヤ層上面で検出した。床面は平坦でなく、かなり凹凸が見られる。一部炭化物の集中が見られる。長軸は２．６８ｍ、短軸は０．７８ｍを測る。検出面から最深部までは０．３２ｍを測る。炭化物の分析を行なった結果、１２１ＡＤ～２３５ＡＤの値がでている。

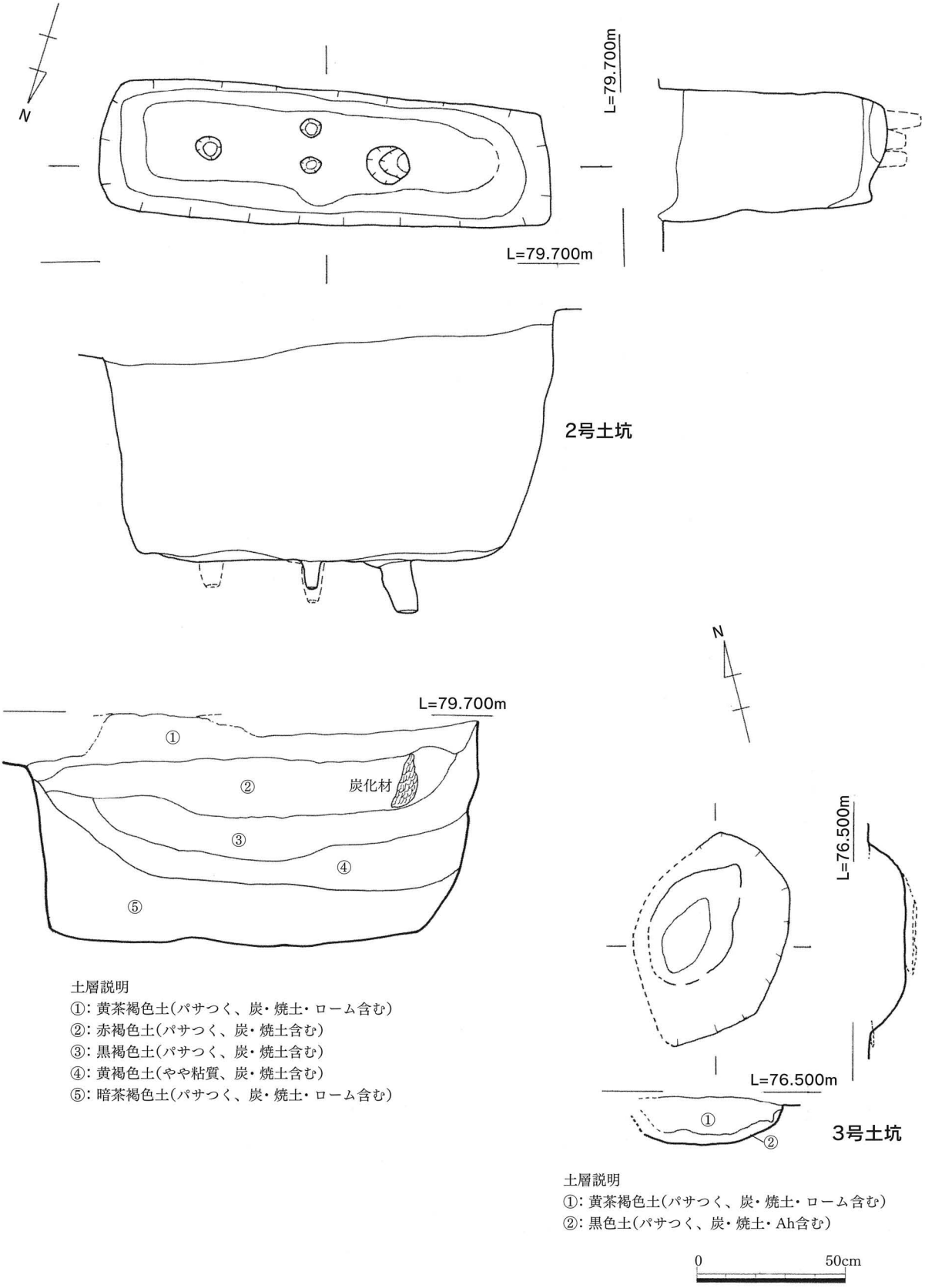
２号土坑は長方形で、底部に４つの小ピットを有する。内中央の小ピットは並列する。アカホヤ層上面で検出した。床面は平坦である。長軸は１．５２ｍ、短軸は０．４３ｍを測る。検出面から最深部までは０．７８ｍを測る。炭化物の分析を行なった結果、１，０６６ＡＤ～１，１５５ＡＤの値がでている。　上面でブナ科コナラ属アカガシ亜属の炭化材を検出した。

３号土坑はやや歪な楕円形で、底部中央がややくぼんでいる。Ｖ層で検出した。埋土中には炭・

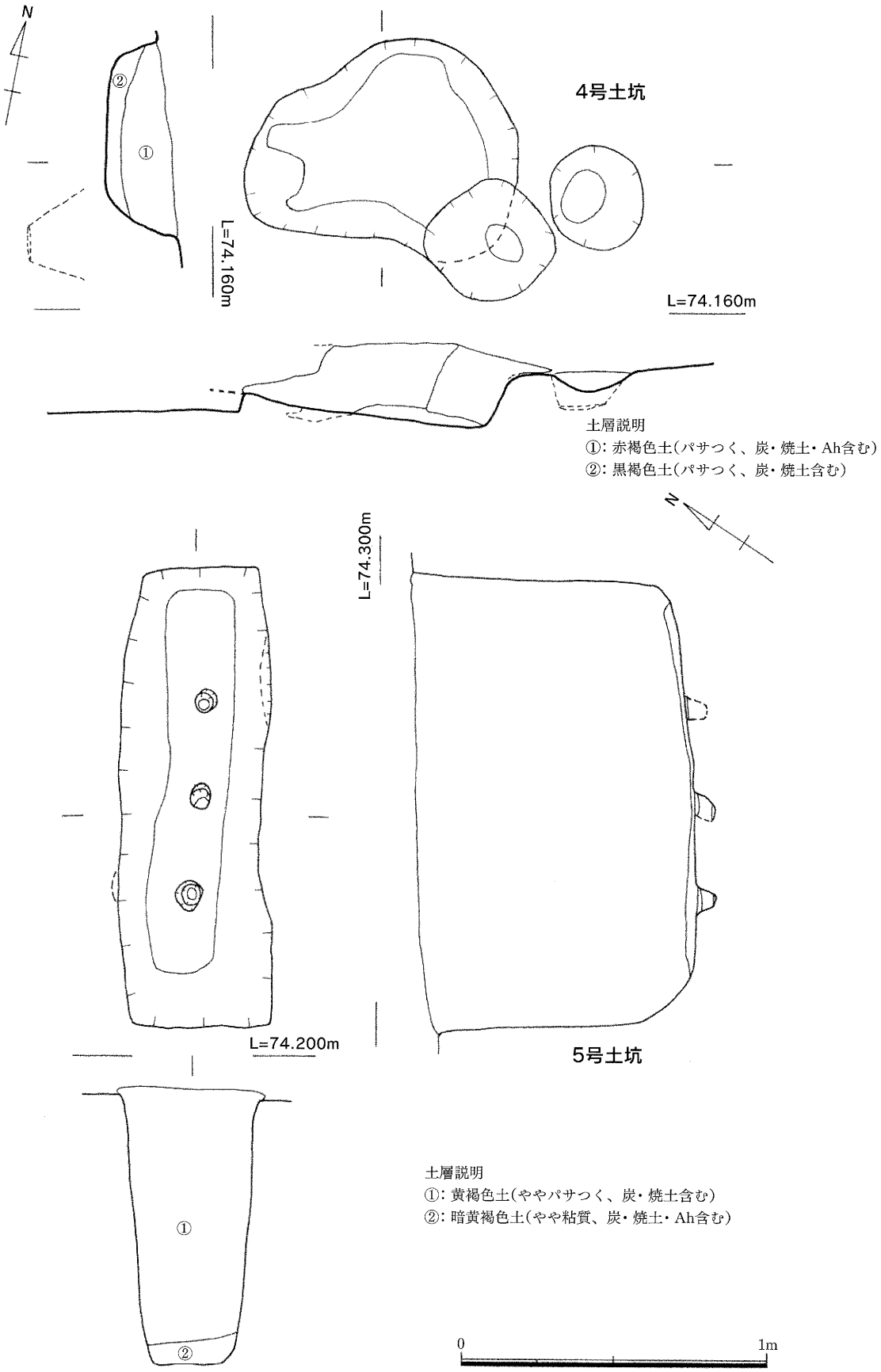


土層説明
①：赤褐色土（パサつく、焼土を多く含む）
②：黒色土（パサつく、炭を多く含む）

65.１号土坑実測図（S=1/40）



66.2号・3号土坑実測図(S=1/20)



67.4号・5号土坑実測図（S=1/20）

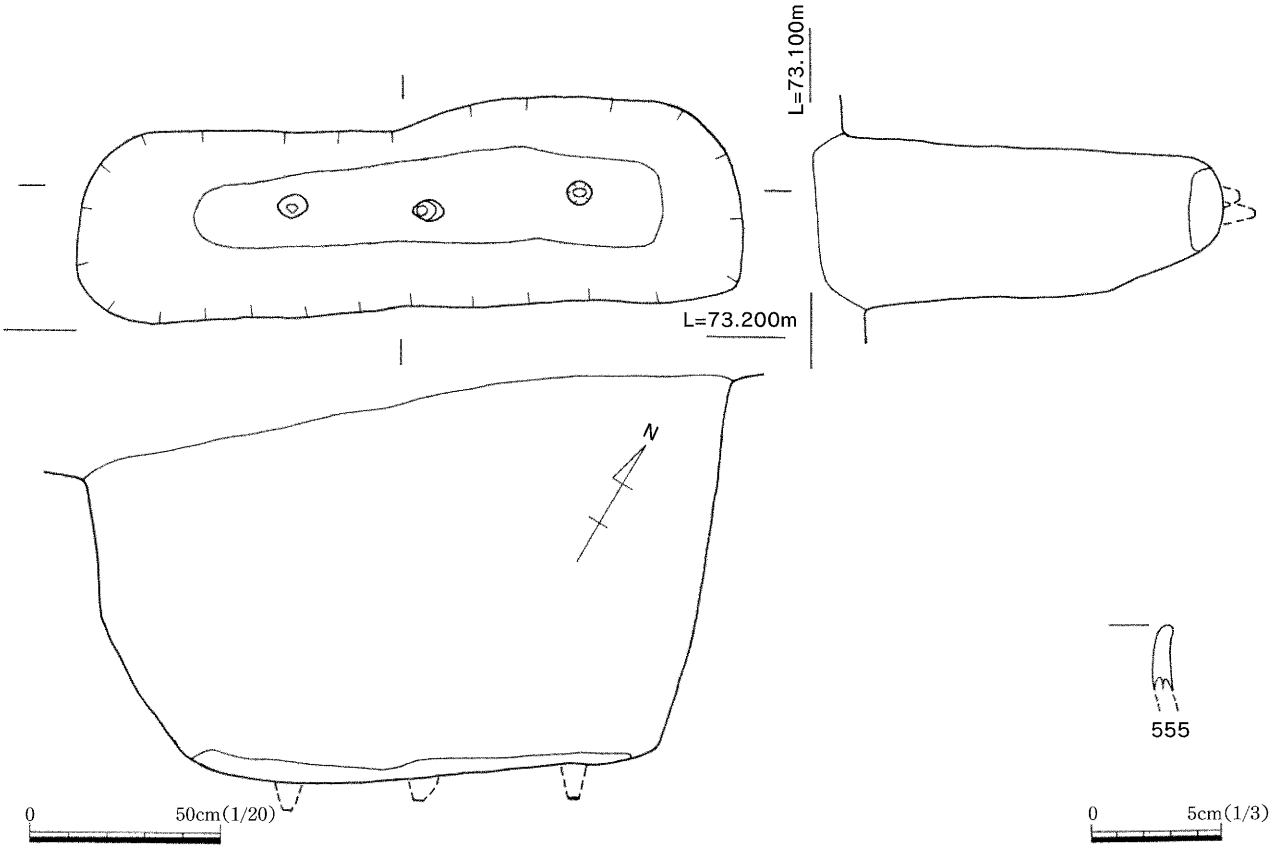
焼土を含んでいる。長軸は０．７５ｍ、短軸は削平されており計測不能である。検出面から最深部までは０．１６ｍを測る。出土遺物はない。

４号土坑は検出面、底面ともに不定形で、底部はやや東側に傾斜している。Ｖ層で検出した。一部柱穴により撹乱されている。埋土中には炭・焼土を含んでいる。長軸は０．８ｍ、短軸は０．５３ｍを測る。検出面から最深部までは０．２７ｍである。出土遺物はない。

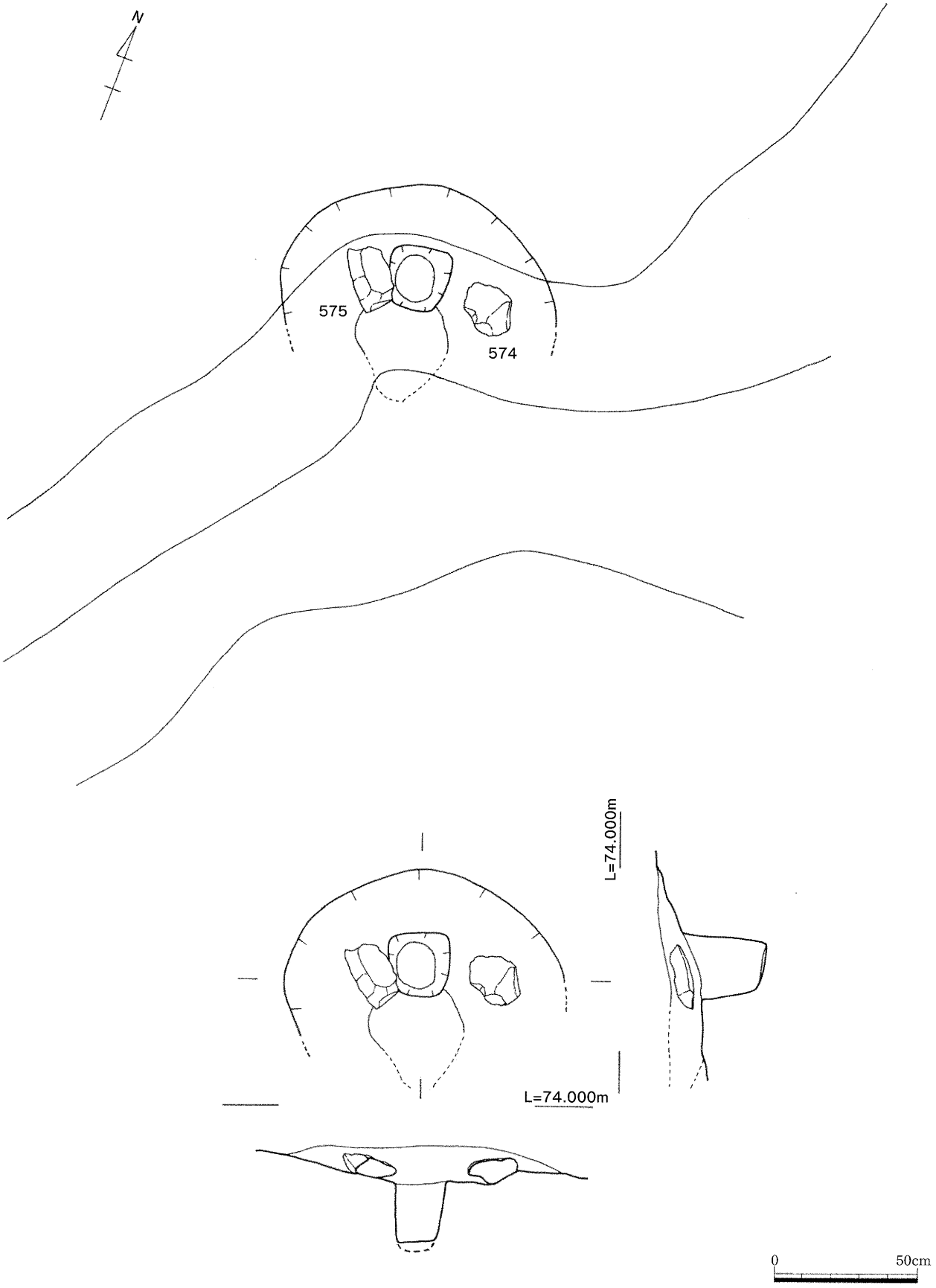
５号土坑は長方形で、底部に３つの小ピットを有する。Ｖ層で検出した。床面はほぼ平坦である。長軸は１．５４ｍ、短軸は０．９２ｍを測る。検出面から最深部までは０．９２ｍを測る。出土遺物はない。

７号土坑は長方形で、両端は丸くなっている。底部に３つの小ピットを有する。Ｖ層で検出した。床面は平坦である。長軸は１．７４ｍ、短軸は０．４７ｍを測る。検出面から最深部までは０．９９ｍを測る。壺の口縁部（５５５）が１点出土している。

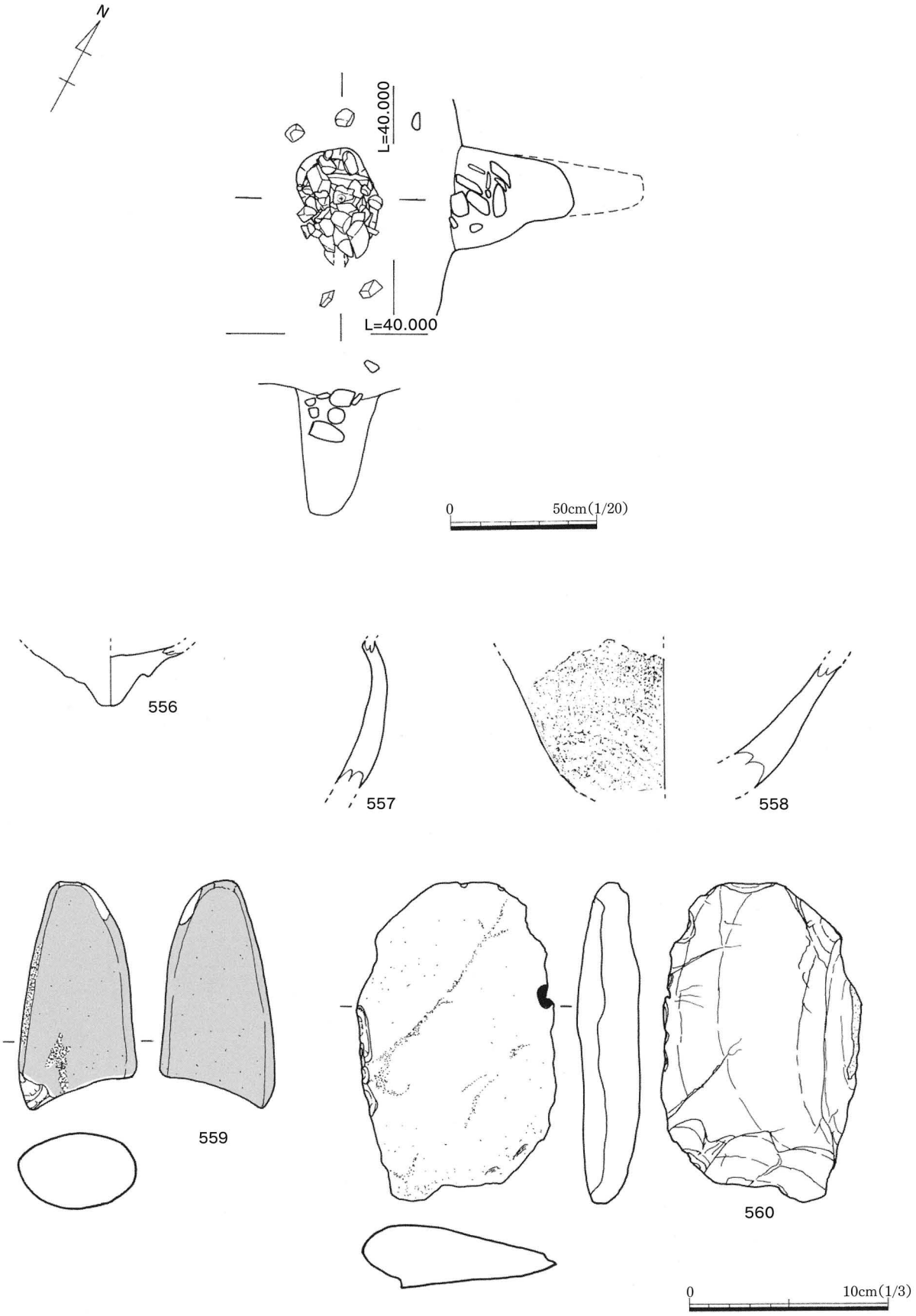
８号土坑は円形で、南側半分は削平されている。中央部にピットを有し、両側に凝灰岩製の加工礫（５７４・５７５）を配置する。Ｖ層で検出した。床面は平坦である。直径はほぼ１ｍである。検出面から柱穴最深部までは０．３６ｍを測る。８号土坑周辺は等高線が緩くなり、傾斜面を削りだして平端部を作り出している。５７４は半月形で工具痕が顕著に見られ、熱変によりもろくなっている。５７５は方形に削りだしているが半分に折れている。何らかの再利用品を窺わせる。



68.７号土坑実測図及出土遺物実測図（S=1/3、1/20）



69.8号土坑実測図(S=1/20)



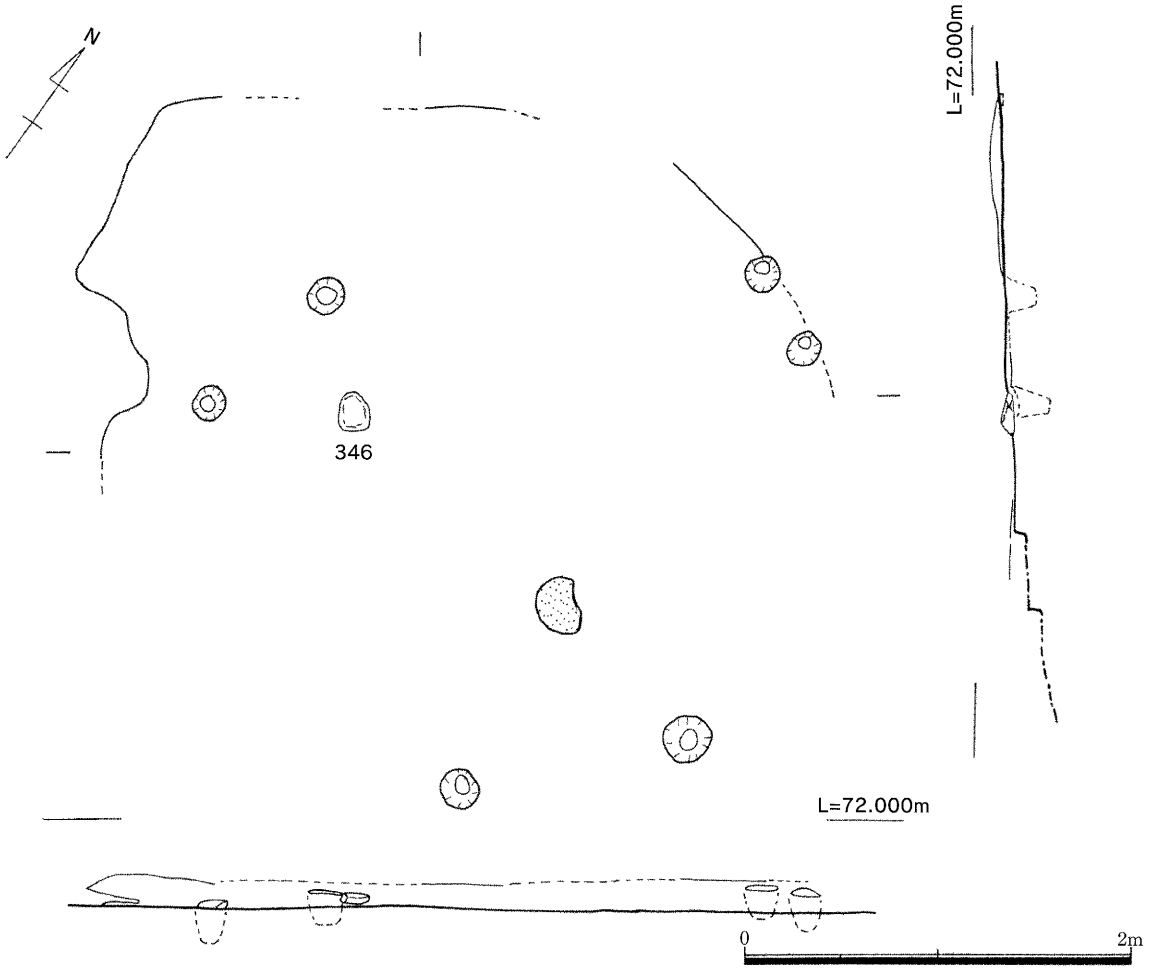
70.1号不明遺構実測図及出土遺物実測図(S=1/3、1/20)

１号不明遺構はＣ区北側の道路法面下位で検出した。表土除去後すぐにⅦ層が検出され、土器や焼け石等が柱穴を埋める様に寄せられていた。柱穴は長軸０．３６ｍ、短軸０．２６ｍ、深さは０．６８ｍを測る。出土遺物には高杯（５５６）、壺（５５７・５５８）、砂岩製磨製石斧（５５９）、砂岩製礫器（５６０）がある。廃棄的な用途も考えられるが詳細は不明である。

１号建物は、Ｃ区南側の平坦部が谷側へ落ち込むところで検出した。Ｖ層を掘り下げる段階で床面と思われる硬化面と柱穴を検出したが、覆土は確認できなかった。同レベルで台石（３４６）が出土しているが、焼土の集中部は確認できていない。また、南東部分の硬化面は削平のためか不明である。出土遺物も縄文時代晩期と弥生・古墳時代の遺物が混在して見られ明確な時期決定ができなかった。硬化面が途切れたところで、厚さ１０㎝ほどの粘土の塊が検出されたが、柱を支えるためか他の用途か判断はできない。検出した柱穴は硬化面の範囲内と思われるものを図示している。

Ｃ区ではこの他にも若干の柱穴を検出しているが、建物に復元できるまでには至っていない。また、柱穴と落とし穴との関連についても不明である。柱穴の明確な確認はアカホヤ層上面で行なっているが、Ｖ層を掘り下げる段階で検出したものも多い。現場での埋土の比較検討などは調査期間の問題もありできなかった。今後遺構測量図と土層断面図を比較検討しても、時期決定にはなお多くの困難が伴うことを痛感している。

Ａ区とＣ区では、溝状遺構が検出された。検出面は、Ａ区ではⅥ層上面、Ｃ区ではＡ区との境の斜面と東側でⅥ層上面、西側ではＶ層上面である。いずれの覆土もⅣ層の黒色土ではなく、Ⅲ層である。



71.１号建物実測図(S=1/40)

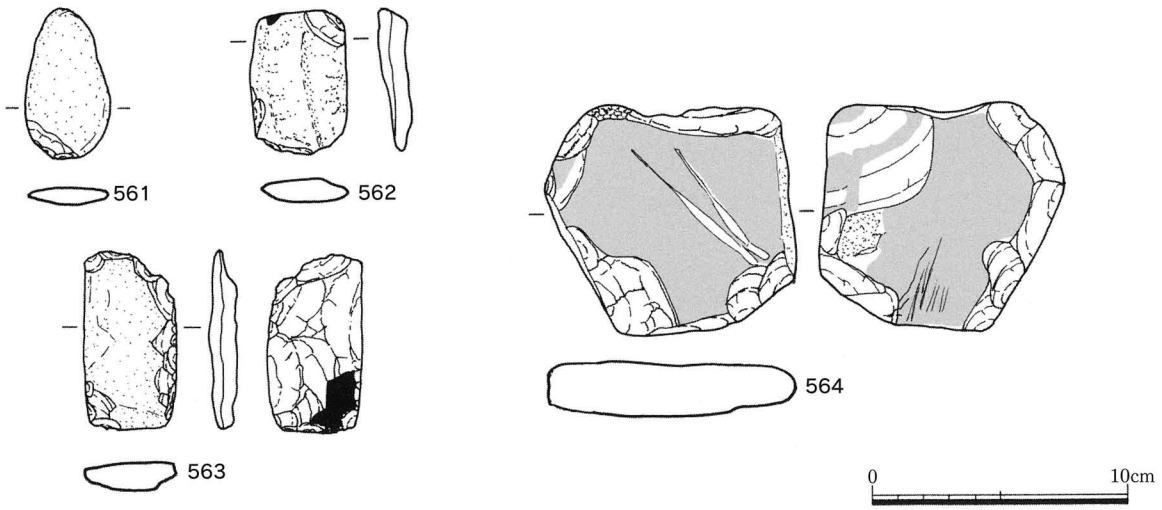
出土遺物も陶磁器、弥生土器、須恵器、縄文土器が混在しており、明確な時期決定はできない。

A区では調査区の東側斜面をほぼ南北にある程度の間隔で掘られており、区画溝的な用途が考えられる。A区とB区の東側斜面とC区との間に掘られた幾筋もの溝状遺構は、区画溝だけの用途とは考え難い。底面には、常時水が流れていたことを示す砂状粒子の痕跡を認められなかった。
また、C区東側の斜めに掘られた溝も小さな尾根の側面を縫うように掘られているが、途中で途切れる。若干の段差を考えると排水の用途も考えられる。

以上のことから、梅雨時期などA区とB区から流れ出る多量の雨水を処理する排水のための溝が掘られたと思われる。幾筋もの溝は、多量の雨水が流れて損傷した溝を補修しながら繰り返し掘られた結果とも想像される。

72.C区溝状遺構検出状況(北より)

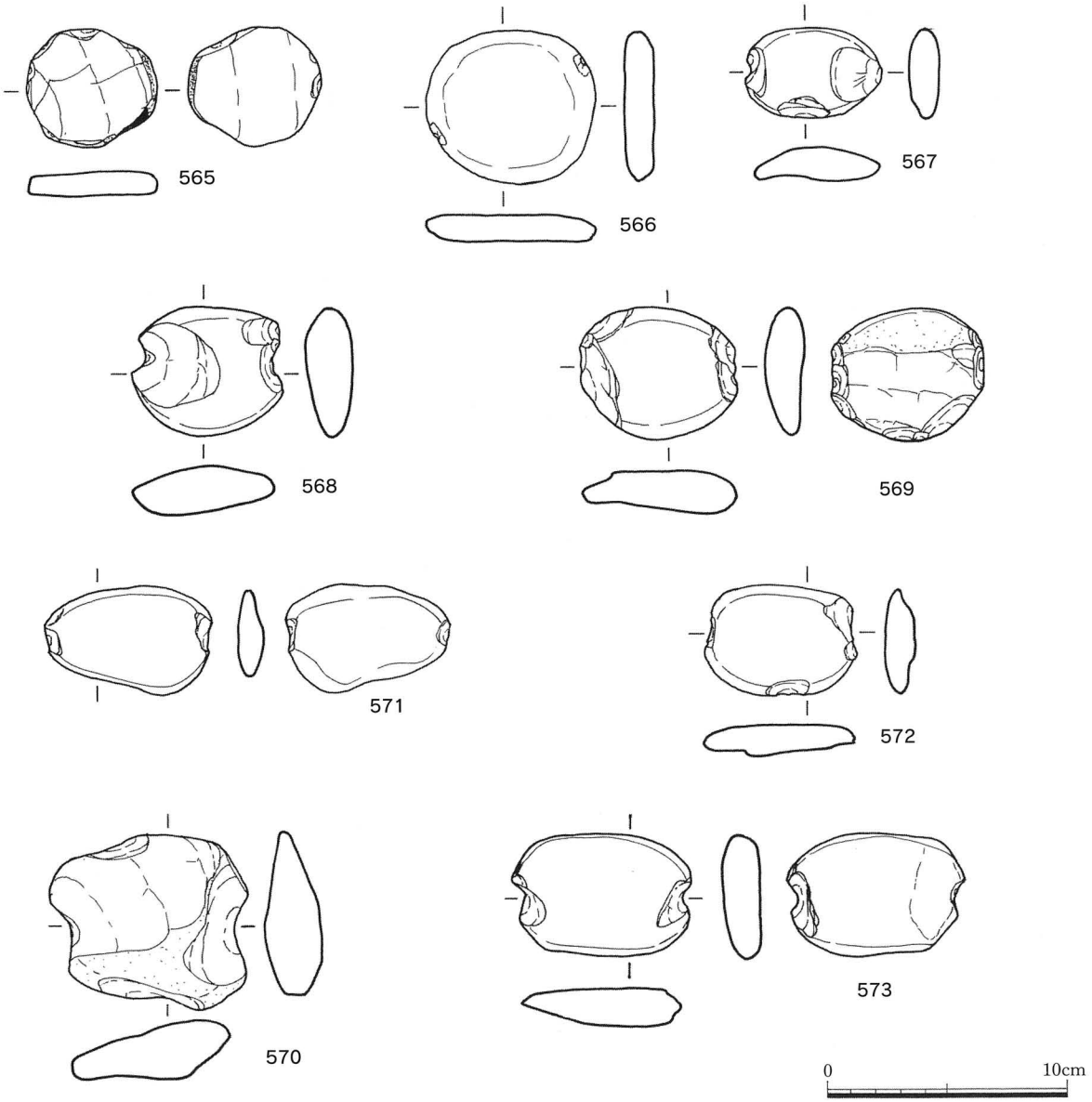
73.C区溝状遺構検出状況(北より)



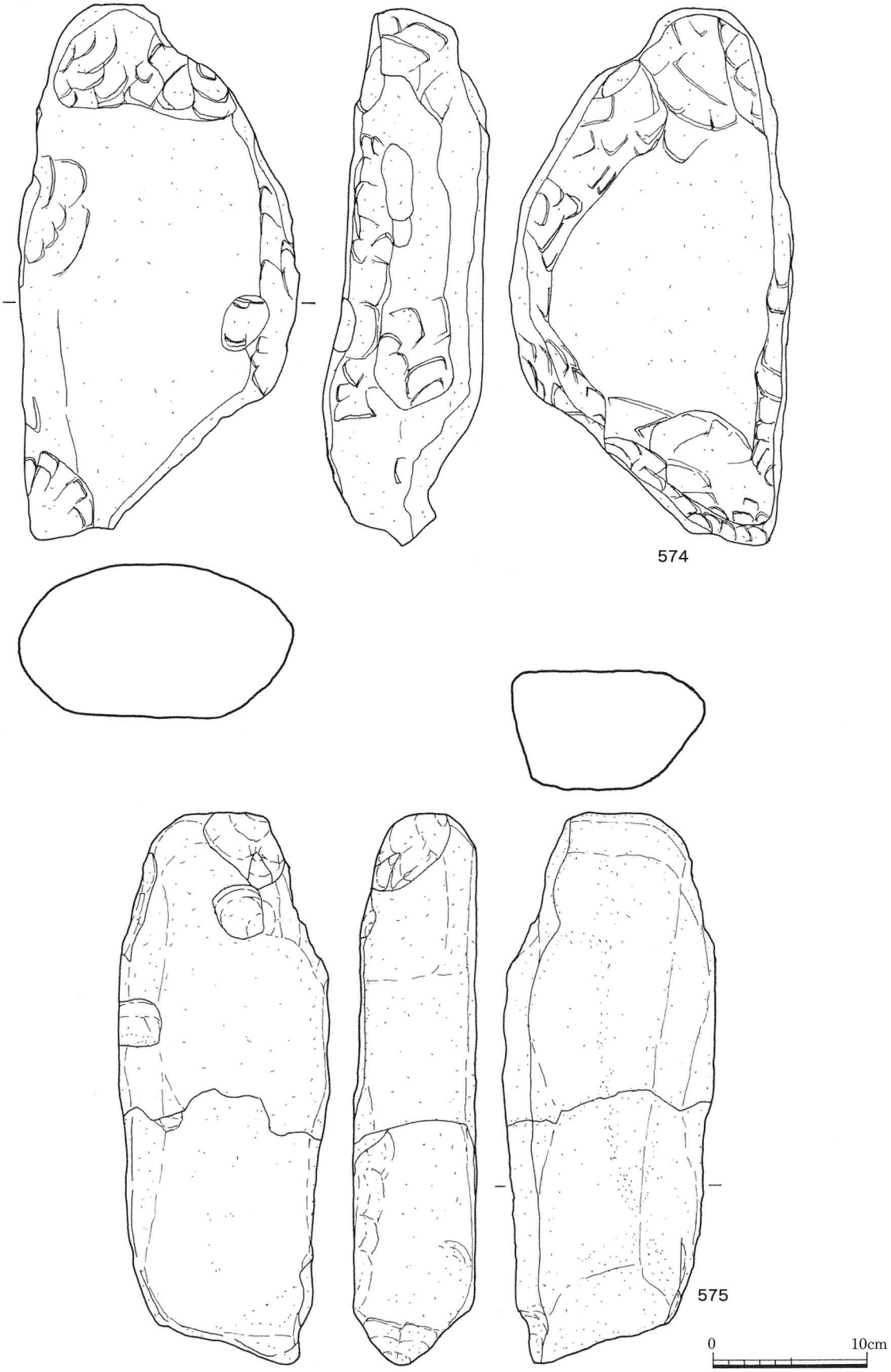
74.その他の出土遺物実測図①(S=1/3)

その他の出土遺物

ここでは、明確に時期を判断できない遺物を取り上げるが、そのほとんどは石錘である。縄文時代晩期の所産とも考えるが、弥生～古墳時代の遺物としても多く使用されていることが確認されていることから時期不明とした。５６５は円盤状の砂岩礫の円周に加工を施す石器である。若干の磨痕を有することから土器の内面ミガキや革製品のなめしなどいろいろな用途に使用された可能性がある。５６６は砂岩製の円礫の両端を浅く打ち欠いた石器である。細いひも状のものを巻きつけたと思われるが、抉りが浅く結ぶ行為には直結しない石器である。５６７～５７３は打欠石錘である。基本は細長い礫の両端を打ち欠いているが（５６８・５７１・５７３）、３方向（５６９・５７２）、４方向（５７０）打ち欠くものも見られる。網に設置する場所による使い分けが想像される。



75.その他の出土遺物実測図②（S=1/3）



76.その他の出土遺物実測図③(S=1/4)

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
1	C区一括		使用痕剥片 流紋岩	打面有 不定形の横長剥片利用		3.2	1.4	0.6	3.40
2	C区	5	加工を有する剥片 流紋岩	打面無 両面縁に加工有		4.1	2.8	0.9	8.44
3	C区一括		使用痕剥片 流紋岩	打面調整有		5.2	2.0	0.8	6.25
4	C区	5	使用痕剥片 ホルンフェルス	打面有 受熱		6.3	2.7	1.3	21.20
5	C区一括		使用痕剥片 流紋岩	打面側の凹部使用痕有		4.0	3.0	1.1	15.94
6	C区	5	スクレイパー 流紋岩	自然面 打面有		5.4	3.4	1.3	39.0
7	B区一括		スクレイパー 流紋岩	片面に自然面 打面有		7.6	12.1	2.5	231.91
8	A区	7	スクレイパー 流紋岩	自然面 打面有		14.0	9.5	4.5	488.8
9	C区一括		礫器 ホルンフェルス	先端に近い側縁部と裏面部に加工有		12.0	8.0	5.4	434
10	A区	8	石核 流紋岩	自然面 節理面有 打面調整有 打面転移		8.3	7.3	4.3	309.45
11	住居9		石核 流紋岩	交互剥離を行なう 打面調整無		14.5	10.2	5.2	899.9
12	B区	5	使用痕剥片 流紋岩	若干のローリングと削痕が見られる 打面調整有		5.6	5.7	1.9	64.84
13	B区	5	スクレイパー ホルンフェルス	片面自然面 削痕が見られる		15.8	9.3	3.0	510.4
14	A区	7	石鏃 チャート	先端部、脚部欠損		1.6	1.5	0.3	0.45
15	A区	7	石鏃 チャート	抉りが深い 鍬形鏃		1.7	1.8	0.4	0.68
16	A区	7	石鏃 チャート	剥片鏃 一側縁の加工は細かい		1.9	1.6	0.4	0.81
17	C区	7	石鏃 チャート	鍬方鏃 先端部欠損 側縁鋸歯状		3.0	2.1	0.4	1.39
18	A区	7	石鏃 チャート	鍬方鏃		2.5	1.5	0.4	0.90
19	A区	7	尖頭状石器 黒曜石	表裏面ともに丁寧な加工を施す		3.0	2.6	0.7	3.60
20	C区	7	スクレイパー 頁岩	自然面を打点とし、二方向を折断技法で作り出す		4.6	6.2	1.2	44.32
21	A区	7	礫器 緑色岩	節理面有 割れ部と打痕が顕著に残る		13.9	7.4	7.3	196.07
22	A区	7	敲打器 砂岩	風化著しい 側面に敲打痕有		8.2	4.5	4.2	182
23	A区	7	深鉢 胴部	楕円形の押型文 にぶい橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
24	C区	7	深鉢 胴部	貝殻押引き(横方向) にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
25	A区	7	深鉢 胴部	ナデ にぶい黄橙	ナデ 暗褐			1～5mm程度の砂粒含む	良
26	A区	7	深鉢 胴部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
27	一括	7	深鉢 胴部	貝殻押引き(横方向) ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
28	C区	5	深鉢 口縁部	斜方向の貝殻条痕 ナデ 灰オリーブ	斜方向の貝殻条痕をナデで消す 灰オリーブ			1mm以下の砂粒含む	良
29	C区	5	深鉢 胴部	斜方向の貝殻条痕 ミミズバレ状の突帯 ナデ スス付着 暗オリーブ褐	ナデ 暗オリーブ褐			1mm以下の砂粒含む	良
30	C区	5	深鉢 胴部	縄文 沈線 にぶい褐	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
31	C区	5	深鉢 胴部	縄文 沈線 列点文 褐	ナデ ミガキ 暗褐			1mm以下の砂粒含む	良
32	C区	5	深鉢 胴部	ミミズバレ状突帯 ナデ オリーブ黒 スス付着	ナデ 暗オリーブ褐			1mm以下の砂粒含む	良
33	C区	5	深鉢 頸部	縄文 沈線 列点文 明褐	ナデ ミガキ 暗褐			1mm以下の砂粒含む	良
34	C区	5	深鉢 口縁部	沈線 ミガキ にぶい褐	ナデ ミガキ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
35	C区	5	深鉢 口縁部	縄文 沈線 ナデ にぶい橙	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
36	C区	5	深鉢 口縁部	貝殻条痕 沈線 橙	貝殻条痕 ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
37	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
38	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい橙	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
39	C区	5	深鉢 口縁部	ミガキ ナデ にぶい橙	ミガキ ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
40	A区	5	深鉢 口縁部	ミガキ 沈線 橙 スス付着	ミガキ ナデ にぶい橙 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
41	土坑6		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
42	土坑6		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい橙 スス付着	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
43	土坑6		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
44	土坑6		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
45	土坑6		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
46	土坑6		深鉢 胴部～底部	ナデ 指押さえ にぶい橙	ナデ 指押さえ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
47	土坑6		浅鉢 口縁部	沈線 ミガキ にぶい黄橙	沈線 ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
48	土坑6		浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄褐 スス付着	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
49	土坑9		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 黄褐 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
50	土坑9		深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
51	土坑6		浅鉢 口縁部	沈線 ミガキ にぶい黄橙	ミガキ 灰黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
52	土坑9		浅鉢 頸部	縄文 沈線 ミガキ 明褐	ミガキ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
53	土坑9		浅鉢 口縁部	縄文 沈線 ミガキ 明褐	ミガキ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
54	土坑6		深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
55	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 橙	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
56	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 橙	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
57	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
58	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
59	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい褐 スス付着	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
60	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
61	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
62	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
63	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
64	C区	5	深鉢 口縁部	風化のため調整不明 褐灰	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	やや良
65	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 黒褐 スス付着	ナデ 灰黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
66	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ にぶい黄褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
67	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 明褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
68	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
69	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
70	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
71	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい橙 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
72	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 明褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
73	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ 黄橙			1mm以下の砂粒含む	良

77.出土遺物観察表①

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
74	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ にぶい橙 スス付着	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
75	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 褐灰 スス付着	ナデ にぶい褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
76	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ にぶい褐 スス付着	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
77	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
78	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい褐 スス付着	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
79	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 褐	ナデ 暗褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
80	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ 橙	ナデ 指押さえ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
81	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 明褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
82	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 褐 スス付着	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
83	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ 橙	沈線 ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
84	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 指押さえ にぶい褐	ナデ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
85	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 指押さえ オリーブ褐 スス付着	ナデ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
86	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 明赤褐 炭	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
87	C区	5	深鉢 口縁部	ナデ 暗赤褐 スス付着	ナデ オリーブ褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
88	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 指押さえ 明褐	ナデ 指押さえ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
89	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 指押さえ 橙	ナデ 指押さえ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
90	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ 指押さえ 褐 スス付着	ナデ 指押さえ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
91	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
92	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ナデ 明赤褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
93	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ナデ 橙	ナデ 明赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
94	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ナデ 明赤褐 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
95	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
96	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ヨコナデ 赤褐	ナデ 明赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
97	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯ミミズバレ状 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
98	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ 灰褐			1mm以下の砂粒含む	良
99	C区	5	深鉢 口縁部	ヨコナデ にぶい橙 スス付着	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
100	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 橙	ナデ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
101	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
102	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 指押さえ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
103	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 指押さえ 橙	ナデ 指押さえ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
104	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ にぶい褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
105	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
106	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 指押さえ にぶい赤褐 スス付着	ナデ 明赤褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
107	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ 指押さえ 橙 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
108	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
109	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
110	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 橙	ナデ 明黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
111	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 明赤褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
112	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 橙	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
113	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ヨコナデ 指押さえ 橙	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
114	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ヨコナデ 指押さえ 橙	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
115	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ 指押さえ 沈線 褐	ナデ 沈線 褐			1mm以下の砂粒含む	良
116	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ 沈線 にぶい黄褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
117	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
118	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
119	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ にぶい赤褐	ナデ 赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
120	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ヨコナデ 赤褐	ナデ 赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
121	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
122	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ 明赤褐	ナデ 赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
123	C区	5	深鉢 口縁部	低いミミズバレ状突帯 ナデ にぶい橙	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
124	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 沈線船 明赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
125	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 沈線 にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
126	C区	5	深鉢 口縁部	ミミズバレ状突帯 ナデ 明赤褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
127	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 褐	ナデ 浅い沈線 褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
128	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 橙	ナデ 沈線 橙			1mm以下の砂粒含む	良
129	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 橙	ナデ 沈線 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
130	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
131	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 明赤褐 スス付着	ナデ 浅い沈線 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
132	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 沈線 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
133	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明赤褐 スス付着	ナデ 沈線 にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
134	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 浅い沈線 にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
135	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 沈線 にぶい黄橙	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
136	C区	5	深鉢 口縁部	突帯？ ナデ 指押さえ 沈線 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
137	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ナデ 指押さえ 沈線 にぶい黄橙	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
138	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ナデ 指押さえ 沈線 灰黄褐 スス	ナデ 灰黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
139	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明赤褐	ナデ 沈線 褐			1mm以下の砂粒含む	良
140	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明赤褐	ナデ 沈線 にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
141	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 沈線 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
142	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 指ツマミ部 ナデ にぶい黄褐	ナデ 沈線 褐			1mm以下の砂粒含む	良
143	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 指ツマミ部 明褐 スス付着	ナデ 沈線 褐			1mm以下の砂粒含む	良
144	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 指ツマミ部 明褐 スス付着	ナデ 沈線 橙			1mm以下の砂粒含む	良
145	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 指ツマミ部 にぶい黄橙 スス	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
146	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 指ツマミ部 明褐 スス付着	ナデ 沈線 橙			1mm以下の砂粒含む	良

78.出土遺物観察表②

番号	出土地点	層	器種（石材）・部位	文様・調整・色調等（外）	文様・調整・色調等（内）	最長 cm（器高）	最幅 cm（口・底径）	最厚 cm（胎土）	重量 g（焼成）
147	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ナデ 指｣ツマミ部 にぶい黄橙 スス	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
148	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 黄褐	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
149	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい橙	ナデ にぶい黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
150	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐 スス付着	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
151	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐 スス付着	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
152	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
153	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 黄褐 スス付着	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
154	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
155	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 明赤褐 スス付着	ナデ 明赤褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
156	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ にぶい褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
157	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
158	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
159	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 橙 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
160	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
161	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
162	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
163	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
164	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 黄褐	ナデ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
165	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙 スス付着	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
166	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
167	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 褐 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
168	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
169	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ナデ 橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
170	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
171	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐 スス付着	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
172	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ 明褐			1mm以下の砂粒含む	良
173	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 指押さえ にぶい黄褐	ナデ 指押さえ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
174	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
175	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 褐	ナデ 明赤褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
176	C区	5	深鉢 口縁部	低い突帯 ヨコナデ 黄褐	ナデ にぶい黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
177	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
178	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ 黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
179	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 浅い沈線 褐			1mm以下の砂粒含む	良
180	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 明赤褐			1mm以下の砂粒含む	良
181	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ナデ にぶい黄褐 スス付着	ナデ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
182	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 浅い沈線 明褐	ナデ 浅い沈線 橙			1mm以下の砂粒含む	良
183	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 沈線 にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
184	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
185	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
186	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 青色顔料？ 橙	ナデ 橙 スス付着			1～2mm程度の砂粒含む	良
187	C区一括		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 浅い沈線 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
188	C区一括		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 黄橙	ナデ にぶい橙 スス付着			1～5mm程度の砂粒含む	良
189	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ 浅黄			1～3mm程度の砂粒含む	良
190	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 浅い沈線 褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
191	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
192	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
193	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
194	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ 浅い沈線(一部) 明褐			1～5mm程度の砂粒含む	良
195	表採		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 浅い沈線 明褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
196	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄橙 スス	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
197	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
198	C区一括		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ 浅い沈線 にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
199	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい橙	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
200	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
201	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
202	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい褐	ナデ 浅い沈線 橙			1mm以下の砂粒含む	良
203	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 浅い沈線 にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
204	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
205	C区一括		深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
206	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
207	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐 スス付着	ナデ 沈線 明黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
208	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
209	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 明褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
210	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ にぶい橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
211	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 褐	ナデ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
212	C区	5	深鉢 口縁部	太い突帯 ヨコナデ にぶい黄褐	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
213	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 橙 スス付着	ナデ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
214	C区	5	深鉢 口縁部	突帯 ヨコナデ 褐 スス付着	ナデ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
215	C区	5	深鉢 底部	ナデ 明褐	ナデ にぶい褐		17.4	1mm以下の砂粒含む	良
216	C区	5	深鉢 底部	ナデ ミガキ 橙	ナデ 指押さえ 黄褐		5.6	1～3mm程度の砂粒含む	良
217	C区	5	深鉢 底部	ナデ 明黄褐	ナデ 指押さえ にぶい黄橙 スス付着		8.8	1～2mm程度の砂粒含む	良
218	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい褐	ナデ にぶい褐		3.2	1mm以下の砂粒含む	良
219	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい橙	ナデ にぶい橙 スス付着		4.8	1mm以下の砂粒含む	良
220	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい橙	ナデ にぶい赤褐		4.4	1mm以下の砂粒含む	良
221	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい橙	ナデ にぶい橙		10.0	1mm以下の砂粒含む	良
222	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ 明褐		11.0	1mm以下の砂粒含む	良

79.出土遺物観察表③

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
223	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい橙	ナデ 指押さえ 橙		8.4	1～2mm程度の砂粒含む	良
224	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ 明褐		6.4	1～2mm程度の砂粒含む	良
225	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ 明褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
226	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ 指押さえ 褐灰		7.4	1～2mm程度の砂粒含む	良
227	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい橙		3.4	1～2mm程度の砂粒含む	良
228	C区	5	深鉢 底部	ナデ 橙	ナデ にぶい褐		8.2	1～2mm程度の砂粒含む	良
229	C区	5	深鉢 底部	ナデ にぶい褐	ナデ 橙		5.6	1～2mm程度の砂粒含む	良
230	C区	5	浅鉢 頸部	ミガキ 沈線 にぶい黄	ミガキ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
231	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 暗褐	ミガキ 褐			1mm以下の砂粒含む	良
232	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
233	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄褐	ミガキ 暗褐			1mm以下の砂粒含む	良
234	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ 沈線 にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
235	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 穿孔 にぶい褐	ミガキ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
236	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	やや良
237	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 浅い沈線 にぶい黄橙 スス付着	ミガキ にぶい黄橙 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
238	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 明黄褐 スス付着	ミガキ 明黄褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
239	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 浅い沈線 にぶい黄褐 スス	ミガキ にぶい黄褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
240	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 明黄褐	ミガキ 明黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
241	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 浅い沈線 明褐	ミガキ 褐			1mm以下の砂粒含む	やや良
242	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 浅い沈線 明黄褐 スス付着	ミガキ 浅い沈線 にぶい黄褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	やや良
243	C区一括		浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄橙 スス付着	ミガキ 沈線 にぶい黄褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	良
244	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄橙 スス付着	ミガキ 浅い沈線 にぶい黄褐 スス付着			1mm以下の砂粒含む	やや良
245	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
246	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 明黄褐	ミガキ 浅黄			1mm以下の砂粒含む	良
247	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 暗灰黄	ミガキ 沈線 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
248	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 黄褐	ミガキ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
249	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ オリーブ黄	ミガキ 暗オリーブ			1mm以下の砂粒含む	良
250	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄	ミガキ 浅黄			1mm以下の砂粒含む	やや良
251	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄	ミガキ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
252	C区	5	浅鉢 頸部	ミガキ にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	やや良
253	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
254	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ にぶい黄橙	ミガキ 褐灰			1mm以下の砂粒含む	良
255	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
256	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄	ミガキ 浅い沈線 にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
257	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ 褐灰	ミガキ 褐灰			1mm以下の砂粒含む	良
258	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄	ミガキ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
259	C区一括		浅鉢 頸部～胴部	ミガキ 浅黄	ミガキ オリーブ黄			1mm以下の砂粒含む	やや良
260	C区	5	浅鉢 口縁部	ミガキ 黄褐	ミガキ 黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
261	C区一括		浅鉢 頸部～胴部	ミガキ オリーブ黄	ミガキ 灰オリーブ			1mm以下の砂粒含む	良
262	C区	5	浅鉢 頸部～胴部	ミガキ にぶい黄 スス付着	ミガキ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
263	C区	5	鉢 口縁部	ナデ ミガキ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	やや良
264	C区	5	椀 口縁部	ミガキ にぶい橙	ミガキ にぶい褐			1mm以下の砂粒含む	良
265	C区	5	浅鉢 底部	ミガキ にぶい黄褐	ミガキ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
266	C区	5	石鏃 チャート	先端部欠損		1.4	1.7	0.3	1.10
267	C区	5	石鏃 黒曜石	姫島産 黒曜石を使用		2.6	1.7	0.3	0.70
268	C区	5	石鏃 黒曜石	姫島産 黒曜石を使用		2.5	2.0	0.3	1.22
269	C区	5	石鏃 チャート	先端部欠損		1.3	1.6	0.2	0.42
270	C区	5	石鏃 チャート			1.7	1.6	0.3	0.47
271	住居8一括		石鏃 チャート			1.9	1.7	0.3	0.55
272	C区一括		石鏃 チャート	先端部のみ		2.7	2.0	0.5	2.20
273	C区	5	石鏃 チャート			2.7	2.0	0.4	1.50
274	C区	5	石鏃 チャート	先端部欠損		2.6	1.6	0.3	1.00
275	C区	5	使用痕剥片 黒曜石	片面に自然残 打面有		2.9	2.3	0.6	2.50
276	C区	5	石匙 チャート	つまみ部の加工粗い		3.1	2.9	0.5	3.73
277	B区一括		石錐 チャート	先端部欠		4.7	2.8	1.0	9.26
278	C区	5	使用痕剥片 チャート	打面有 一側縁に使用痕		6.2	3.3	1.4	38.22
279	C区	5	使用痕剥片 頁岩	磨製石斧の欠損品を再利用		4.2	3.1	0.7	7.87
280	C区	5	スクレイパー 頁岩	二辺を切断 刃部の加工を丁寧に施す		3.4	3.2	0.8	7.66
281	C区一括		スクレイパー 頁岩	方形を呈す 刃部の加工を丁寧に施す		4.5	4.7	1.3	31.50
282	B区	5	スクレイパー 安山岩	片面自然残 打面も自然面を利用		5.9	5.6	1.7	55.29
283	C区	5	スクレイパー 緑色岩	切断剥片を利用 一部自然面残 使用痕顕著		6.5	8.6	2.4	136.80
284	C区	5	使用痕剥片 ホルンフェルス	片面自然面 歯こぼれ有 残核再利用		8.0	12.0	2.7	263.67
285	C区	5	スクレイパー 緑色岩	片面自然面 刃部の加工を丁寧に施す		4.4	6.0	1.3	35.92
286	C区	5	加工を有する剥片 ホルンフェルス	片面自然面 1/2欠損(切断による)		6.1	3.5	2.0	58.00
287	B区	5	加工を有する剥片 凝灰岩	片面自然面 一側縁の加工は丁寧に施す		8.6	3.3	1.9	60.55
288	C区	5	礫器 砂岩	受熱 自然面有 側面使用		12.6	7.0	1.5	171.43
289	B区	5	礫器 ホルンフェルス	両端使用		11.8	9.4	3.2	638.00
290	表採		礫器 砂岩	一側縁使用 節理面有		14.2	8.7	4.4	637.00
291	C区	5	礫器 砂岩	粗い加工有 石斧未製品？		12.8	7.2	2.3	291.70
292	C区一括		石斧 頁岩	一部自然面残 2/3欠損		8.1	3.5	1.6	62.50
293	C区	5	石斧 緑色岩	一部自然面残 尖端部欠損		7.7	4.5	12.0	57.50
294	B区	5	局部磨製石斧 凝灰岩	基部欠損 刃部は丁寧に研磨		6.3	4.7	1.4	68.40
295	B区一括		石斧 緑色岩	先端部に歯こぼれ有 刃部は丁寧に研磨		7.0	4.8	1.1	45.11
296	B区		局部磨製石斧 砂岩	先端部に歯こぼれ有 刃部は丁寧に研磨		8.5	4.0	1.2	49.00
297	B区	5	石斧 砂岩	一部粗い研磨		11.8	5.6	1.8	130.67
298	C区	5	石斧 頁岩	基部のみ残る 粗い研磨		3.9	3.5	2.4	45.00

80.出土遺物観察表④

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
299	B区	5	石斧 砂岩	基部のみ残る 片面を研磨 片面に自然面		5.0	3.8	2.2	63.15
300	C区	5	石斧 ホルンフェルス	節理による欠損		5.7	4.6	3.2	106.05
301	C区	5	石斧 砂岩	両端欠 片面研磨 片面敲打整形		8.3	4.7	3.0	200.00
302	C区	5	石斧 砂岩	風化顕著 基部残		9.5	2.6	2.2	160.00
303	C区	5	石斧 凝灰岩	敲打調整 半面欠損 基部残		7.3	5.6	3.5	199.84
304	C区	5	石斧 凝灰岩	片面研磨 片面粗い加工		6.3	4.4	3.4	141.00
305	B区一括		石斧 砂岩	欠損 節理面有 敲打を丁寧に施す		11.1	5.0	3.5	305.44
306	表採		石斧 砂岩	両面に自然面 全体に粗い加工		12.8	4.9	3.3	258.90
307	表採		石斧 砂岩	両面研磨 基部残		12.6	5.8	2.4	226.00
308	表採		石斧 砂岩	敲打痕顕著 基部残		8.8	5.6	4.0	336.40
309	B区一括		扁平打製石斧 砂岩	先端部欠損		12.3	6.1	1.6	137.97
310	B区	5	扁平打製石斧 砂岩	片面に自然面残		13.5	7.0	1.9	216.05
311	C区	5	扁平打製石斧 砂岩	先端部欠損		12.7	6.5	2.1	184.22
312	B区一括		扁平打製石斧 砂岩	片面に自然面残		15.2	5.6	1.8	192.00
313	C区	5	扁平打製石斧 砂岩	片面に自然面残		12.0	6.2	2.1	185.40
314	C区	5	扁平打製石斧 砂岩	片面に自然面残 欠損部分を再加工		17.1	11.6	2.3	497.50
315	B区	5	扁平打製石斧 砂岩	欠損		6.9	4.9	1.7	65.40
316	住居7		石鏃 砂岩	欠損 片面に自然面残		4.3	9.3	1.0	53.08
317	B区	5	加工を有する石器 砂岩	欠損		4.4	4.8	1.1	33.00
318	C区	5	加工を有する石器 砂岩	片面に自然面残		6.5	4.9	1.1	42.02
319	C区	5	加工を有する石器 砂岩	片面に自然面残		7.0	4.9	1.8	63.83
320	C区	5	加工を有する石器 砂岩	節理面有 歯こぼれ有		5.1	5.9	1.4	35.15
321	C区	5	加工を有する石器 砂岩	一部自然面残		13.0	6.0	9.0	60.00
322	C区	5	加工を有する石器 砂岩	片面自然面残		9.1	7.0	1.3	116.56
323	C区	5	加工を有する石器 砂岩	片面自然面残		14.1	6.7	1.7	155.00
324	C区	5	礫器 砂岩	両面自然面残		15.3	12.0	2.9	541.51
325	C区	5	磨石 砂岩	小型礫の片面に磨痕が残る		4.0	3.2	2.6	42.93
326	C区	5	敲打器 ホルンフェルス	片面自然面 片面に丁寧な加工を施す		4.5	4.4	3.2	84.40
327	C区	5	敲打器 ホルンフェルス	敲打痕が顕著に残る		6.6	5.5	4.9	220.63
328	B区一括		叩石 砂岩	端部利用		9.2	2.5	1.6	58.94
329	C区	5	叩石 砂岩	端部利用		16.7	3.5	2.4	192.00
330	C区	5	叩石 礫岩	端部利用		9.7	4.2	5.4	250.00
331	C区	5	敲打器 砂岩	欠損 敲打が顕著 受熱		4.4	4.8	2.7	72.50
332	A区	5	敲打器 凝灰岩	欠損 使用痕がわずかに残る		5.7	6.0	4.3	168.84
333	B区	5	敲打器 砂岩	欠損		11.7	5.3	3.8	310.64
334	C区	5	叩石 砂岩	風化が顕著 受熱		6.3	4.7	4.0	147.40
335	C区	5	敲打器 砂岩	側縁に敲打痕		6.8	6.5	2.5	166.00
336	C区	5	磨石 砂岩	両面研磨 側縁に敲打痕		5.9	5.7	2.7	120.00
337	B区	5	敲打器 砂岩	両面研磨 端部に自然面残		9.7	7.2	4.5	482.00
338	C区	5	敲打器 砂岩	一側部の一部に弱い打痕有		9.7	7.1	3.4	338.26
339	C区	5	敲打器 砂岩	風化顕著 受熱無		11.6	6.1	2.2	226.46
340	C区	5	敲打器 砂岩	風化顕著 受熱無		11.6	6.2	2.7	298.92
341	C区	5	敲打器 花崗斑岩	風化顕著 受熱無		12.7	8.2	5.8	877.53
342	B区一括		敲打器 砂岩	一部顕著な敲打痕有 受熱有 欠損		5.9	6.5	4.7	249.02
343	C区	5	磨石 花崗斑岩	両面ともに丁寧に研磨されている 欠損		5.1	7.3	3.8	158.64
344	C区	5	磨石 花崗斑岩	両面ともに丁寧に研磨されている 側縁に敲打痕 割面の縁も利用		13.7	7.0	7.0	985.00
345	C区	5	磨石 砂岩	両面ともに丁寧に研磨されている 側面の利用は弱い		17.0	9.4	5.0	1200.00
346	C区	5	台石 砂岩	加工痕は認められない		29.0	22.3	8.7	1005.00
347	住居1		高杯 杯・脚接合部	にぶい黄橙				1～2mm程度の砂粒含む	良
348	住居1		椀	ナデ 口部縁 つまみ出し にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	4.6～5.0	8 5.2	1～3mm程度の砂粒含む	良
349	住居1		壺 底部	ナデ 浅黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
350	住居1		鉢	ミガキ 指押さえナデ 明黄褐 スス付着	ナデ 指押さえ 明黄褐	13.5	10.2 5.3	1～3mm程度の砂粒含む	良
351	住居1		壺 胴～底部	タタキ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙				良
352	住居1		磨石 砂岩	打痕・磨痕ともに顕著ではない		8.3	6.5	3.9	322.50
353	住居1		不明鉄器			2.2	1.1	0.3	0.44
354	住居2		甕 頸～胴部	ハケ ナデ 灰黄褐 スス付着	ハケ ナデ 灰黄褐 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
355	住居2		甕 頸～胴部	ナデ ミガキ にぶい褐 スス付着	ナデ ミガキ 橙 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
356	住居2		砥石 砂岩	両面ともに丁寧に研磨されている		28.0	9.1	3.0	1100.00
357	住居2		砥石 砂岩	両端に打痕有		19.4	6.1	5.4	129.00
358	住居2		不明石器 頁岩	節理面有		37.9	5.1	3.5	1100.00
359	住居2		錐状鉄器			4.2	0.8	0.2	0.99
360	住居2		不明鉄器			2.2	0.6	0.4	0.43
361	住居2		不明鉄器			1.8	0.9	0.5	0.78
362	住居3		壺 底部	ハケ ミガキ 黄褐 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ 黄褐		1.8	1～3mm程度の砂含む	良
363	住居3		壺 底部	ハケ ミガキ 明黄褐 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ 明黄褐		4.4	1～3mm程度の砂含む	良
364	住居3		管玉 凝灰岩	灰		2.0	0.3	0.5	0.39
365	住居4		甕 口縁部	ナデ 橙	ナデ 橙 スス付着		20.0	1～3mm程度の砂粒含む	良
366	住居4		甕 口縁部	ナデ 明褐 スス付着	ハケ ナデ にぶい褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
367	住居4		壺 口縁部	タタキ 指押さえ 明黄褐 スス付着	ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
368	住居4		壺 胴～底部	ナデ 橙	ナデ 指押さえ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
369	住居4		壺 頸～胴部	タタキ ナデ 橙	ナデ 指押さえ 明黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
370	住居4		石核 緑色岩	自然面残 打面調整なし		11.8	6.8	4.0	398.50
371	住居4		壺 底部	タタキ ナデ 明黄褐	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
372	住居4		敲打器 砂岩	側面に敲打痕有		4.8	4.5	2.1	57.00
373	住居4		叩石 砂岩	両端使用 敲打痕あり		14.3	23.0	2.0	100.84
374	住居4		叩石 砂岩	両端使用		15.1	3.2	1.2	100.00

81.出土遺物観察表⑤

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
375	住居4		砥石 頁岩	磨痕が顕著である		9.5	4.4	8.0	43.32
376	住居4		砥石 頁岩	磨痕があまり見られない		18.4	4.8	10.0	128.50
377	住居4		磨石 凝灰岩	半分欠損 片面は平たくなるまで研磨されている		11.0	6.5	5.0	600.00
378	住居4		敲打器 砂岩	割れ部分に敲打痕が残る 鉄分付着		13.6	11.4	7.0	1900.00
379	住居4		磨石 砂岩	一面を残しほぼ全面に磨痕が残る		13.0	12.6	6.5	2200.00
380	住居4		磨石 砂岩	残核を利用		14.5	13.9	5.4	1800.00
381	住居4		敲打器 砂岩	割れ部分に敲打痕が残る		15.2	8.3	5.2	815.12
382	住居4		敲打器 砂岩	割れ部分に敲打痕が残る		17.4	13.4	7.5	1900.00
383	住居4		敲打器 砂岩	割れ部分に敲打痕が残る		12.1	11.9	7.4	1173.79
384	住居4		敲打器 砂岩	割れ部分に敲打痕が残る		9.1	7.5	6.0	601.00
385	住居4		砥石 砂岩	一面を残しほぼ全面を利用 顕著な敲打痕有		18.1	12.1	9.0	3200.00
386	住居4		小玉 ガラス	青		0.5	0.1	0.3	0.09
387	住居4		小玉 ガラス	青 欠損		0.5	0.1	0.3	0.03
388	住居4		圭頭鏃			4.7	1.9	0.8	5.55
389	住居4		刀子			5.2	1.3	0.9	3.47
390	住居4		鉄鏃+短剣	短剣は先端部分のみ		5.6	2.3	1.6	14.68
391	住居4		不明鉄器			2.2	0.9	0.7	1.43
392	住居4		柳葉鏃	茎部欠損		3.1	1.1	0.3	30.00
393	住居4		不明鉄器			4.6	1.0	0.9	4.09
394	住居5		壺 胴～底部	ハケ ナデ 浅黄 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ にぶい黄 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
395	住居6		甕? 口縁部	ナデ 橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
396	住居6		甕 口縁部	ハケ にぶい黄橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
397	住居6		壺 口縁部～胴部	ミガキ ナデ 橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙 スス付着	16.0		1～3mm程度の砂粒含む	良
398	住居6		甕 口縁部～胴部	ナデ 指押さえ にぶい黄橙 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい黄橙 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
399	住居6		甕 口縁部～胴部	ハケ ナデ 指押さえ 黄褐 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい黄橙 スス付着	22.0		1～3mm程度の砂粒含む	良
400	住居6		甕 口縁部～胴部	ハケ ミガキ ナデ 橙 スス付着	ハケ ナデ 灰黄褐 スス付着	19.7		1～3mm程度の砂粒含む	良
401	住居6		壺 底部	タタキ ナデ 橙 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい黄褐 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
402	住居6		壺 底部	ミガキ ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい橙 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
403	住居6		壺 頸部	ミガキ ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
404	住居6		壺 頸部	ハケ ナデ 浅黄橙	ハケ ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
405	住居6		壺 頸部	ナデ 紐状突帯 明褐 スス付着	ナデ にぶい褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
406	住居6		鉢 頸～底部	ハケ ナデ にぶい橙 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
407	住居6		壺 底部	ハケ ナデ ミガキ にぶい橙 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい橙		1.8	1～3mm程度の砂粒含む	良
408	住居6		壺 底部	ナデ 指押さえ にぶい橙	ナデ 指押さえ 灰褐		4.8	1～3mm程度の砂粒含む	良
409	住居6		壺 底部	ミガキ ナデ 明赤褐	ハケ ナデ 指押さえ 剥痕有 明赤褐 スス付着		1.6	1～3mm程度の砂粒含む	良
410	住居6		壺 底部	ナデ にぶい橙 スス付着	指押さえ にぶい赤褐 スス付着		7.0	1～3mm程度の砂粒含む	良
411	住居6		壺 底部	ハケ ミガキ ナデ にぶい黄橙 スス付着	指押さえ ナデ 褐灰			1～3mm程度の砂粒含む	良
412	住居6		高杯 脚部	ナデ 穿孔4 にぶい橙	ナデ 指押さえ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
413	住居6		高杯 脚部	ナデ 1/3残 穿孔2 にぶい橙	ナデ にぶい橙		6.6	1～3mm程度の砂粒含む	良
414	住居6		椀	ハケ ナデ 橙 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ にぶい黄橙 スス付着		1.5	1～3mm程度の砂粒含む	良
415	住居6		砥石 頁岩	欠損 片面のみ磨面有		8.8	2.8	0.4	15.61
416	住居6		砥石 砂岩	欠損 側面にも磨面有		8.2	2.4	0.9	12.63
417	住居6		礫 砂岩	用途不明(台石?)		16.5	16.5	17.0	4000.00
418	住居6		不明鉄器			1.6	1.3	0.9	1.26
419	住居6		不明鉄器			1.7	1.1	0.6	0.87
420	住居6		不明鉄器			2.8	0.8	0.3	0.65
421	住居6		錐状鉄器			3.9	0.7	0.5	1.25
422	住居7		壺 口縁部	ナデ にぶい橙	ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
423	住居7		壺 頸部	ナデ 橙	ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
424	住居7		壺 頸部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
425	住居7		壺 頸部	ナデにぶい橙 スス付着	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
426	住居7		壺 頸部	ナデ 頸部に突帯 浅黄橙	ナデ 浅黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
427	住居7		壺 頸部	ハケ ナデ 頸部に突帯 橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
428	住居7		壺 頸部	ナデ 橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
429	住居7		壺 頸部	ナデ 橙	ナデ 灰黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
430	住居7		甕 口縁部	ナデ 橙	ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
431	住居7		甕 口縁部	ナデ にぶい黄橙	ハケ ナデ 橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
432	住居7		甕 口縁部	ナデ にぶい橙 スス付着	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
433	住居3		甕 口縁部	ナデ 橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
434	住居7		甕 頸～胴部	ナデ 橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
435	住居7		壺 底部	ミガキ ナデ にぶい橙	にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
436	住居7		壺 底部	ハケ ミガキ ナデ 明黄褐 スス付着	ハケ ナデ 指押さえ 褐灰		4.0	1～3mm程度の砂粒含む	良
437	住居7		高杯 脚部	ナデ 橙	ナデ にぶい褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
438	住居7		ヤリガンナ	先端部のみ		2.7	1.6	0.4	1.61
439	住居7		精製浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ 沈線 にぶい黄橙			1mm程度の砂粒含む	良
440	住居7		深鉢 頸部	ナデ 凹線 暗灰黄	ナデ 明黄褐			1mm程度の砂粒含む	良
441	住居7		粗製深鉢 口縁部	ヨコナデ 突帯 にぶい黄橙	ナデ 黄褐			1mm程度の砂粒含む	良
442	住居7		粗製深鉢 口縁部	ヨコナデ 突帯 沈線 黄橙	ナデ 沈線 橙			1mm程度の砂粒含む	良
443	住居7		砥石 頁岩	磨石は一面のみ		7.4	2.3	0.9	30.32
444	住居8		石錘 砂岩	三辺を打ち欠く		3.9	5.7	1.0	35.76
445	住居8		砥石 砂岩	一部欠損 ほぼ全面に研磨痕有		15.4	6.6	6.0	1056.69
446	住居8		精製浅鉢 口縁部	ミガキ 明褐	ミガキ 明褐			1mm程度の砂粒含む	良
447	住居8		精製浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 橙	ミガキ 沈線 にぶい橙			1mm程度の砂粒含む	良
448	住居8		浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
449	住居9		甕 口縁部	タタキ ナデ にぶい黄橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
450	住居9		甕 頸部	タタキ にぶい黄橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良

82.出土遺物観察表⑥

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
451	住居9		甕 頸部	ハケ ナデ 指押さえ にぶい黄	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
452	住居9		甕 頸部	ハケ ナデ 褐	ナデ にぶい褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
453	住居9		甕 胴部	ナデ 指押さえ 橙 スス付着	ナデ 明褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
454	住居9		高杯 脚部	ハケ 穿孔 橙	ナデ 橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
455	住居9		浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄橙			1mm以下の砂粒含む	良
456	住居9		浅鉢 口縁部	ミガキ 沈線 にぶい黄橙	ミガキ にぶい黄褐			1mm以下の砂粒含む	良
457	住居9		小礫 礫岩	若干の打痕有		3.6	2.9	2.3	30.40
458	住居9		小礫 凝灰岩	若干の打痕有		3.5	2.3	2.2	30.07
459	住居9		ヘラ状石器 頁岩	片面自然面(一部研磨) 両面縁研磨		8.4	2.9	1.0	37.98
460	住居9		礫器? 砂岩	打欠痕を端部に確認 受熱		37.0	11.7	5.4	2600.00
461	住居9		礫器? 砂岩	片面自然面 扁平打製石斧の欠損品		14.0	8.5	2.2	251.68
462	住居9		磨石 礫岩	片面に顕著な磨痕有 受熱		11.7	5.7	5.2	402.00
463	住居9		台石 花崗斑岩	明確な研磨は確認できない		23.9	12.7	8.5	2100.00
464	住居10		甕 口縁部	ナデ にぶい黄	ハケ ナデ にぶい黄			1～3mm程度の砂粒含む	良
465	住居10		甕 口縁部	ナデ 指押さえ にぶい黄	ナデ 若干工具痕有 にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
466	住居10		甕 頸部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
467	住居10		甕 口縁部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
468	住居10		壺 底部	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ 灰黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
469	住居10		高杯 脚部	ナデ 明褐 スス付着	ナデ にぶい橙 スス付着			1～3mm程度の砂粒含む	良
470	B区一括		勾玉 結晶片岩(?)	灰色		1.4		0.4	0.51
471	住居10		圭頭鏃	先端部欠損		4.0	2.2	0.5	5.16
472	住居10		磨石 砂岩	一部敲打痕と研磨痕を施す		12.6	14.7	6.0	2000.00
473	C区	5	使用痕剥片 安山岩質	風化が顕著 打面を残す		4.4	6.6	1.2	40.00
474	C区	5	打斧石包丁 頁岩	打面調整を丁寧に施す 研磨痕無		5.1	8.9	2.2	105.73
475	C区	5	磨製石斧 砂岩	先端部のみ 一部敲打痕が残る		4.2	2.3	1.3	15.00
476	C区	5	磨製石斧 砂岩	風化 磨痕一部残 欠損品		5.8	4.4	3.0	43.95
477	C区	5	磨製石斧 不明	先端部に顕著な研磨痕 欠損品 敲打痕有		4.6	4.1	16.0	44.00
478	C区	5	砥石 頁岩	磨痕 一面と方側面の一部に施す		11.0	1.7	1.0	52.35
479	C区	5	壺 頸部	貼付突帯 ヨコナデ 褐灰 スス付着	ナデ 灰黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
480	C区	5	壺 口縁部	ナデ 灰黄	ナデ 暗灰黄			1～2mm程度の砂粒含む	良
481	C区	5	壺 口縁部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
482	C区	5	壺(二重口縁) 口縁部	櫛描波状文 ナデ 橙	ナデ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
483	C区	5	壺(二重口縁) 頸部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
484	C区一括		壺 口縁部	ナデ にぶい褐 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
485	B区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 橙	ナデ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
486	C区	5	小型丸底壺 口縁部	ヨコナデ にぶい橙	ヨコナデ にぶい橙			1mm以下の砂粒含む	良
487	C区	5	小型丸底壺 口縁部	ハケ ナデ にぶい橙	ハケ ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
488	C区	5	壺 口縁部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
489	C区	5	壺 口縁部	ナデ 橙	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
490	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 橙 スス付着	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
491	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 黄褐 スス付着	ナデ 黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
492	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ にぶい黄橙 スス付着	ハケ ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
493	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 黄褐 スス付着	ナデ 灰黄			1～2mm程度の砂粒含む	良
494	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 黄褐	ハケ ナデ 明黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
495	C区	5	壺 口縁部	ハケ ナデ 橙 スス付着	ハケ ナデ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
496	C区	5	壺 口縁部	タタキ ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
497	C区	5	壺 口縁部	ナデ にぶい黄橙 スス付着	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
498	C区	5	壺 口縁部	ナデ 黄橙	ナデ 明黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
499	C区	5	壺 口縁部	ナデ 橙	ナデ 橙			1mm以下の砂粒含む	良
500	C区	5	壺 口縁部	ナデ 指押さえ 沈線 明褐 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
501	C区	5	壺 口縁部	ナデ 明褐	ナデ 灰褐			1mm以下の砂粒含む	良
502	C区一括		壺 頸部	ナデ 淡黄	ナデ 浅黄			1～2mm程度の砂粒含む	良
503	C区	5	壺 頸部	ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
504	C区	5	壺 頸部	ひも状貼付突帯 ナデ 橙	ナデ にぶい橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
505	C区	5	壺 頸部	ひも状貼付突帯 ナデ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ 明黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
506	C区	5	壺 頸部	ひも状貼付突帯 ナデ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
507	C区	5	壺 胴部	ハケ ナデ 橙	ナデ にぶい黄			1～3mm程度の砂粒含む	良
508	C区	5	壺(二重口縁) 頸部～胴部	ハケ ナデ にぶい橙	ナデ にぶい黄			1～3mm程度の砂粒含む	良
509	C区	5	壺 胴部	ナデ 明褐	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
510	C区	5	甕 口縁部	ハケ ナデ にぶい橙 スス付着	ナデ ハケ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
511	表採		甕 口縁部	タタキ ナデ にぶい黄橙	ナデ にぶい黄			1～3mm程度の砂粒含む	良
512	C区	5	鉢 頸部～胴部	ナデ 黄橙	ナデ 明黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
513	B区	5	高杯 杯・脚接合部	ナデ にぶい橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
514	C区	5	高杯 杯・脚接合部	ナデ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙		4.0	1～5mm程度の砂粒含む	良
515	C区	5	高杯 脚部	ナデ にぶい橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
516	C区	5	高杯 脚部	ナデ ハケ 浅黄橙	ナデ にぶい黄褐			1～2mm程度の砂粒含む	良
517	C区	5	高杯 脚部	ナデ にぶい黄橙	ナデ 橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
518	C区	5	高杯 脚部	ミガキ 橙	ナデ にぶい黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
519	C区	5	手捏ね土器	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ 灰黄褐		0.3	1mm以下の砂粒含む	良
520	C区	5	高杯 脚部?	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
521	C区	5	壺 底部	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
522	C区	5	壺 底部	タタキ ナデ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ 浅黄橙		1.0	1～5mm程度の砂粒含む	良
523	C区	5	壺 胴～底部	ナデ 橙	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
524	C区	5	壺 胴～底部	ナデ 黄橙	ナデ にぶい橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
525	C区	5	壺 胴～底部	ナデ 橙	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良
526	C区	5	壺 胴～底部	ナデ ハケ ミガキ にぶい黄橙 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～3mm程度の砂粒含む	良

83.出土遺物観察表⑦

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
527	C区	5	壺 底部	ナデ ハケ 指押さえ 明黄橙	ナデ 指押さえ 灰黄褐		2.0	1～3mm程度の砂粒含む	良
528	C区一括		壺 底部	ナデ 指押さえ にぶい黄橙	ナデ 指押さえ にぶい黄褐			1～3mm程度の砂粒含む	やや不良
529	C区	5	壺 胴～底部	ハケ ナデ 指押さえ 褐	ナデ ハケ 指押さえ 灰褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
530	C区	5	壺 胴～底部	ハケ ナデ 指押さえ 明褐	ナデ ハケ 指押さえ にぶい橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
531	C区	5	甕 底部	ナデ 指押さえ にぶい橙	ナデ 指押さえ にぶい褐			1～3mm程度の砂粒含む	良
532	C区	5	甕 底部	ナデ にぶい橙	ナデ 灰褐			1～5mm程度の砂粒含む	良
533	C区	5	甕 底部	ナデ ハケ 指押さえ 橙	ナデ 指押さえ 褐灰		4.2	1～3mm程度の砂粒含む	良
534	C区	5	甕 底部	ハケ ナデ 明褐	ナデ ハケ 指押さえ にぶい橙		3.6	1～3mm程度の砂粒含む	良
535	C区	5	甕 底部	ハケ ナデ 橙	ナデ ハケ 指押さえ 橙		5.2	1～3mm程度の砂粒含む	良
536	C区	5	須恵器 杯 口縁部	回転ナデ 灰白	回転ナデ 灰白			精良	良
537	C区	5	須恵器 杯 口縁～胴部	回転ナデ 灰白	回転ナデ 灰白	16.4		精良	良
538	C区	5	須恵器 口縁部	回転ナデ 自然釉 灰白	回転ナデ 自然釉 灰			精良	良
539	C区	5	須恵器 瑙 胴部	回転ナデ 灰	回転ナデ 自然釉 灰オリーブ	10.4		精良	良
540	C区	5	須恵器 瑙 口縁部	回転ナデ 灰	回転ナデ 自然釉 灰オリーブ	16.0		精良	良
541	C区一括		青磁椀 口縁部	施釉 蓮弁(龍泉窯)	施釉		13.6	精良	良
542	C区溝2		椀 口縁部	施釉 草花文(黒徳鎮)	施釉 圏線		3.5	精良	良
543	C区溝2		皿 口縁部	施釉 草花文 端反り	施釉 文様不明			精良	やや不良
544	表採		皿 底部	施釉 草花文 砂目	施釉 草花文		3.7	精良	良
545	C区一括		皿 底部	施釉 草花文？(漳州窯) 砂目	施釉 草花文？		3.4	精良	良
546	C区一括		白磁八角小杯 口縁部	施釉 肥前	施釉			精良	良
547	B区一括		古唐津椀 底部	施釉	高台 畳付 無釉		4.7	精良	良
548	C区一括		皿 口縁部	施釉 肥前(嬉野？)	施釉		8.4	精良	良
549	C区	5	椀？ 胴部	施釉 肥前	施釉			精良	良
550	C区	5	椀 口縁部	施釉 草花文 圏線	施釉		16.0	精良	良
551	C区一括		椀	施釉 草花文？	施釉		8.0	精良	良
552	表採		すり鉢 胴部	ナデ 灰白	ナデ すり目 浅黄			1mm以下の砂粒含む	良
553	C区	5	土錘	ナデ にぶい黄		5.4	0.4・1.6	1mm以下の砂粒含む	良
554	C区	5	土錘	ナデ 浅黄		4.2	1.6・0.3	1mm以下の砂粒含む	良
555	土坑8		壺 口縁部	ナデ にぶい黄	ナデ にぶい黄			1mm以下の砂粒含む	良
556	C区	5	高杯 杯・脚部結合部	ナデ 褐	ナデ にぶい褐			1～5mm程度の砂粒含む	良
557	C区	5	壺 胴～底部	ナデ 明黄褐	ハケ ナデ 指押さえ にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良
558	不明		壺 胴～底部	ハケ ナデ にぶい黄橙	ハケ ナデ 指押さえ にぶい黄褐			1～5mm程度の砂粒含む	良
559	不明		磨製石斧 砂岩	全面を丁寧に研磨する 先端部欠損		10.9	5.9	3.9	386.00
560	不明		礫器 砂岩	片面自然面 片縁歯つぶし調整		15.5	10.0	3.2	544.36
561	C区	5	叩石 千枚岩	端部打欠痕		5.9	3.3	1.0	18.36
562	C区	5	加工を有する石器 砂岩？	風化の為、敲打、研磨調整不明 一部欠損		5.6	3.8	1.0	38.07
563	C区	5	加工を有する石器 頁岩	片面と一側縁の一部を研磨		6.9	3.6	1.0	37.00
564	B区	5	砥石 砂岩	両面に線状痕有 節理面、自然面有		8.9	9.4	2.0	259.00
565	C区	5	加工を有する石器 砂岩	円盤状 側縁の一部を研磨		5.1	5.5	0.9	37.50
566	B区	5	石錘 砂岩	円盤状の礫の両端を浅く打ち欠く		6.4	7.1	1.2	85.00
567	C区	5	石錘 頁岩	三方向を打ち欠く 一部研磨		3.8	5.7	1.4	42.50
568	B区一括		石錘 砂岩	両端打欠石錘 一部調整痕		5.4	6.3	1.9	89.85
569	C区	5	石錘 千枚岩	両端打欠石錘		5.7	5.8	1.7	89.52
570	表採		石錘 砂岩	両端打欠石錘 両側縁に調整痕		7.2	8.2	2.4	170.00
571	C区	5	石錘 砂岩	両端打欠石錘		6.9	4.7	1.1	50.59
572	C区溝2		石錘 砂岩	両端打欠石錘 両側縁に調整痕		4.5	6.4	1.4	51.65
573	C区	5	石錘 緑色岩	両端打欠石錘		5.1	7.5	1.7	92.27
574	C区	5	加工石製品 凝灰岩	工具痕あ有 受熱		35.4	18.4	12.0	5500.00
575	C区	5	加工石製品 凝灰岩	全体に粗い研磨を施す		35.6	14.0	8.1	4400.00

84.出土遺物観察表⑧

４．２～４区の調査

２区の概要（８５）

上田下遺跡２区～４区は、細長く解析された谷部にあたる。２区から４区へ向かいその標高は低くなり、その差は約 20 mにおよぶ。台地上の１区との比高差は２区で約 20 m、４区で 40 mを測る。谷は西から東に解析され、途中方向を大きく変え南に下り、五ヶ瀬川の支流である伍領川に達する。地区の人たちには、水が枯れることのない谷として知られている。水分を含んだ粘性の高い土が堆積している低湿地帯で、ぬかり田と呼ばれる湿田での稲作が行われていた。平成 19(2008) 年３月に確認調査が行われ、この谷からはチャート製剥片や砂岩製礫器等が出土している。今回の調査では、谷の最深部を２区とし東の谷の入り口に向かい３区、４区と設定した。２区と４区では約 20 mの比高差がある。調査は低湿地帯における稲作の可能性を考慮し行った。渇水期を考慮して１月に着手したが、それでも常に水がある悪条件であり、また、例年以上の雨の多さに困難を極めた。排水溝を作り、常時、水中ポンプによる排水を行ったが、湧水と折からの雨で地表が乾くことがなく、面的な調査を断念することとなった。そこで、トレンチにより土層断面を確認し、プラントオパール分析による稲作の可能性を探ることとした。

谷の最深部にあたる２区は、北西からと南西からの２本の浅い谷が集まり、常に水が集まる環境にある。南西の谷は総合運動公園造成時に一部が埋められている。２区の東端には北から短い谷が入っている。断面は水分を含んだ粘土と砂質の互層になっており、極めて軟弱な地盤であった。崩落の危険も高く、安全面に配慮した調査となった。２区では４箇所のトレンチを設定した。各トレンチにおいて層序が大きく異なり、基本層序として抑えることは難しく、各トレンチごとにその概要を記す。

トレンチ１は南西の谷に設置した。２区では、もっとも標高の低い位置にあたる。地表より約 280cm で岩盤に到達する。地山である岩盤を成形して水田面を広げているが、崩れやすかったようで木杭を打ち、横木を渡し護岸を行っている。護岸の痕跡は１層と２層の間と２層と３層の間に残っていた。トレンチ１の層序（８９）は以下の通りである。1 層は茶褐色粘質土、2 層淡青灰色粘質土、3 層暗黄灰褐色土（やや硬くしまる。岩砕混じる。）、4 層淡青灰色粘質土（シルト質）、5 層淡暗黄灰褐色岩砕粒（粘性がある。やや硬くしまる。）、6 層黒褐色粘質土（有機質を多く含む）、7 層淡黄褐色土（岩砕粒に砂が混じる）、8 層暗黄褐色粘質土（岩砕粒混じり。有機物が混じる。）、9 層岩砕（10 ～ 30cm 大。砂、粘土が混じる。）。

トレンチ２は北西の谷の奥に設置した。周囲の岩盤を削ったり、崩れたりを繰り返したようで、岩砕と粘質土が混ざり幾重にも層を形成している。1 層岩砕、2 層暗灰褐色粘質土、3 層岩砕粒層（0.3cm ～ 2cm 大）、4 層淡青灰色粘質土＋岩砕（2 ～ 5cm 大が主である。）、5 層暗茶灰褐色粘質土（岩砕粒混じる。）、6 層岩砕粒＋青灰色粘質土（有機物が混じる。）、7 層暗青灰色粘質土＋粒状岩砕であった。6 層と 7 層の層境から湧水が見られる。

トレンチ２の下段にトレンチ３を設定した。埋立による造成によって作られた地形であり、約１m が岩砕による埋土であった。

トレンチ４は北から入る短い谷に設定した。地表から約 130cm で大きな阿蘇溶結凝灰岩（灰石）が検出された。これは現代の水田耕作時に、耕作機械が沈まないように埋めたものであった。1 層灰褐色色質土（鉄斑が見られる）、2 層灰褐色粘質土（1 層より粘性が高い）、3 層暗灰褐色土、4 層淡緑灰色粘質土（5 層の粒子が混ざる）、5 層黄白色砂岩質岩盤（粘性を帯び、非常に軟らかい）。

85.上田下遺跡２区調査区配置図(S=1/800)

３区の概要（８６）

３区は東に向かっていた谷が、南にさらに東にと向きを変える変換点に位置する。南西方向から別の谷を伝ってきた沢が、流れ込む地点でもある。３区では２箇所のトレンチを設定した。確認調査でチャート製剥片が出土している地点である。

トレンチ５は谷の変換点の横断面に設置した。地表から約 1m で 60 ～ 100 ｃｍ数個の阿蘇溶結凝灰岩を検出した。これも現代の耕作時に埋めたものと判断される。１層淡青灰褐色粘質土（暗橙色鉄斑混じる）、２層暗青灰褐色粘質土（岩砕粒混じる）、３層暗灰色粘質土、４層暗灰色粘質土（粒状の岩砕、炭化物が混じる）、５層暗灰褐色土（粘性が高く、有機物が多く含まれている）、６層岩砕、７層青灰色岩砕。４～５層に阿蘇溶結凝灰岩が見られる。

トレンチ６はチャート製剥片が出土しており、また、水の量が比較的に少なく、面的に調査を行った。１～３層に少量の陶磁器片が出土したが、近現代のものであった。非常に小さな土器片等も見られるが、磨耗しているため時期等は不明である。３区は１区の台地の直下にあたり遺物等は上からの流れ込みであると判断される。地表から約 120cm で岩盤に達する。

４区の概要（８７）

３区から東に下る谷は１区の台地が大きく南側に張り出すのに合わせて、水田耕作が不可能なほど細くなり、４区に入り再び広くなる。谷はこの地点で大きく南に蛇行する。３区は１区の台地の南西下で、４区は南東下に位置する。１区の東に入る小さい谷から流れ出る湧水は、水が絶えることがないといわれている。確認調査で砂岩製礫器が出土している。南側の丘陵斜面を利用した標高約 40 ｍの水田地にトレンチ７と、谷の標高約 38 ｍの水田地にトレンチ８を設定した。

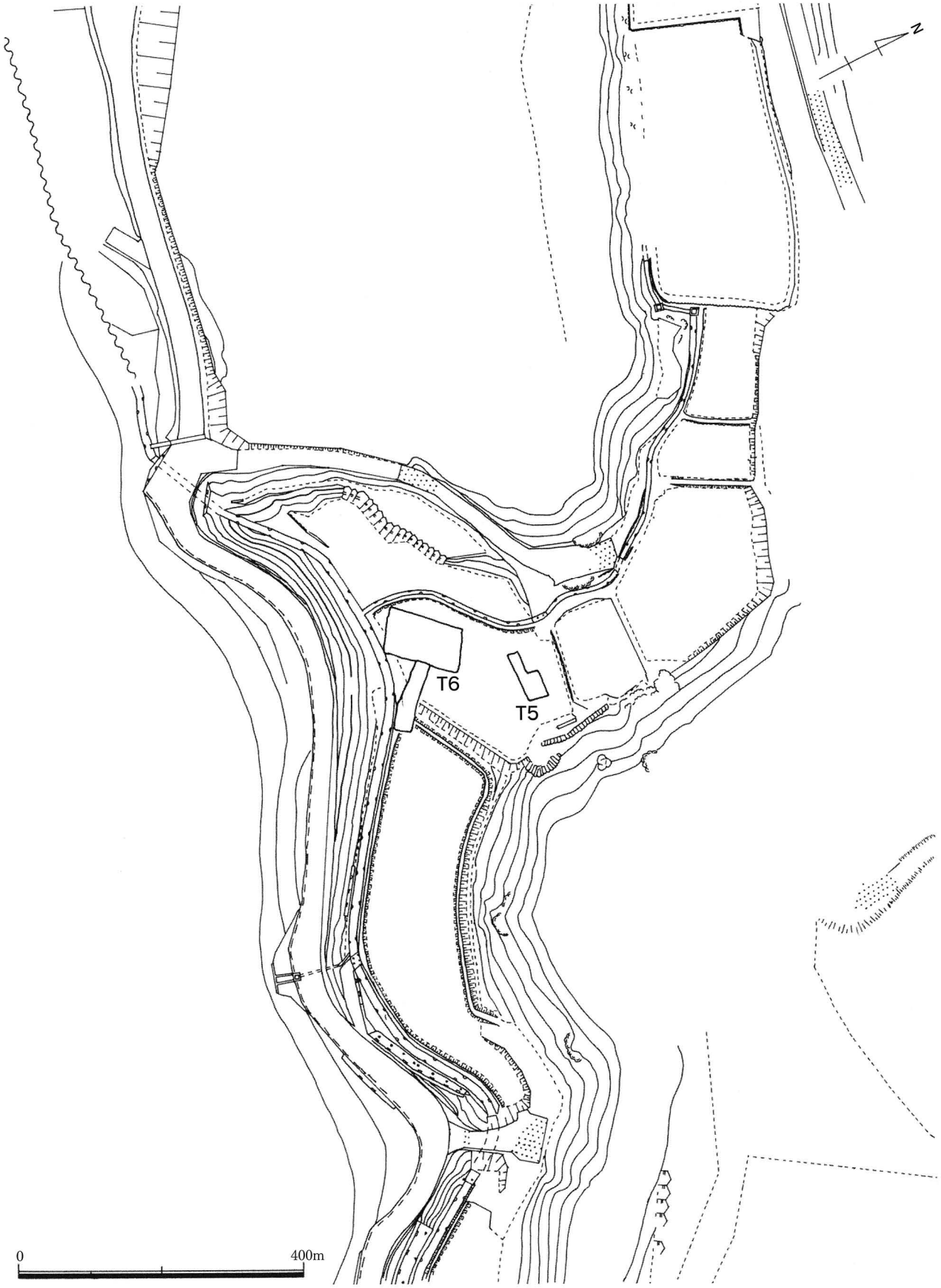
トレンチ７は丘陵を利用し平坦面を作り、水田耕作を行っていた地点にあたる。旧地形が多く残っていると期待したが地山である岩盤は急激に落ち込み、そのほとんどが造成による埋土であった。

トレンチ８を設定した水田では、確認調査で遺物が出土していることから、表土を剥ぎ面的な調査も行ったが遺構・遺物は出土していない。トレンチ調査でも現代の大規模な造成跡が伺え、確認調査時の遺物は、１区等の近接する遺跡から流れ込んだ遺物と判断される。トレンチ８の層序は以下の通りである。１層暗褐色土、2 層淡灰褐色粘質土（旧耕作土）、3 層灰褐色粘質土（暗橙色の鉄斑が混じる）、４層暗灰褐色粘質土（微量の鉄斑が混じる）、５層黒灰褐色粘質土（微細な炭化物が混じる）、６層埋土（約 150cm 大の大きな阿蘇溶結凝灰岩と 40cm 大の粟石、小石、砂利、砂等）、6′ 層灰白色砂質土（粘土混じりの砂層。有機物が混じる）。

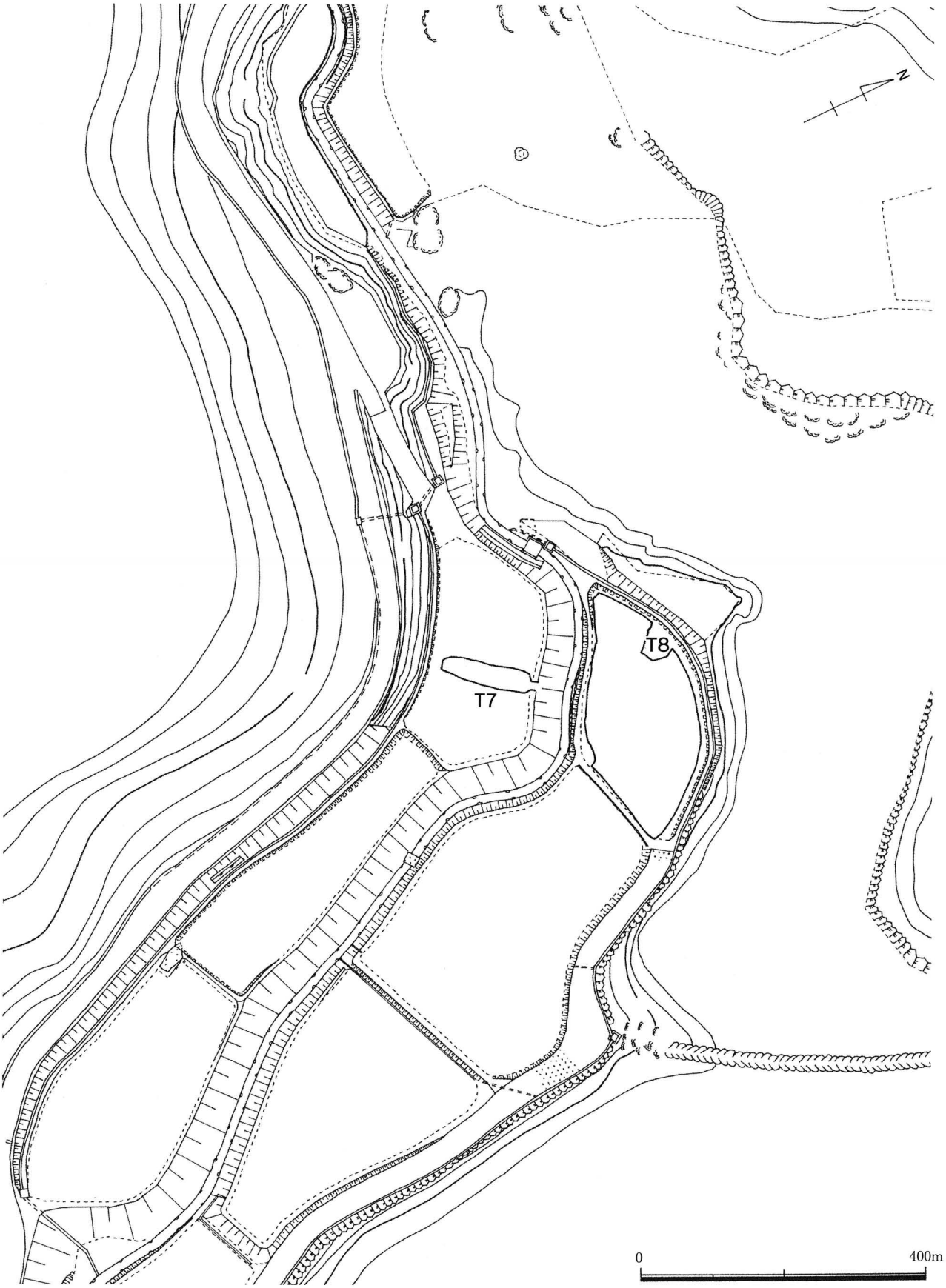
植物珪酸体分析結果（８８）

２～４区において、土中に長期間残留するイネ科由来の植物珪酸体を調査する事で、農耕有無とその利用状況を明らかにする為に植物珪酸体分析を行った。

試料は２区トレンチ１から２層・４層・６層・７層、トレンチ２から４層・５層・６層・７層、トレンチ４から１層・２層・３層・４層、３区トレンチ５から２層・３層・４層・５層、４区トレンチ８から３層・４層・５層・6′ 層の各４層位分の合計 20 点を採取した。　観察の結果、トレンチ１以外からはヨシ属とネザサ節の植物珪酸体が検出され、加えてトレンチ１の２層・４層、トレンチ４の１層・２層、トレンチ５の２層・３層・４層、トレンチ８の３層・４層・５層からは稲の葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体が検出された。また、稲の機動細胞が検出された試料からは、珪藻類も観察されている。それに対し、イネの植物珪酸体の検出が無い試料からは珪藻類の検出も無かった。



86.上田下遺跡３区調査区配置図(S=1/800)



87.上田下遺跡４区調査区配置図(S=1/800)

一般に、イネの植物珪酸体の検出密度が5000粒/gを超える場合、その地点で稲作が行われていたとされるが、いずれの試料からもこの値を超す検出密度は認められなかった。しかし植物珪酸体の検出密度（含有量）は、稲作が行われた期間や栽培形式（穂刈り、株刈り）に左右される。加えてイネの植物珪酸体の検出された試料で確認された珪藻類（Surirella属、Cymbella属、Pinnularia属、Stauroneis属）は湖沼、水田で確認される種であり、これは試料をサンプリングした地層が地表であった時期に冠水していた状態があった事が考えられる。したがってイネの植物珪酸体が検出された地層において検出密度が少ないものの水田としての利用も考えられる為、稲作が行われていた可能性が推察される。

小結

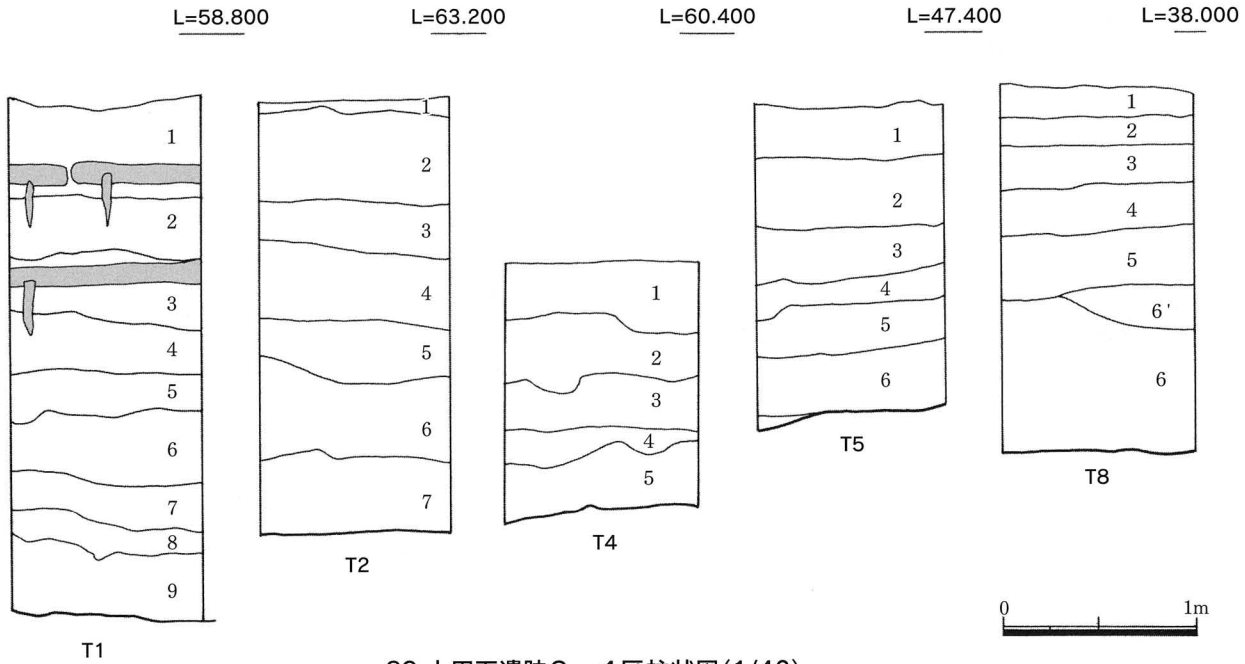
2区～4区で古代の稲作の可能性を探ったが、常に冠水しているような状況での稲作が行われていたようで、現代の水田耕作の痕跡でさえ、プラントオパール分析でも顕著に確認する事が出来なかった。また、土層の堆積状況からも現代において大きな改良の痕跡が伺え、古代水田址に該当する層は検出されなかった。以上のことから、当地における古代の水田耕作の可能性は極めて低いと判断される。

	2区												3区				4区			
	トレンチ1				トレンチ2				トレンチ4				トレンチ5				トレンチ8			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1 イネ	3	2	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	3	2	1	0	2	3	3	0
	23	15	0	0	0	0	0	0	30	23	0	0	22	15	8	0	15	23	23	0
プラント・オパール総数	3	2	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	3	2	1	0	2	3	3	0
ガラスビーズカウント数	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300

上段　検出個数

中段　検出密度（単位；×100個/g）

植物珪酸体化石組成表



89.上田下遺跡２～４区柱状図（1/40）

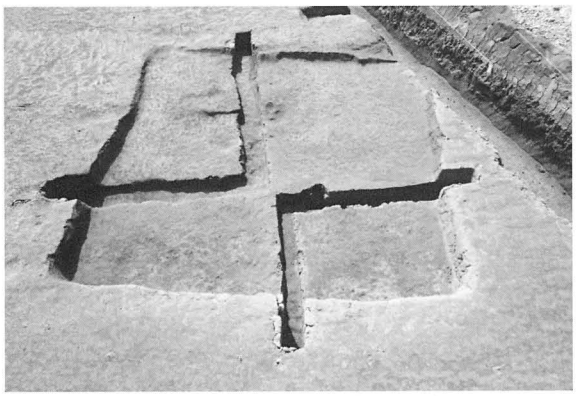
90.上田下遺跡周辺航空写真(昭和23年米軍撮影)

91.発掘体験学習

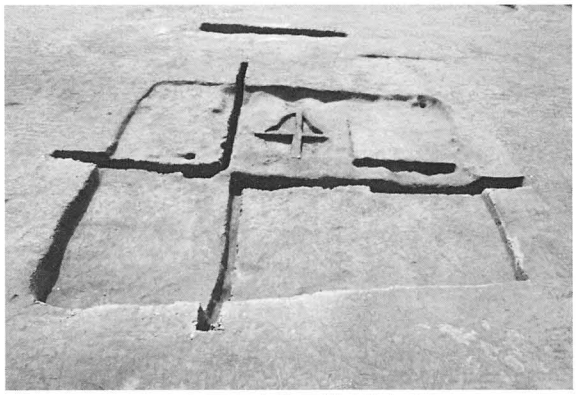
92.土壌篩い作業

93.1号集石遺構(北から)

94.2号集石遺構(北から)



95.1号竪穴住居跡(北から)

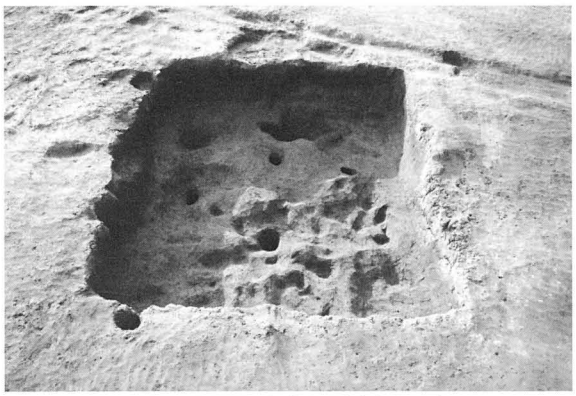


96.2号竪穴住居跡(北から)

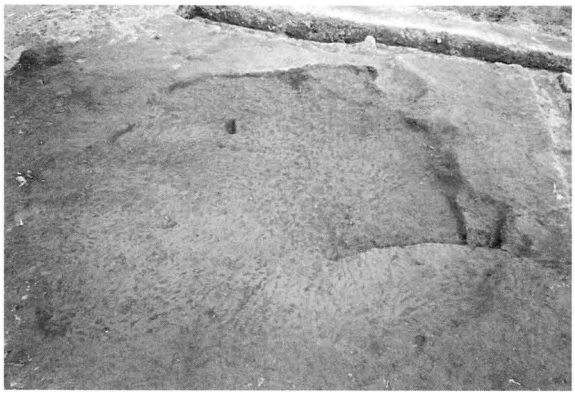
97.3号竪穴住居跡(南から)

98.4号竪穴住居跡(東から)

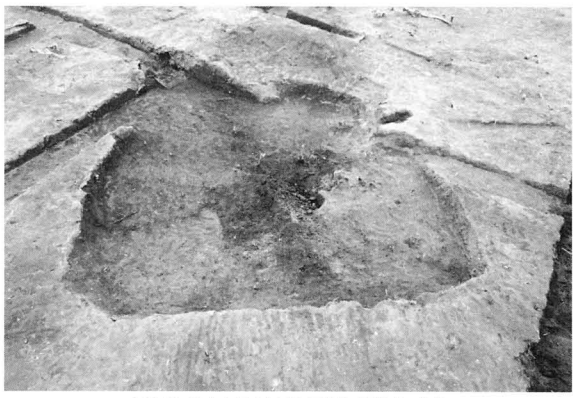
99.5号竪穴住居跡(東から)



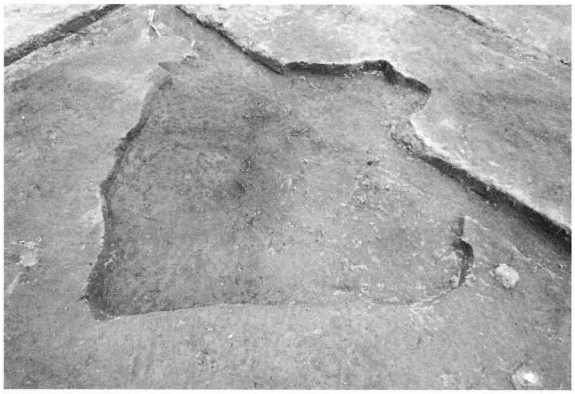
100.6号竪穴住居跡(東から)



101.7号竪穴住居跡(西から)



102.8号竪穴住居跡(東から)



103.9号竪穴住居跡(東から)

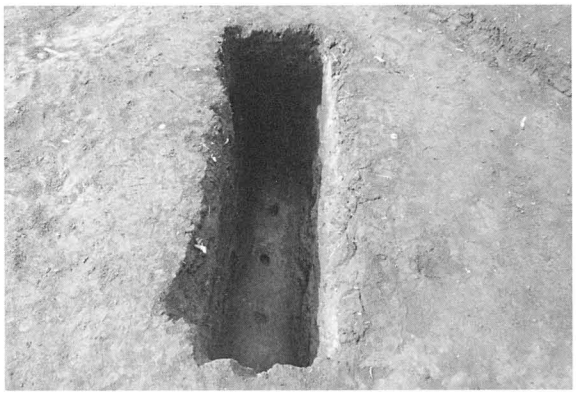
104.10号竪穴住居跡(西から)

105.1号土坑(北から)

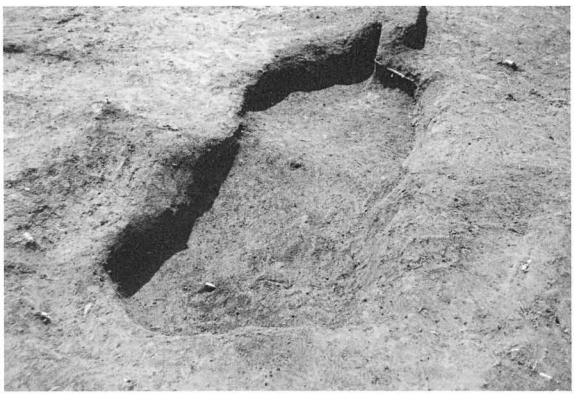
106.2号土坑(東から)

107.3号土坑(西から)

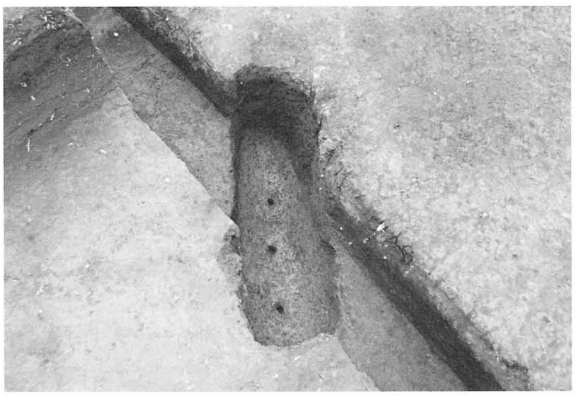
108.4号土坑(西から)



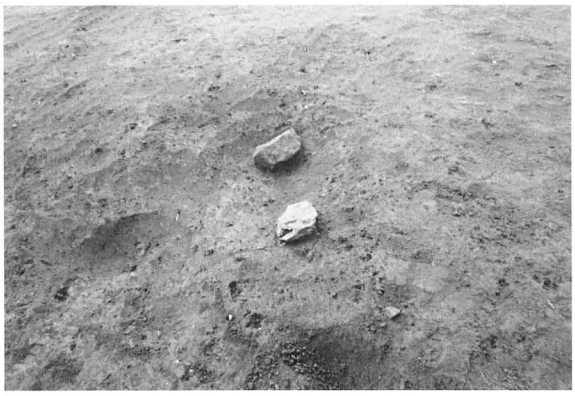
109.5号土坑(北東から)



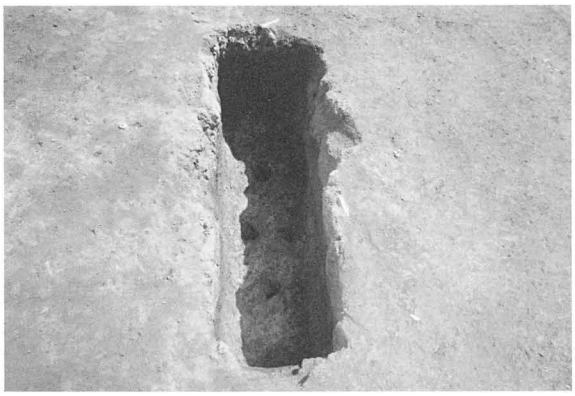
110.6号土坑(東から)



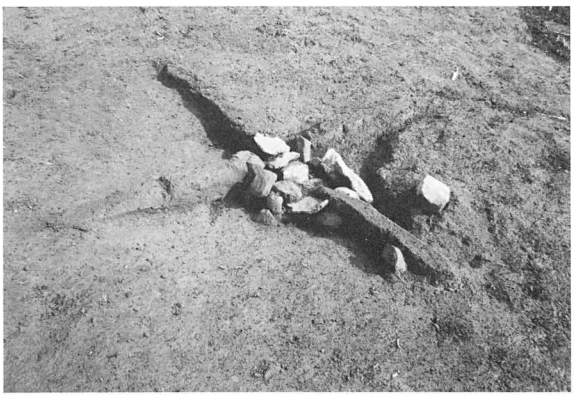
111.7号土坑(南西から)



112.8号土坑(東から)

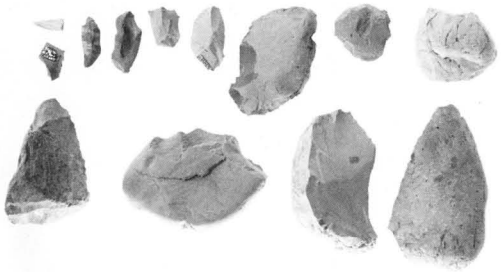


113.9号土坑(西から)

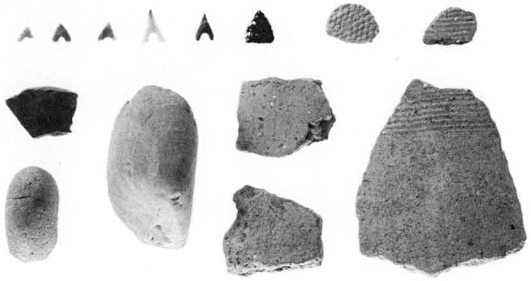


114.1号不明遺構(北東から)

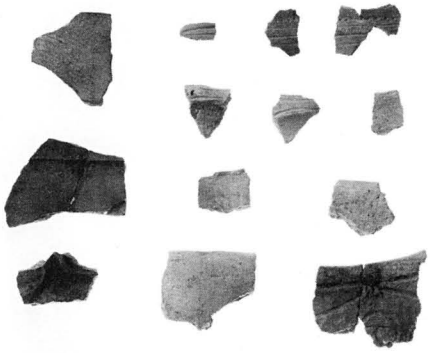
115.1号建物(北東から)



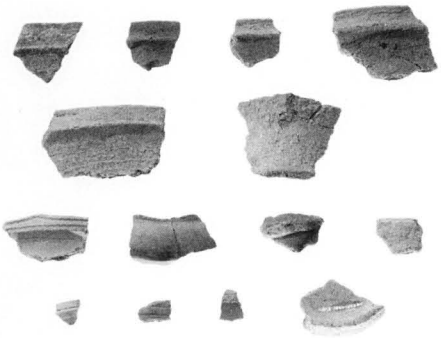
116.出土遺物(1～13)



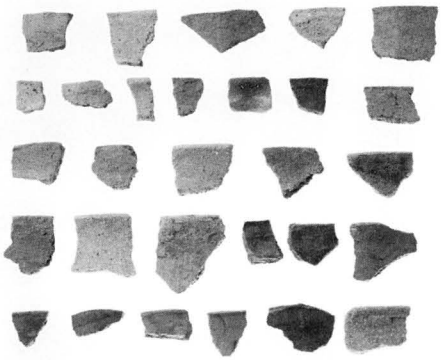
117.出土遺物(14～27)



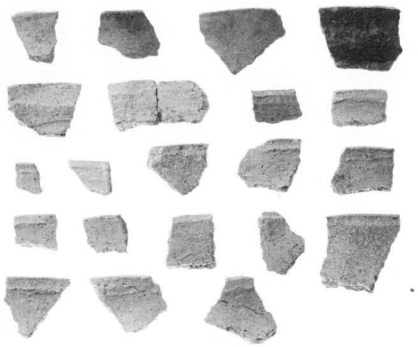
118.出土遺物(28～40)



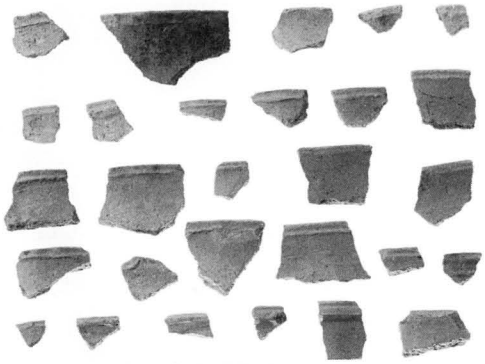
119.出土遺物(41～54)



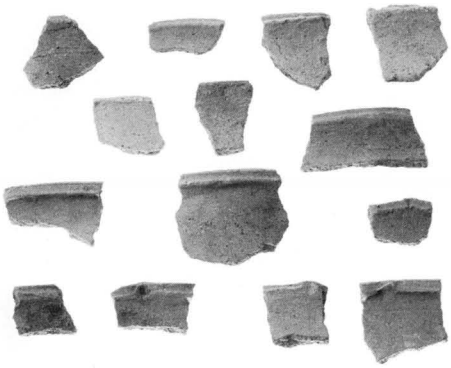
120.出土遺物(55～83)



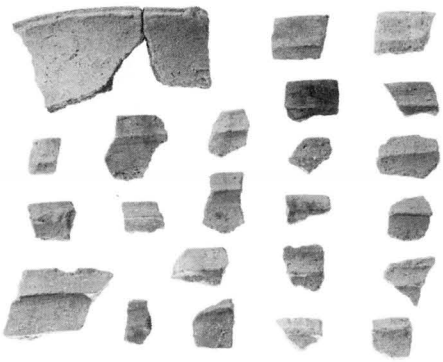
121.出土遺物(84～104)



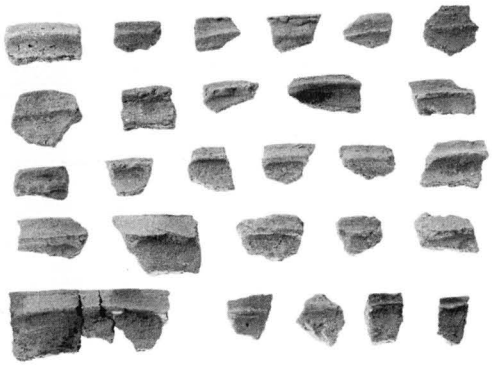
122.出土遺物(105～132)



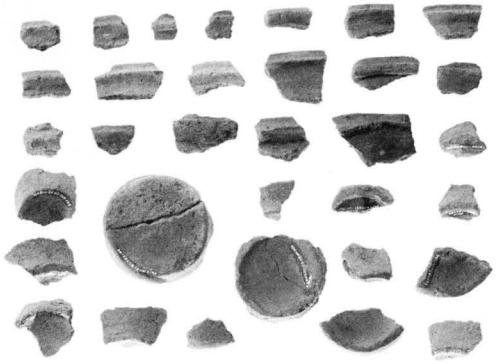
123.出土遺物(133～146)



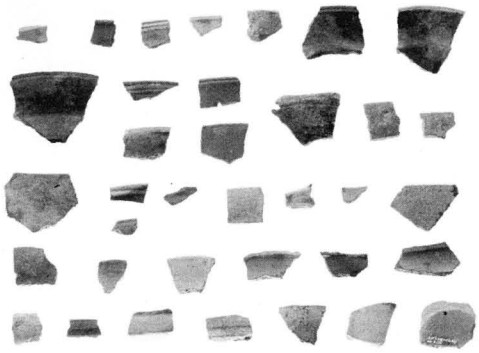
124.出土遺物(147～169)



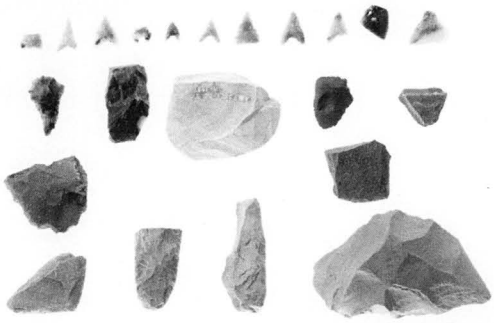
125.出土遺物(170～196)



126.出土遺物(197～229)

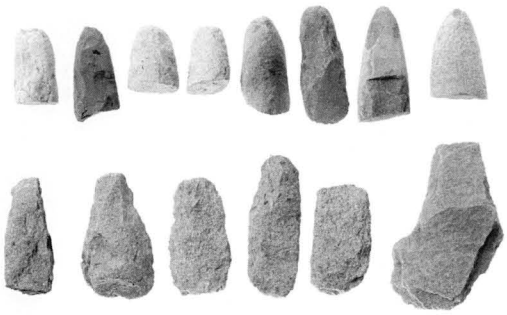


127.出土遺物(230～265)

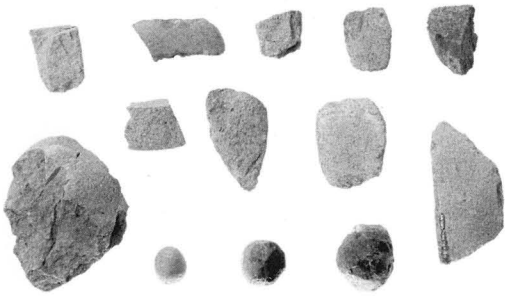


128.出土遺物(266～287)

129.出土遺物(288～300)

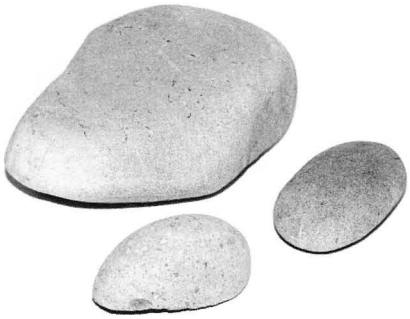


130.出土遺物(301～314)

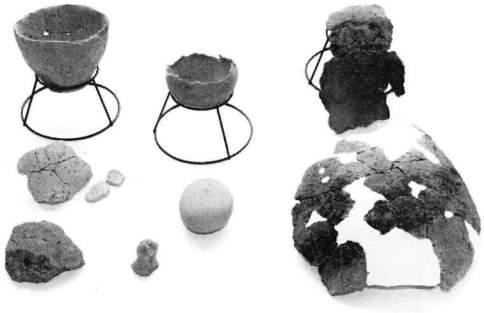


131.出土遺物(315～327)

132.出土遺物(328～343)



133.出土遺物(344～346)

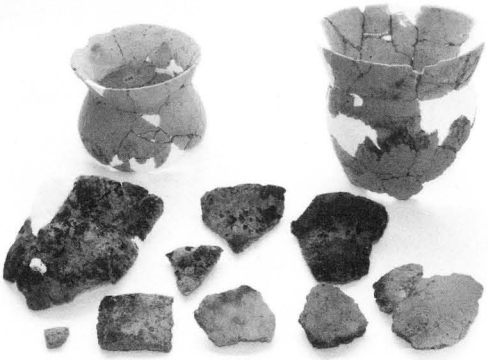


134.出土遺物(347～355)

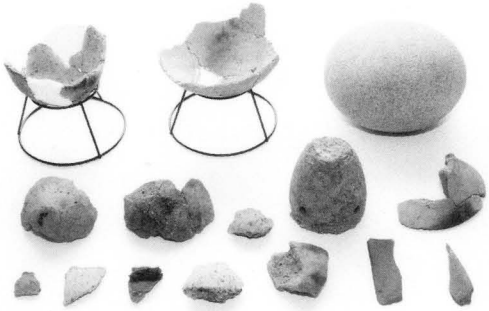
135.出土遺物(356～363)

136.出土遺物(365～377)

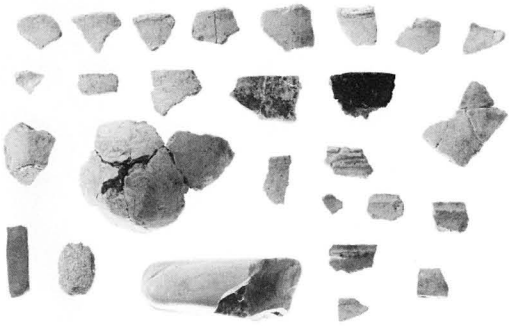
137.出土遺物(378～385)



138.出土遺物(394～402)



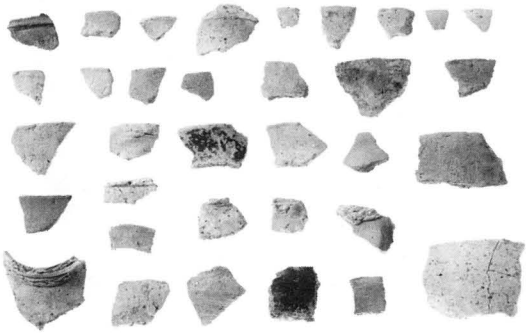
139.出土遺物(403～417)



140.出土遺物(422～448)

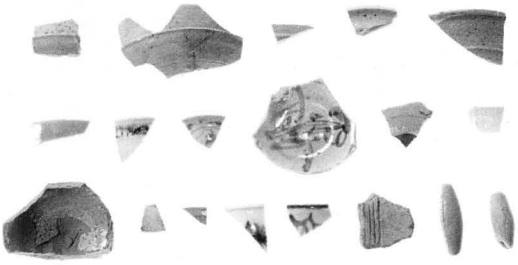
141.出土遺物(449～463)

142.出土遺物(464～478)

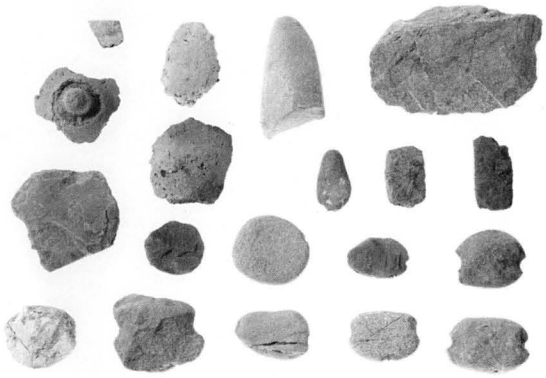


143.出土遺物(479～512)

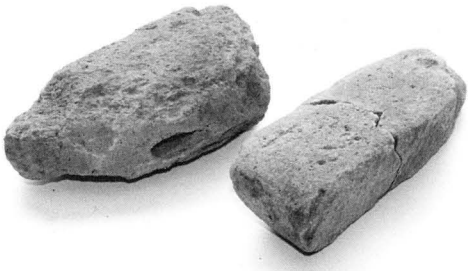
144.出土遺物(513～535)



145.出土遺物(536～554)



146.出土遺物(555～573)



147.出土遺物(574～575)

148.遺物出土状況(A区Ⅵ層:北から)

149.
上田下遺跡航空写真
（西側より）

150.
上田下遺跡２区
航空写真

151.
上田下遺跡３区
航空写真

152.
上田下遺跡４区
航空写真

Ⅲ．おわりに

今回の新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査では、台地上の１区で縄文時代早期の集石遺構２基、縄文時代晩期の土坑２基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡１０軒を検出した。また、時期は不明であるが、溝状遺構、土坑、柱穴、焼土集中部をアカホヤ層上面で検出した。土坑の中には、落とし穴と思われる機能を有す遺構が４例ある。底面に逆茂木痕と思われる小柱穴が３～４個（４個検出例は中央に２個並列する）並んで掘られている。粗製深鉢土器及び精製浅鉢土器片が出土した９号土坑以外は出土遺物がなく、時期特定はできない。

細長い谷部にあたる２区から４区では確認調査でチャート製の剥片や砂岩製の礫器が出土したが、本調査では例年以上の雨のために各区ともに面調査ではなくトレンチ調査を行った。調査の結果、土器片が若干出土したが、遺構の検出はなかった。磨耗している土器片もあり、上部からの流れ込みの可能性が強い。

遺物では、旧石器時代の石核や剥片、縄文時代早期及び後期・晩期の石器・土器が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯・打製石包丁・管玉・鉄鏃・須恵器等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土錘・石錘等も出土している。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、１－Ａ区以外では包含層からの出土遺物も少ない。竪穴住居跡内からも旧石器時代所産の遺物が出土している。一部 AT 層下位まで掘り下げたが、遺構・遺物の検出は無かった。蔵田遺跡や矢野原遺跡などの近接地域では AT 層が確認され、さらにその下位の層から遺物の出土例が増加している。堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想される。今後の開発行為には十分注意する必要がある。

縄文時代早期では、各区とも削平が進み良好な遺物包含層の残存状態がよくなかった。その中で、１－Ａ区の東側とＣ区の西側で遺物包含層を確認し、１－Ａ区では集石遺構を２基検出している。内１基では敷石が確認された。埋土中には焼けた礫も混じることなどから、周辺にはまだ多くの集石遺構の存在が予想される。遺物の量は多くはないが、押型文土器や貝殻円筒文土器、鍬形鏃、尖頭状石器等が出土した。前期や後期の遺構の検出はないが若干の遺物が晩期の包含層から出土している。

縄文時代晩期では、１－Ｃ区で削平を免れた西側でＶ層中より粗製深鉢土器を中心として精製浅鉢土器、扁平打製石斧等が比較的まとまって出土している。弥生時代から中・近世の遺物も混じっているが、１－Ｃ区で出土した縄文晩期の遺物量は、他の調査区に比べて圧倒的に多い。南に向かって緩やかに傾斜するくぼ地的環境も影響していると思われる。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると 50 例を超える。そのほとんどは、一辺が４～６ｍの規模であり、今回初めて一辺８ｍの住居跡を検出した。これまで、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例から想定された当地域における集落のあり方を再考する上でも興味深い調査例となった。

また、北方地区ではこれまで竪穴住居跡内からの鉄鏃や錐状鉄器等の出土例が少なく、貴重な調査事例となった。

中・近世と考えられる遺構では、溝状遺構があげられるが、各時代の遺物が混在しており特定は出来ない。また、底面に砂状粒子の堆積が認められず、外の機能（区画溝）の可能性もある。周辺には五輪塔などがあり、北東側には『かじやしき』の地名が残る場所がある。白磁八角小杯や青磁、肥前系陶磁器等から１５世紀中頃から１６世紀後半、１７世紀以降の年代に属する集落の可能性がある。遺物の量は多くはないが、今後周辺の開発事業には十分注意する必要がある。

報　告　書　抄　録

フリガナ	カミタシタイセキ
書名	上田下遺跡
副書名	平成21年度新最終処分場建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻　次	
シリーズ名	延岡市文化財報告書
シリーズ番号	第４４集
編集者名	小野信彦
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	平成２３年３月３１日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
カミタシタ 上田下遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033	６１	32° 34′ 53″	131° 30′ 48″	2009.8.27～ 2010.3.31	12,100	新最終処分場建設事業に伴う調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上田下遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	集石遺構２基 竪穴住居跡10軒 土坑９基	土器・石器 勾玉類・鉄器類 陶磁器等	一辺８ｍの大型住居の検出（１基） 落し穴状遺構の検出（４基）

上田下遺跡
延岡市文化財報告書
第44集
平成23年3月31日

発行　延岡市教育委員会
〒882-0811
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷　安井株式会社
〒889-0697
宮崎県東臼杵郡門川町大字加草2725番地